

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	10	
2年					
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2	13	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	14	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 閉講	1学期	2	2	
		2年			
	情報社会を読む INF200F 閉講	1学期	2	2	
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 閉講	2学期	2	2	
		2年			
■教養演習科目	教養演習AⅠ(防衛セミナー) GES201F 休講	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AⅠ(発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	15
		2年			
	教養演習AⅠ GES201F 休講(浅羽 修丈)	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AⅠ GES201F 未定	1学期	2	2	16
		2年			
	教養演習AⅠ GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習AⅡ(文化論セミナー) GES202F 休講(神原 ゆうこ)	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ(防衛セミナー) GES202F 休講	集中	2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ GES202F 休講(浅羽 修丈)	2学期	2	2	
	2年				
教養演習AⅡ GES202F 未定	2学期	2	2	18	
	2年				
教養演習AⅡ GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	19	
	2年				
教養演習BⅠ GES301F 閉講	1学期	3	2		
	3年				
教養演習BⅡ GES302F 閉講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	20
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	21
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 松本 亜紀 他	1学期	1	2	22
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	23
	1年				
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	24
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	25
	1年				
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
1年					
文化と表象 MCC001F 閉講	2学期	1	2		
1年					
言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2		
1年					
芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	26	
1年					
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
1年					
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	27	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	28
	1年				
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	29
	1年				
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	30
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	31
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	32
	1年				
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	33
	1年				
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	34
1年					
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	35	
1年					
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
1年					
現代社会と新聞ジャーナリズム 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正、外国語学部 中野博文	1学期	1	2		
1年					
都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	36	
1年					
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	37	
1年 (2015年度以降入学生)					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地域防災への招待 SSS001F 休講	1学期	1	2	1年 (2015年度以降入学生)	
	現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2		38
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	1年	39
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	1年	
	テロリズム論 PLS001F 閉講	1学期	1	2	1年	40
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	1年	
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	1年	41
	韓国の社会と文化 ARE010F 休講	2学期	1	2	1年	
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2	1年	42
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	1年	43
	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	1年	
	戦後の日本経済 ECN002F 閉講	2学期	1	2	1年	44
	ものと人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	1年	
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	1年	45

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ヨ一口ツバ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	42
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	43
	1年				
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	44
	1年				
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	45
	1年				
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	46
	1年				
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	47
	1年				
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	2学期	1	2	48
	1年				
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	2学期	1	2	49
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	50
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	51
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	52
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	53
	1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	54	
1年					
フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	55	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	56
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	57
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	58
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	59
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	60
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	61
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	62
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	63
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	64
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	65	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	66	
1年					
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	67	
1年					
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	68	
1年					
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 仲里 清	2学期	1	1	69	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	70
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	71
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	72
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	73
	1年				
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	74
	2年				
プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	75	
2年					
地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2		
2年					
サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	76	
1年					
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	77	
1年					
プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2		
2年					
プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2		
2年					
プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2		
3年					
プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期	1	2	78
	1年				
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 大平 剛	1学期	1	2	78
	1年				
	教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2	78
	1年				
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2	78
	1年				
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	79
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	80
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	81
	2年 (2016年度以降入学生)				
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	82
	2年 (2016年度以降入学生)				
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	83
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	84	
3年 (2016年度以降入学生)					
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	78
	2年				
	情報メディア演習 INF330F 閉講	1学期	3	2	78
	3年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (済営 1-I) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	85
	済営 1-I				
	英語I (済営 1-J) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	86
	済営 1-J				
	英語II (済営 1-I) ENG111F 十時 康	2学期	1	1	87
	済営 1-I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (済営 1 - J) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	88
		済営 1 - J			
	英語III (済営 1 - I) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	89
		済営 1 - I			
	英語III (済営 1 - J) ENG102F クリステイン・マイスター	1学期	1	1	90
		済営 1 - J			
	英語IV (済営 1 - I) ENG112F タッド・ジェイ・レオナルド	2学期	1	1	91
		済営 1 - I			
	英語IV (済営 1 - J) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	92
		済営 1 - J			
	英語V (済営 2 - G) ENG201F 薬師寺 元子	1学期	2	1	93
		済営 2 - G			
	英語V (済営 2 - H) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	94
		済営 2 - H			
	英語VI (済営 2 - G) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	95
		済営 2 - G			
	英語VI (済営 2 - H) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	96
		済営 2 - H			
	英語VII (済営 2 - G) ENG202F マイケル・バーグ	1学期	2	1	97
		済営 2 - G			
英語VII (済営 2 - H) ENG202F クリステイン・マイスター	1学期	2	1	98	
	済営 2 - H				
英語VIII (済営 2 - G) ENG212F 團迫 雅彦	2学期	2	1	99	
	済営 2 - G				
英語VIII (済営 2 - H) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	100	
	済営 2 - H				
英語IX (英中国済営比人律政 3 年) ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	101	
	英中国済営比人律政 3 年				
英語X (英中国済営比人律政 3 年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	102	
	英中国済営比人律政 3 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語XI (英中国済営比人律政3年) ENG302F ロバート・マーフィ	1学期	3	1	103
		英中国済営比人律政3年			
	英語XII (英中国済営比人律政3年) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	104
		英中国済営比人律政3年			
■第二外国語	中国語I (1-a) CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	105
		済営人律政群1年			
	中国語I (1-b) CHN101F 板谷 俊生	1学期	1	1	106
		済営人律政群1年			
	中国語II (1-a) CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	107
		済営人律政群1年			
	中国語II (1-b) CHN111F 板谷 俊生	2学期	1	1	108
		済営人律政群1年			
	中国語III (1-a) CHN102F 艾文婷	1学期	1	1	109
		済営人律政群1年			
	中国語III (1-b) CHN102F 于 佳	1学期	1	1	110
		済営人律政群1年			
	中国語IV (1-a) CHN112F 艾文婷	2学期	1	1	111
		済営人律政群1年			
	中国語IV (1-b) CHN112F 于 佳	2学期	1	1	112
		済営人律政群1年			
中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	113	
	英済営人律政群2年				
中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	114	
	英済営人律政群2年				
中国語VII CHN202F 黄 健	1学期	2	1	115	
	英済営人律政群2年				
中国語VIII CHN212F 黄 健	2学期	2	1	116	
	英済営人律政群2年				
上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	117	
	英国済営比人3年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級中国語II		2学期	3	1	118
	CHN311F	唐 雱	英国済営比人3年			
	上級中国語III		1学期	3	1	119
	CHN302F	王 晨	英国済営比人3年			
	上級中国語IV		2学期	3	1	120
	CHN312F	王 晨	英国済営比人3年			
	朝鮮語I (1 - a)		1学期	1	1	121
	KRN101F	吳 香善	済営律政群1年			
	朝鮮語I (1 - b)		1学期	1	1	122
	KRN101F	金 光子	済営律政群1年			
	朝鮮語II (1 - a)		2学期	1	1	123
	KRN111F	吳 香善	済営律政群1年			
	朝鮮語II (1 - b)		2学期	1	1	124
	KRN111F	金 光子	済営律政群1年			
	朝鮮語III (1 - a)		1学期	1	1	125
	KRN102F	金 光子	済営律政群1年			
	朝鮮語III (1 - b)		1学期	1	1	126
	KRN102F	崔 相振	済営律政群1年			
	朝鮮語IV (1 - a)		2学期	1	1	127
	KRN112F	金 光子	済営律政群1年			
朝鮮語IV (1 - b)		2学期	1	1	128	
KRN112F	吳 珠熙	済営律政群1年				
朝鮮語V		1学期	2	1	129	
KRN201F	安 濬珠	済営比人律政群2年				
朝鮮語VI		2学期	2	1	130	
KRN211F	安 濬珠	済営比人律政群2年				
朝鮮語VII		1学期	2	1	131	
KRN202F	安 濬珠	済営比人律政群2年				
朝鮮語VIII		2学期	2	1	132	
KRN212F	安 濬珠	済営比人律政群2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語I KRN301F 安 濤珠	1学期	3	1	133
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 安 濤珠	2学期	3	1	134
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語III KRN302F 金 貞愛	1学期	3	1	135
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語IV KRN312F 金 光子	2学期	3	1	136
		英中国済営比人3年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	137
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	138
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	139
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	140
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	141
		英中国済営比人律政2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	142
		英中国済営比人律政2年			
ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	143	
	英中国済営比人律政2年				
ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	144	
	英中国済営比人律政2年				
ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	145	
	済営人律政1年				
ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	146	
	済営人律政1年				
ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	147	
	済営人律政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語Ⅳ GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	148
		済営人律政 1年			
	ドイツ語Ⅴ GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	149
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅵ GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	150
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅶ GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	151
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅷ GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	152
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語Ⅰ FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	153
		済営人律政 1年			
	フランス語Ⅱ FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	154
		済営人律政 1年			
	フランス語Ⅲ FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	155
		済営人律政 1年			
	フランス語Ⅳ FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	156
		済営人律政 1年			
	フランス語Ⅴ FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	157
		英中国済営比人律政 2年			
フランス語Ⅵ FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	158	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語Ⅶ FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	159	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語Ⅷ FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	160	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語Ⅰ SPN101F 富田 広樹	1学期	1	1	161	
	済営比律政 1年				
スペイン語Ⅰ SPN101F 野村 明衣	1学期	1	1	162	
	中国済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語II SPN111F 富田 広樹	2学期	1	1	163
		済営比律政 1年			
	スペイン語II SPN111F 野村 明衣	2学期	1	1	164
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	165
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	166
		中国済営人律政 1年			
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	167	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	168	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	169	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	170	
	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	171
		留学生 1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	172
		留学生 1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	173
		留学生 1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	174
	留学生 1年				
日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	175	
	留学生 1年				
日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	176	
	留学生 1年				
日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	177	
	留学生 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	178
		留学生 2 年			
	日本事情 (人文) A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	179
		留学生 1 年			
	日本事情 (人文) B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	180
		留学生 1 年			
	日本事情 (社会) A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	181
		留学生 1 年			
	日本事情 (社会) B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	182
		留学生 1 年			
■専門教育科目 ■専門基本科目	数学 MTH100M 久保 宏和	1学期	1	2	183
		1年(再履修のみ)			
	入門演習 SEM110M 牛房 義明	1学期	1	2	184
		1年			
	入門演習 SEM110M 田村 大樹	1学期	1	2	185
		1年			
	入門演習 SEM110M 藤井 敦	1学期	1	2	186
		1年			
	入門演習 SEM110M 後藤 尚久	1学期	1	2	187
		1年			
	入門演習 SEM110M 前林 紀孝	1学期	1	2	188
		1年			
	入門演習 SEM110M 土井 徹平	1学期	1	2	189
		1年			
入門演習 SEM110M 畔津 憲司	1学期	1	2	190	
	1年				
入門演習 SEM110M 前田 淳	1学期	1	2	191	
	1年				
基礎演習 SEM210M 後藤 宇生	1学期	2	2	192	
	2年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	基礎演習		1学期	2	2	193
	SEM210M	田村 大樹	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	194
	SEM210M	藤井 敦	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	195
	SEM210M	朱 乙文	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	196
	SEM210M	前林 紀孝	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	197
	SEM210M	土井 徹平	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	198
	SEM210M	畔津 憲司	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	199
	SEM210M	魏 芳	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	200
	SEM210M	柳井 雅人	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	
	SEM210M	休講	2年			
	基礎演習		1学期	2	2	
	SEM210M	休講	2年			
専門演習I		1学期	3	2	201	
SEM311M	牛房 義明	3年				
専門演習I		1学期	3	2		
SEM311M	休講	3年				
専門演習I		1学期	3	2		
SEM311M	休講	3年				
専門演習I		1学期	3	2	202	
SEM311M	後藤 宇生	3年				
専門演習I		1学期	3	2		
SEM311M	休講	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	担当者		備考			
■専門教育科目 ■専門基本科目	専門演習I SEM311M	1学期	3	2	203	
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	田中 淳平	1学期	3	2	204
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	田村 大樹	1学期	3	2	205
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	林田 実	1学期	3	2	206
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	藤井 敦	1学期	3	2	207
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	前田 淳	1学期	3	2	208
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	松永 裕己	1学期	3	2	209
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	魏 芳	1学期	3	2	210
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	土井 徹平	1学期	3	2	211
	休講	3年				
	専門演習I SEM311M	前林 紀孝	1学期	3	2	212
	休講	3年				
専門演習I SEM311M	柳井 雅人	1学期	3	2	213	
休講	3年					
専門演習I SEM311M	畔津 憲司	1学期	3	2	214	
休講	3年					
専門演習II SEM312M	牛房 義明	2学期	3	2	214	
休講	3年					
専門演習II SEM312M	休講	2学期	3	2	214	
休講	3年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	専門演習II	2学期	3	2	
	SEM312M 休講	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	215
	SEM312M 後藤 宇生	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	216
	SEM312M 朱 乙文	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	
	SEM312M 休講	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	217
	SEM312M 田中 淳平	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	218
	SEM312M 田村 大樹	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	219
	SEM312M 林田 実	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	220
	SEM312M 藤井 敦	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	221
	SEM312M 前田 淳	3年			
	専門演習II	2学期	3	2	222
	SEM312M 松永 裕己	3年			
専門演習II	2学期	3	2	223	
SEM312M 魏 芳	3年				
専門演習II	2学期	3	2	224	
SEM312M 土井 徹平	3年				
専門演習II	2学期	3	2	225	
SEM312M 前林 紀孝	3年				
専門演習II	2学期	3	2	226	
SEM312M 柳井 雅人	3年				
専門演習II	2学期	3	2	227	
SEM312M 畔津 憲司	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基本科目	専門演習II SEM312M 休講	2学期	3	2	
			3年		
	卒業研究A SEM411M 牛房 義明	1学期	4	2	228
			4年		
	卒業研究A SEM411M 城戸 宏史	1学期	4	2	229
			4年		
	卒業研究A SEM411M 武田 寛	1学期	4	2	230
			4年		
	卒業研究A SEM411M 後藤 宇生	1学期	4	2	231
			4年		
	卒業研究A SEM411M 後藤 尚久	1学期	4	2	232
			4年		
	卒業研究A SEM411M 朱 乙文	1学期	4	2	233
			4年		
	卒業研究A SEM411M 田中 淳平	1学期	4	2	234
			4年		
	卒業研究A SEM411M 田村 大樹	1学期	4	2	235
			4年		
	卒業研究A SEM411M 林田 実	1学期	4	2	236
			4年		
卒業研究A SEM411M 藤井 敦	1学期	4	2	237	
		4年			
卒業研究A SEM411M 前田 淳	1学期	4	2	238	
		4年			
卒業研究A SEM411M 松永 裕己	1学期	4	2	239	
		4年			
卒業研究A SEM411M 魏 芳	1学期	4	2	240	
		4年			
卒業研究A SEM411M 土井 徹平	1学期	4	2	241	
		4年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	卒業研究A	1学期	4	2	242
	SEM411M 前林 紀孝	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	243
	SEM411M 柳井 雅人	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	244
	SEM411M 畔津 憲司	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	
	SEM411M 休講	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	245
	SEM412M 牛房 義明	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	246
	SEM412M 城戸 宏史	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	247
	SEM412M 武田 寛	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	248
	SEM412M 後藤 宇生	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	249
	SEM412M 後藤 尚久	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	250
	SEM412M 朱 乙文	4年			
卒業研究B	2学期	4	2	251	
SEM412M 田中 淳平	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	252	
SEM412M 田村 大樹	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	253	
SEM412M 林田 実	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	254	
SEM412M 藤井 敦	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	255	
SEM412M 前田 淳	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	卒業研究B SEM412M 松永 裕己	2学期	4	2	256
		4年			
	卒業研究B SEM412M 魏 芳	2学期	4	2	257
		4年			
	卒業研究B SEM412M 土井 徹平	2学期	4	2	258
		4年			
	卒業研究B SEM412M 前林 紀孝	2学期	4	2	259
		4年			
	卒業研究B SEM412M 柳井 雅人	2学期	4	2	260
		4年			
	卒業研究B SEM412M 畔津 憲司	2学期	4	2	261
		4年			
	卒業研究B SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
	情報科学入門 INF100M 三宅 芳博	2学期	1	2	262
		1年			
簿記論II ACC111M 休講		1	2		
	1年				
現代日本経済入門A ECN150M 柳井 雅人	1学期	1	2	263	
	1年				
現代日本経済入門B ECN151M 前田 淳	2学期	1	2	264	
	1年				
実証経済分析 ECN231M 藤井 敦	1学期	2	2	265	
	2年				
計量経済学 ECN232M 藤井 敦	2学期	2	2	266	
	2年				
プログラミング INF211M 渡邊 朝子	2学期	2	2	267	
	2年				
日本経済史I ECN220M 土井 徹平	1学期	2	2	268	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	日本経済史II ECN221M 土井 徹平	2学期	2	2	269
	2年				
	西洋経済史 ECN223M 山崎 勇治	1学期	3	2	270
	3年				
	アジア経済史 ECN224M 山崎 勇治	2学期	3	2	271
	3年				
	経済学史 ECN222M 村田 和博	1学期	3	2	272
	3年				
	業界研究I CAR310M 前田 淳	1学期	3	2	273
	3年				
	業界研究II CAR380M 山下 剛	集中	3	2	274
	3年				
	外書講読 ECN390M 山崎 好裕	2学期	3	2	275
	3年				
	ビジネス英語 A (選抜クラス) ENG331M マーニー・セイティ	1学期	3	2	276
	3年選抜クラス				
	ビジネス英語 A ENG331M マーニー・セイティ	1学期	3	2	277
	3年				
ビジネス英語 A ENG331M 林 裕二	1学期	3	2	278	
3年					
ビジネス英語 B (選抜クラス) ENG332M マーニー・セイティ	2学期	3	2	279	
3年選抜クラス					
ビジネス英語 B ENG332M マーニー・セイティ	2学期	3	2	280	
3年					
ビジネス英語 B ENG332M 林 裕二	2学期	3	2	281	
3年					
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I ECN260M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	金融論II ECN261M 休講	2学期	2	2	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期	2	2	282
	2年				
	国際経済論II ECN241M 魏 芳	2学期	2	2	283
	2年				
	公共経済学 ECN262M 牛房 義明	1学期	2	2	284
	2年				
	ファイナンス論 ECN360M 武田 寛	2学期	3	2	285
	3年				
	環境経済学 ECN340M 休講	2学期	3	2	
	3年				
	財政学I ECN361M 前林 紀孝	1学期	3	2	286
	3年				
	財政学II ECN362M 前林 紀孝	2学期	3	2	287
	3年				
	産業組織論I ECN341M 佐藤 隆	1学期	3	2	288
	3年				
	産業組織論II ECN342M 佐藤 隆	2学期	3	2	289
	3年				
	労働経済学I ECN343M 畔津 憲司	1学期	3	2	290
	3年				
労働経済学II ECN344M 畔津 憲司	2学期	3	2	291	
3年					
国際貿易論I ECN345M 水戸 康夫	1学期	3	2	292	
3年					
国際貿易論II ECN346M 水戸 康夫	2学期	3	2	293	
3年					
国際金融論I ECN363M 休講	1学期	3	2		
3年					
国際金融論II ECN364M 休講	2学期	3	2		
3年					

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際マクロ経済学I	1学期	3	2	294
	ECN310M 末永 勝昭	3年			
	国際マクロ経済学II	2学期	3	2	295
	ECN311M 末永 勝昭	3年			
■地域経済学系	経済地理学I	1学期	2	2	
	ECN242M 休講	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	
	ECN243M 休講	2年			
	地域経済I	1学期	2	2	296
	ECN244M 田村 大樹	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	297
	ECN245M 田村 大樹	2年			
	地域政策	2学期	2	2	298
	ECN250M 松永 裕己	2年			
	北九州経済分析I	1学期	2	2	299
	ECN251M 城戸 宏史	2年			
	北九州経済分析II	2学期	2	2	300
	ECN252M 城戸 宏史	2年			
	地方財政論	1学期	3	2	301
	ECN365M 難波 利光	3年			
中国経済		3	2		
ECN350M 休講	3年				
アメリカ経済	2学期	3	2	302	
ECN351M 山崎 好裕	3年				
東アジア経済論	2学期	3	2	303	
ECN352M 柳 学洙	3年				
■選択科目B	経営学入門	1学期	1	2	304
	BUS100M 丸子 敬仁	1年Aグループ			
	経営学入門	1学期	1	2	305
	BUS100M 丸子 敬仁	1年Bグループ			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	企業論基礎	2学期	1	2	306
	BUS110M 葉 聡明	1年			
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	307
	BUS111M 浦野 恭平	1年			
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	
	BUS111M 閉講	1年			
	経営組織論	1学期	2	2	308
	BUS212M 山下 剛	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	309
	BUS213M 浦野 恭平	2年			
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	310
	BUS214M 鄭 義哲	2年			
	企業ファイナンスII	2学期	2	2	311
	BUS215M 鄭 義哲	2年			
	マーケティングI	1学期	2	2	312
	BUS230M 柳 純	2年			
	マーケティングII	2学期	2	2	313
	BUS231M 柳 純	2年			
	企業論I	1学期	2	2	314
	BUS210M 久多里 桐子	2年			
企業論II	2学期	2	2	315	
BUS211M 新田町 尚人	2年				
人的資源管理論	1学期	3	2	316	
BUS310M 丸子 敬仁	3年				
中小企業論	1学期	3	2	317	
BUS313M 吉村 英俊	3年				
国際経営	1学期	3	2	318	
BUS311M 王 効平	3年				
地域企業分析	2学期	3	2	319	
BUS400M 浦野 恭平	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目B	コンピュータシステム	1学期	2	2	320
	INF220M 渡邊 朝子	2年			
	オペレーションズ・マネジメント	1学期	2	2	321
	INF200M 齋藤 朗宏	2年			
	データ構造	2学期	2	2	322
	INF231M 隈本 覚	2年			
	データベース	1学期	2	2	323
	INF232M 池田 欽一	2年			
	Webプログラミング	2学期	2	2	324
	INF212M 池田 欽一	2年			
	企業データ分析	1学期	3	2	325
	INF341M 齋藤 朗宏	3年			
	企業データ分析	1学期	3	2	325
	INF341M 休講	3年			
	システム分析	1学期	3	2	326
	INF340M 平山 克己	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	327
	INF320M 三宅 芳博	3年			
	システム設計	2学期	3	2	328
	INF420M 平山 克己	3年			
簿記論III	1学期	2	2	329	
ACC210M 白石 和孝	2年				
工業簿記	集中	2	2	330	
ACC211M 加藤 典生	2年				
原価計算論I	1学期	2	2	331	
ACC212M 市原 勇一	2年				
原価計算論II	2学期	2	2	332	
ACC213M 市原 勇一	2年				
財務会計論I	1学期	2	2	333	
ACC214M 西澤 健次	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	財務会計論II ACC215M 西澤 健次	2学期	2	2	334
		2年			
	経済学特殊講義A ECN301M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	経済学特殊講義B ECN302M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	経営学特殊講義A BUS390M 工藤 一成	1学期	3	2	
		3年			
	経営学特殊講義B BUS391M 松田 憲	2学期	3	2	335
		3年			
	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	336
		1年			
	地方自治法 LAW223M 休講	1学期(ペア)	3	4	
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 岡本 博志	2学期	3	2	337
		3年			
	労使関係法 LAW241M 岡本 舞子	2学期	2	2	338
		2年			
	雇用関係法 LAW240M 岡本 舞子	1学期	2	2	339
		2年			
社会サービス法 LAW242M 津田 小百合	2学期	2	2	340	
	2年				
環境法 LAW342M 鬼塚 知	1学期	3	2	341	
	3年				
独占禁止法 LAW340M 諏佐 マリ	集中	3	2	342	
	3年				
民法総則 LAW160M 丸山 愛博	2学期(ペア)	1	4	343	
	1年				
企業活動と法 LAW273M 今泉 恵子	1学期	2	2	344	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	会社法I	1学期	3	2	
	LAW270M 休講	3年			
	会社法II	2学期	3	2	
	LAW271M 休講	3年			
	国際法I	1学期	2	2	345
	LAW250M 二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	346
	LAW251M 二宮 正人	2年			
	福祉国家論	2学期	1	2	347
	PLC112M 狭間 直樹	1年			
	都市経済論	2学期	1	2	348
	PLC113M 田代 洋久	1年			
	地方自治論	1学期	2	2	349
	PAD211M 森 裕亮	2年			
	公共政策論	1学期	2	2	350
	PLC211M 楢原 真二	2年			
	政治過程論	2学期	2	2	351
	PLS210M 上條 諒貴	2年			
	自治体政策研究	2学期	2	2	352
	PLC214M 楢原 真二	2年			
政治学	1学期	2	2	353	
PLS100M 上條 諒貴	2年				
地方行政改革論	2学期	2	2	354	
PAD310M 森 裕亮	2年				
途上国開発論	1学期	2	2	355	
PLC215M 三宅 博之	2年				
都市政策論	1学期	3	2	356	
PLC219M 田代 洋久	3年				
環境政策論	2学期	3	2	357	
PLC216M 申 東愛	3年				

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	東南アジアの政治と外交	2学期	3	2	358
	ARE216M 篠崎 香織	3年			
	ビジネス英語研究	2学期	3	2	359
	ENG232M ブルック 前田	3年			
	Advanced English I	1学期	4	2	360
	ENG353M デニス・ジョーンズ	4年			
	Advanced English II	2学期	4	2	361
	ENG354M デニス・ジョーンズ	4年			
	倫理学	2学期	2	2	362
	PHR210M 清水 満	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	363
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	364
		1年			
	国際学入門 IRL100F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	365
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	366
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	367
		1年			
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	368	
	1年				
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	369	
	1年				
可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期	2	2		
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	370	
	2年				
共生社会論 SOW200F 閉講	2学期	2	2		
	2年				
戦争論 PLS210F 休講	2学期	2	2		
	2年				
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	371
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	372
		1年			
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講		1	2	
		1年			
	障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	373	
	1年				
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	374	
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	375	
	1年				
開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2		
	1年				

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	376
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	377
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	378
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	379
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	380
		1年			
そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	381	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	382	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	383	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	376
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	377
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	378
		1年			
フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	379	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	379
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	380
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	数学		1	2	
	MTH100M 休講	1年(再履修のみ)			
	統計学I	2学期	1	2	380
	ECN130M 林田 実	1年(再履修)			
	統計学II	1学期	2	2	381
	ECN230M 藤井 敦	2年(再履修)			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	382
	ECN112M 朱 乙文	1年(再履修)			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	383
	ECN210M 朱 乙文	2年(再履修)			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	384
	ECN113M 田中 淳平	1年(再履修)			
	マクロ経済学II	1学期	2	2	385
	ECN211M 田中 淳平	2年(再履修)			
	入門演習		1	2	
	SEM110M 閉講	1年			
	基礎演習		2	2	
	SEM210M 閉講	2年			
	専門演習I		3	2	
	SEM311M 閉講	3年			
専門演習II		3	2		
SEM312M 閉講	3年				
卒業研究A		4	2		
SEM411M 閉講	4年				
卒業研究B		4	2		
SEM412M 閉講	4年				
経済学入門A	1学期	1	2	386	
ECN110M 魏 芳	1年				
経済学入門B	1学期	1	2	387	
ECN111M 畔津 憲司	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	情報科学入門	2学期	1	2	388
	INF100M 三宅 芳博	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	389
	ACC110M 岡部 勝成	1年			
	簿記論II	2学期	1	2	
	ACC111M 休講	1年			
	現代日本経済入門A		1	2	
	ECN150M 昼のみ開講	1年			
	現代日本経済入門B		1	2	
	ECN151M 昼のみ開講	1年			
	実証経済分析		2	2	
	ECN231M 閉講	2年			
	計量経済学		2	2	
	ECN232M 閉講	2年			
	プログラミング		2	2	
	INF211M 閉講	2年			
	日本経済史I		2	2	
	ECN220M 閉講	2年			
	日本経済史II		2	2	
	ECN221M 閉講	2年			
西洋経済史		3	2		
ECN223M 閉講	3年				
アジア経済史		3	2		
ECN224M 閉講	3年				
経済学史		3	2		
ECN222M 閉講	3年				
業界研究I		3	2		
CAR310M 閉講	3年				
業界研究II		3	2		
CAR380M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	外書講読		3	2	
	ECN390M 閉講	3年			
	ビジネス英語 A		3	2	
	ENG331M 休講	3年			
	ビジネス英語 B		3	2	
	ENG332M 休講	3年			
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I	1学期	2	2	390
	ECN260M 後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	391
	ECN261M 後藤 尚久	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	
	ECN240M 休講	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	
	ECN241M 休講	2年			
	公共経済学		2	2	
	ECN262M 閉講	2年			
	ファイナンス論		3	2	
	ECN360M 閉講	3年			
	環境経済学	2学期	3	2	392
	ECN340M 牛房 義明	3年			
	財政学I	1学期	3	2	
	ECN361M 休講	3年			
	財政学II	2学期	3	2	
	ECN362M 休講	3年			
	産業組織論I		3	2	
	ECN341M 閉講	3年			
産業組織論II		3	2		
ECN342M 閉講	3年				
労働経済学I		3	2		
ECN343M 昼のみ開講	3年				

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	労働経済学II		3	2		
	ECN344M 昼のみ開講	3年				
	国際貿易論I		3	2		
	ECN345M 閉講	3年				
	国際貿易論II		3	2		
	ECN346M 閉講	3年				
	国際金融論I		1学期	3	2	393
ECN363M 前田 淳	3年					
国際金融論II		2学期	3	2	394	
ECN364M 前田 淳	3年					
国際マクロ経済学I			3	2		
ECN310M 閉講	3年					
国際マクロ経済学II			3	2		
ECN311M 閉講	3年					
■地域経済学系	経済地理学I		1学期	2	2	395
	ECN242M 柳井 雅人	2年				
	経済地理学II		2学期	2	2	396
	ECN243M 柳井 雅人	2年				
	地域経済I		1学期	2	2	
	ECN244M 休講	2年				
	地域経済II		2学期	2	2	
	ECN245M 休講	2年				
	地域政策			2	2	
	ECN250M 休講	2年				
北九州経済分析I			2	2		
ECN251M 昼のみ開講	2年					
北九州経済分析II			2	2		
ECN252M 昼のみ開講	2年					
地方財政論			3	2		
ECN365M 昼のみ開講	3年					

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	中国経済 ECN350M 園 康寿	1学期	3	2	397
	3年				
	アメリカ経済 ECN351M 閉講		3	2	
	3年				
■選択科目B	経営学入門 BUS100M 閉講		1	2	
	1年				
	企業論基礎 BUS110M 内田 交謹	2学期	1	2	398
	1年				
	マネジメント論基礎 BUS111M 岸野 早希	2学期	1	2	399
	1年				
	経営組織論 BUS212M 休講		2	2	
	2年				
	経営戦略論 BUS213M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	企業ファイナンスI BUS214M 休講		2	2	
	2年				
	企業ファイナンスII BUS215M 休講		2	2	
	2年				
	マーケティングI BUS230M 閉講		2	2	
	2年				
	マーケティングII BUS231M 昼のみ開講		2	2	
	2年				
	企業論I BUS210M 昼のみ開講		2	2	
	2年				
	企業論II BUS211M 昼のみ開講		2	2	
	2年				
	人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期	3	2	400
	3年				
	証券市場論 BUS330M 森 祐司	2学期	3	2	401
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	証券市場論 BUS330M 休講		3	2	402
	3年				
	中小企業論 BUS313M 吉村 英俊	1学期	3	2	402
	3年				
	国際経営 BUS311M 休講		3	2	402
	3年				
	地域企業分析 BUS400M 昼のみ開講		3	2	402
	3年				
	コンピュータシステム INF220M 泉 英明	1学期	2	2	403
	2年				
	オペレーションズ・マネジメント INF200M 休講		2	2	403
	2年				
	データ構造 INF231M 休講		2	2	403
	2年				
	データベース INF232M 休講	1学期	2	2	403
	2年				
	Webプログラミング INF212M 閉講		2	2	403
	2年				
企業データ分析 INF341M 昼のみ開講		3	2	403	
3年					
システム分析 INF340M 三宅 芳博	1学期	3	2	404	
3年					
情報ネットワーク INF320M 休講	1学期	3	2	404	
3年					
システム設計 INF420M 閉講		3	2	404	
3年					
簿記論III ACC210M 昼のみ開講		2	2	404	
2年					
工業簿記 ACC211M 昼のみ開講		2	2	404	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目B	原価計算論I ACC212M 閉講		2	2	2年	
	原価計算論II ACC213M 昼のみ開講		2	2	2年	
	財務会計論I ACC214M 休講	1学期	2	2	2年	405
	財務会計論II ACC215M 昼のみ開講		2	2	2年	
	経済学特殊講義A ECN301M 昼のみ開講		3	2	3年	
	経済学特殊講義B ECN302M 昼のみ開講		3	2	3年	
	経営学特殊講義A BUS390M 昼のみ開講		3	2	3年	
	経営学特殊講義B BUS391M 昼のみ開講		3	2	3年	
	法学総論 LAW100M 休講	1学期	1	2	1年	
	地方自治法 LAW223M 休講		3	4	3年	
情報公開・個人情報保護法 LAW322M 休講		3	2	3年		
労使関係法 LAW241M 休講		2	2	2年		
雇用関係法 LAW240M 休講		2	2	2年		
社会サービス法 LAW242M 休講		2	2	2年		
環境法 LAW342M 休講		3	2	3年		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目B	独占禁止法		3	2	
	LAW340M 休講	3年			
	民法総則		1	4	
	LAW160M 休講	1年			
	企業活動と法		2	2	
	LAW273M 休講	2年			
	会社法I	1学期	3	2	406
	LAW270M 高橋 衛	3年			
	会社法II	2学期	3	2	407
	LAW271M 高橋 衛	3年			
	国際法I		2	2	
	LAW250M 休講	2年			
	国際法II		2	2	
	LAW251M 休講	2年			
	福祉国家論		1	2	
	PLC112M 休講	1年			
	都市経済論		1	2	
	PLC113M 休講	1年			
	地方自治論	1学期	2	2	408
	PAD211M 森 裕亮	2年			
公共政策論	1学期	2	2		
PLC211M 休講	2年				
政治過程論		2	2		
PLS210M 休講	2年				
自治体政策研究		2	2		
PLC214M 休講	2年				
政治学		2	2		
PLS100M 休講	2年				
地方行政改革論		2	2		
PAD310M 休講	2年				

経済学部 経済学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	途上国開発論		2	2	
	PLC215M	休講	2年		
	都市政策論		3	2	
	PLC219M	休講	3年		
	環境政策論		3	2	
	PLC216M	休講	3年		

歴史と政治【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

歴史と政治【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

(到達目標)

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)50%、毎回の授業課題 50%

毎回の授業課題は、提出時期、授業への貢献によって得点に変化する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 遠隔授業の場合はオンデマンド配信となりますが、課題は提出時期によって得点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

ことばの科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読

事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

(到達目標)

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

生活世界の哲学【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいの？

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- （オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。）
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りたと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 | 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 | 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。
 その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて, 授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ, 「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば, 随時, 質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナーシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

- 「知識」
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 「反実仮想」と歴史学
- 第3回 鎖国か、開国か
- 第4回 国土・国境・共通語
- 第5回 「望ましい」首都
- 第6回 通過儀礼
- 第7回 教育のあり方
- 第8回 日中戦争
- 第9回 日独伊三国同盟とソ連
- 第10回 日米開戦への道
- 第11回 太平洋戦争
- 第12回 核を巡る問題
- 第13回 敗戦と占領
- 第14回 天皇制
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

可能性としての歴史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して置いて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第1部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明
- 第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
- 第8回 多文化主義の可能性と限界
- 第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ
- 第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体近代化
- 第13回 医療の持つ権力と文化
- 第14回 癒しの多様性
- 第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(3回) 60%、毎回の授業課題 40%
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変化します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* 本授業は多くの履修生が想定されるため、オンライン授業で行います。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイア(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(植田)
- 第12回 モノの切り取り方と分類(カテゴリー論)(植田)
- 第13回 比喩と理解(植田)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

言語と認知【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。対面授業の場合は私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

(到達目標)

【知識】 共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(8回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。またYouTube配信なので、コメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 AI	GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史的変遷【歴史的変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 A I	GES201F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

教養演習 A1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 A II	GES202F

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 ガイダンス

第 2 回～第 1 4 回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそこのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ (外部講師講演)

動物のみかた 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることでも人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第3回 脳とこころ2【睡眠の影響】
- 第4回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第5回 まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

現代人のこころ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

人間と生命【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 特別講演(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター)
- 15回 まとめ

環境都市としての北九州【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・40%
授業ごとのMoodle課題(確認テストやミニレポートなど)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学(環境ミュージアム)は原則として必須とする。
・環境ミュージアム見学は授業期間中に各自で行うこと。
・環境首都検定は12月12日(日)の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*環境ミュージアムまでの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~) , 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyozo KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力	
		未来を創る環境技術 ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自律的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、
- 第2回：北九州市の環境エネルギー政策と風力産業拠点化政策
- 第3回：世界における再生可能エネルギー
- 第4回：日本における風力発電【洋上風力発電事業の取り組み】
- 第5回：日本における風力発電【風力発電のメンテナンス】
- 第6回：日本における風力発電【海洋産業従事者の安全技術教育】
- 第7回：再生可能エネルギーの産業【電力システム】
- 第8回：再生可能エネルギーの産業【エネルギーマネジメント】
- 第9回：都市の環境とエネルギー【経済学からのアプローチ】
- 第10回：都市の環境とエネルギー【機械工学からのアプローチ】
- 第11回：都市の環境とエネルギー【情報学からのアプローチ】
- 第12回：都市の環境とエネルギー【建築学からのアプローチ】
- 第13回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第14回：都市の環境とエネルギー【化学・生物工学からのアプローチ】
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			芸術と人間	PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」

美術手帖編集部 美術出版社 2009

「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014

「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017

「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

芸術と人間【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在を見つける芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっており、そのためにも上記の4要件を満たすことが期待され、ま

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらがはらむ危険性)について知る。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的パフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、CJTに対しては批判も存在し、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケーム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活しているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代の社会学的解読』,山本努・辻正二・稲月正著,学文社,2014年,¥2640 (古書)
- 『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』,一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会とは、社会学とは【文化、社会化】
- 第2回 社会学的な考え方とは【行為、規範、制度、社会構造、エスノグラフィー】
- 第3回 社会学の歴史的展開1 - デュルケム【規範、集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 第4回 社会学の歴史的展開2 - ウェーバー【社会的行為、理解社会学、社会的行為の意図せざる結果】
- 第5回 家族とジェンダー【家族類型、家族の機能、世帯の概念、男女共同参画、ワークライフバランス】
- 第6回 集団と組織【準規集団、第1次集団、第2次集団、官僚制、NPO】
- 第7回 逸脱と社会統制【差別、偏見、マイノリティ、ラベリング理論】
- 第8回 都市と農山村【人口構造、人口動態、都市化と過疎化、中山間地域、コミュニティ】
- 第9回 社会階層と社会移動【階級、階層、社会移動、所得格差、教育格差、健康格差、社会指標】
- 第10回 社会問題と社会政策（貧困、失業、過労死、非正規雇用、社会的孤立、福祉国家と福祉社会、社会運動）
- 第11回 環境【公害、SDGs、ESD】
- 第12回 災害【被災、支援、ボランティア】
- 第13回 社会システムと社会変動【近代化、産業化、情報化、戦後日本型循環モデル】
- 第14回 グローバリゼーションと移民【国境を越える移動、移民、多文化共生】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満した学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

この科目では、なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学、科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのかなど、日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点および理論、ならびに社会や文化に潜むジェンダー・ギャップを可視化するツールとしての統計を読み・活用する方法を学びます。

【到達目標】

- 【思考・判断・表現力】ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
- (○) マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
- R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ジェンダー論を学ぶためのキー概念【セックス】【ジェンダー】【セクシュアリティ】【家父長制】
【ホモソーシャル】【ホモフォビア】【ミソジニー】【ジェンダー統計】
- 2回 日本語表現に潜むジェンダー【女言葉】【男言葉】【ジェンダーバイアス】【女子力】
- 3回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学【カノン】【権力】【公と私】【眼差し】【当事者性】
- 4回 現代アートとジェンダー【制度】【主体】【客体】【オリエンタリズム】
- 5回 ワーク・ライフ・コンフリクト問題【男らしさ】【性別役割分業】【ワーク・ライフ・バランス】
- 6回 多様なライフスタイルと家族【近代家族】【コレクティブ/シェア・ハウジング】【ゲイ・ファミリー】
【ステップ・ファミリー】【シングルペアレント・ファミリー】【シングル化】
- 7回 セクシュアリティと日本社会【ジェンダー化される身体】【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】
【リアリティ/ヘルス・ライツ】【性のダブル・スタンダード】【性の商品化】【JKビジネス】
- 8回 「性別」は「女と男」ではない【ワン・セックス・モデル】【ツウ・セックス・モデル】【多様な性】
- 9回 教育とジェンダー【近代化】【国民国家】【ジェンダー・ギャップ】【隠れたカリキュラム】【理系女】
- 10回 年金とジェンダー【片働き・共働き】【専業主婦優遇制度】
- 11回 高齢者介護とジェンダー【ケアの担い手】【ケアの有償化】【介護保険制度】【ヤング・ケアラー】
- 12回 刑法の国際化とジェンダー【女性に対する暴力】【セカンド・レイプ】【売買春】【人身取引】
【国際人権法】
- 13回 「従軍慰安婦」問題【戦争とジェンダー】【暴力の連続体】【女性の権利は人権である】
- 14回 女性差別撤廃条約と人権【ジェンダーの解消】【アフターマティブ・アクション】【個人通報制度】
- 15回 グローバル化とジェンダー【経済格差の拡大】【移住労働】【性別役割分業の国際的再配置】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている教科書の章を読み、その内容に関連した日常生活の事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、発展的学びのために教科書の各章末尾に紹介されている図書のうち関心のあるものを読んでみる、期末課題の作成に向けて文献・資料等を探して読むこと、レポートの構想を練ることなど、計画的に準備を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

- (1)ジェンダー関連の法制度改正・整備等の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、ジェンダーにセンシティブな感覚を身につけ、レポートおよび期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

「SDGs 5. ジェンダー平等、SDGs 10. 不平等をなくす」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

(到達目標)

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

障がい学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。	
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			法律の読み方	LAW002F

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

(到達目標)

【技能】法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている

【思考・判断・表現力】法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

【自律的行動力】社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

特になし。

各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

法律の読み方 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法によって人を規制するということ - 感染症をめぐる公法学
- 第3回 検察庁法の改正法案は何が問題だったのか? - 行政権と内閣
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか? - ヴェニスの商人に見る同意
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか? - AIと法
- 第7回 電気は「物」か? - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか? - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 法律と年齢 - ○○オになったら□□ができる!?
- 第10回 災害リスク管理制度としての保険
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ? - 公的年金の役割
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由? - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%
期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのが、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

企業と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 10% 最終クイズ (2回合計) ... 60%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、複数の(Moodleによる)クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を重要視する
また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2015年度) /Year /Credits /Semester /Class Format /Class 以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 人が死なない防災（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 活発な授業参加 20%
レポートおよび小テスト 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

北九州市派遣講師の回は、教室での対面講義を予定しているため、受講人数制限あり。
講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
本年度は、新型コロナウイルス対策のため、会場での合同ワークショップは実施しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール（3. 健康と福祉を、5. ジェンダー平等、6. 水とトイレを、13. 気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジユメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
 - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
 - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
 - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
 - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
 - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
 - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
 - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
 - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
 - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
 - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
 - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

現代の国際情勢【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科
専門職学位課程
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

(到達目標)

- 【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 内なる国際化と地域経済(1)【外国人労働者】【自動車産業】
- 9回 内なる国際化と地域経済(2)【外国人労働者】【サービス業】
- 10回 アジアにおける日系企業の事業展開【経営現地化】
- 11回 外資系による日系企業の買収合併【外資政策による規制】【S社の事例】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

グローバル化する経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

【到達目標】

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

韓国の社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	25%
毎回のコメントカード	40%
その他、小レポートなど	35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？まず、倫理学は、考える学問である哲学の一分野です。では、何を考えるのか？それは、私たちの行動や振る舞い、そしてその善さや悪さです。少し専門的に言えば、倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやり取り罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死 / 尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「社会哲学入門」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：倫理学って何？
- 第2回 【基礎】義務論①：多数者のために一人を殺すべきか？（トロッコ問題）
- 第3回 【基礎】義務論②：無条件の義務（カント）
- 第4回 【基礎】功利主義①：幸福とは何か？（ハチソン、ベンタム、ミル）
- 第5回 【基礎】功利主義②：選好功利主義（ヘア）
- 第6回 【基礎】徳倫理学①：徳とは何か？（プラトン、アリストテレス）
- 第7回 【基礎】徳倫理学②：善い人間と善い社会（マッキンタイア）
- 第8回 【基礎】メタ倫理学：善さとは何か？（ムーア）
- 第9回 【応用】討議倫理学：コミュニケーションと倫理（ハーバーマス）
- 第10回 【応用】生命医療倫理学①：いつから人間になる？（中絶、ES / IPS細胞）
- 第11回 【応用】生命医療倫理学②：いつまで人間でいられる？（認知症、安楽死 / 尊厳死）
- 第12回 【応用】環境倫理学①：人間中心主義と自然中心主義（クレプス、アービツヒ、ネス）
- 第13回 【応用】環境倫理学②：動物の権利（シンガー、ヌスパウム）
- 第14回 【応用】ケアの倫理学①：道徳とジェンダー（ギリガン）
- 第15回 【応用】ケアの倫理学②：ケアは誰が担うべきなのか？（フェミニズム、ジェンダー論）

* () の中は、その回に扱う主な思想家や問題です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- (オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。)
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に係る重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集社会と農耕社会 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回 日本の古代国家 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世社会 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離縁 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、秦の始皇帝による中国統一から、三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦の始皇帝
 - 4回 前漢の高祖
 - 5回 前漢の武帝
 - 6回 前漢の昭帝
 - 7回 前漢の宣帝
 - 8回 前漢の元帝
 - 9回 前漢の成帝
 - 10回 新の王莽
 - 11回 後漢の光武帝
 - 12回 後漢時代と『三国志』の幕開け
 - 13回 魏の曹操
 - 14回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 15回 まとめ
- 期末試験（場合によってはレポートなどの課題提出に変更する）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 70% 日常の授業への取り組み・・・ 30%

* なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の歴史
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地域概念と重力モデル、時間地理学、空間認識
- 第3回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第4回 社会・文化と地域(2) 食文化と地域
- 第5回 社会・文化と地域(3) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。
授業中の説明に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必要で、地図は「地理学の言語」と言われるくらい重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地形図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地形図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。この科目では、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に關係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。
授業中の説明に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、レジュメ・資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』（弘文堂、2018年）
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）
- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 渋谷秀樹『憲法への招待 新版』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定？
- 第9回 統治のしくみ①-全体像・内閣
- 第10回 統治のしくみ②-国会
- 第11回 統治のしくみ③-内閣と国会の関係・裁判所
- 第12回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第13回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸問題
- 第14回 法の下での平等①-合理的な区別と不合理な差別
- 第15回 法の下での平等②-具体的事例

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

(到達目標)
【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自律的駆動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
まとめ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をとおして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 1学期 /Semester 授業形態 講義 /Class Format クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方や自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心して暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (基盤教育セ・日高)
- 2回 社会人のマナー (キャリアセンター・木村)
- 3回 身体の健康(保健室看護師)
- 4回 心の健康(相談室・臨床心理士)
- 5回 スポーツと健康(基盤教育セ・日高)
- 6回 市民生活の基本(行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課)
- 7回 災害への備え(基盤教育セ・村江)
- 8回 犯罪防止(小倉南警察署生活安全課)
- 9回 自転車の交通安全(小倉南警察署交通課)
- 10回 消防と救急(消防局予防課・救急課)
- 11回 消費者トラブル(消費生活センター)
- 12回 大学生とお金(福岡県金融広報委員会)
- 13回 ハラスメント防止(総務局男女共同参画推進課)
- 14回 課題研究
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後は、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

- < 到達目標 >
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
 - 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも軽く運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 ヨガストレッチ (1)
- 3回 ヨガストレッチ (2)
- 4回 体幹トレーニング (1)
- 5回 体幹トレーニング (2)
- 6回 バランスボール (1)
- 7回 バランスボール (2)
- 8回 バasketボール (1) トリプル、パス、シュートの基礎練習
- 9回 バasketボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】
- 11回 選択種目 (2) 【バレーボール】 【トレーニング】
- 12回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 13回 女性のためのエクササイズ (1)
- 14回 女性のためのエクササイズ (2)
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 仲里 清 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ソフトボール(キャッチボール・ 守備)
- 3回 ソフトボール(バッティング・ ルール解説)
- 4回 ソフトボール(ゲーム①)
- 5回 ソフトボール(ゲーム②)
- 6回 ソフトボール(ゲーム③・ スキル獲得の確認)
- 7回 ソフトボール(ゲーム④・ スキル獲得の確認)
- 8回 サッカー(パスの基礎練習)
- 9回 サッカー(シュート・ 連携)
- 10回 サッカー(戦術・ ルール把握・ ゲーム①)
- 11回 サッカー(ゲーム②)
- 12回 サッカー(ゲーム③・ スキル獲得の確認)
- 13回 フットサル(戦術・ ルール把握)
- 14回 フットサル(ゲーム①)
- 15回 フットサル(ゲーム②・ スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。体育館ではフットサルおよびテニスに替わるラケット種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

ラケット種目、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

到達目標
コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自律的行動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70%
スキル獲得テスト... 30%

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活をより充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ① 社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ② 将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス
- ② 学びのアップデート
- ③ 日本の「キャリアデザイン」
- ④ 日本が迎える大きな変化
- ⑤ 情報革命
- ⑥ 日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦ 中間振り返り
- ⑧ お金と情報
- ⑨ ビジネスと就活
- ⑩ もう一つのキャリアデザイン
- ⑪ 「働き方」の最新事情
- ⑫ 日本の潮流、世界の潮流
- ⑬ 誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭ キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮ 全体振り返り

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください (自習時間の目安は60分程度)。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スプツニ子!『はみだす力』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 コミュニケーション技法①傾聴
- 4回 コミュニケーション技法②アサーション
- 5回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 6回 社会人インタビューレポート①
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 働くということ(社会人登壇)
- 9回 Digital transformation
- 10回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 11回 企業団体研究のノウハウ
- 12回 自分らしい就職活動(先輩登壇)
- 13回 社会人インタビューレポート②
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業への取り組み(予習・復習・学びの実践レポート)・・・78%
- 社会人インタビューレポート・・・12%
- 最終レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <通常授業> Moodleに予習・復習・実践課題を掲示しますので、締め切りまでに行ってください。
- <インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
- <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

- <基本事項>
 - ※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
 - ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
 - ※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- <履修者調整について>
 - ※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「ハートが震える機会」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊か

キャリア・デザイン【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

にする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 事業の概要（特にコロナ禍における現状、および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（ご自身の1年目、3年目、5年目の仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドギヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空(JAL)、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構(JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス(JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸(ANA)、日本放送協会(NHK)、キャメル珈琲(カルディ・コーヒーファーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス(モスバーガー)、日本たばこ産業(JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス(一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造(瀬祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会(NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、九州旅客鉄道(JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空(JAL)、ニトリ、北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習(予習)を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り(復習)を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
 SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
 実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会

○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス

○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン

○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス

○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス

○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ

○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ

茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社

○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房

○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社

○伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス

第02回 【団体A】課題提示

第03回 【団体B】課題提示

第04回 【団体C】課題提示

第05回 ロジカルシンキング

第06回 アイデアの作り方

第07回 相談日

第08回 【団体A】中間発表とフィードバック

第09回 【団体B】中間発表とフィードバック

第10回 【団体C】中間発表とフィードバック

第11回 課題解決の仕方(デザイン思考)

第12回 相談日

第13回 【団体A】最終プレゼンテーション

第14回 【団体B】最終プレゼンテーション

第15回 【団体C】最終プレゼンテーション

※参考

<2020年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォム株式会社

新たな採用活動手法の提案(選ばれる・目につく)

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

これからのウェディングに求められるものとは?(誰のためか・他社との違い・今までとの違い・明確な目的)

■株式会社タカギ

コロナショックの今だからこそ、タカギができることは何か?(資産を活用する・1000万円・2021年4月成果報告)

■SALASUSU(カンボジアのNPO)

新規プロジェクトを盛り上げよ!(オンラインショッピング、オンラインツアーなど)

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには?

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

この講義の到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良い市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきをえられることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そのためにいくつかの具体的な事例を取り上げ、主にDVD鑑賞を通して倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機にしたい。

- 【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとも参考になります。
○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【種子】『種子-みんなのもの? それとも企業の所有物?』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第8回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞、ディスカッション
- 第10回 【アニマル・ウェルフェア】論点整理、ディスカッション
- 第11回 【プラスチック】『プラスチックごみ-日本のリサイクルの幻想』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第13回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第14回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第15回 まとめ

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート (60%)、エッセイ (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、3回レポート (A4一枚程度) を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル
「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」
「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」
「SDGs 17. パートナーシップ」

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
							○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
			地域の文化と歴史
			HIS170F

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 10 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 11 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 12 回： 《文化》地域の文化財
- 第 13 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、一部変更となる可能性がある）

《 北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など 》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 李 錦東 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
							○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域の社会と経済
			ECN170F

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指している。
本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、北九州・下関地域出身者はもとより地域外出身にとっても、学生生活を過ごす地域への理解深化や自身のキャリア形成等にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番等については一部変更となる場合がある。

地域の社会と経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回):100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われている。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って事前・事後に情報収集に努めること。
また、授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローバル化、地域活性化
SDGs8・働きがい・経済成長、SDGs11・まちづくり

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
							○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域のにぎわいづくり RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、自らの考えをまとめたり対応方策を考えたりすること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2021年度授業においては、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興政策、市民主体のにぎわいづくり等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

本授業は、行政および地域の各種団体等の協力のもとで実施する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり
- 第 6回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 7回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
- 第 8回 《文化芸術》東アジア文化都市について
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第 10回 《文化芸術》MICE、大型イベントによるにぎわいづくり
- 第 11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第 12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第 13回 《市民主体》食を活かしたにぎわいづくり
- 第 14回 《市民主体》企業の視点からみたにぎわいづくり
- 第 15回 まとめ

※ゲスト（にぎわいづくりの実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、変更・追加の可能性がある）

《北九州市役所（観光課、MICE推進課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室）、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）：100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や地域団体等ににぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
							○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
			北九州市の都市政策
			PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

北九州市の都市政策 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。(必要な学習時間の目安は60分)
授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は60分)

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
							○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」(3年次)の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述

第15回 まとめ

まなびと企業研究I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域(社会)貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向
SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
							○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。
		まなびと企業研究II	
		CAR370F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。これは同時に今までの「就活」が終焉し、それに対応していた従来の「キャリア教育」もゼロリセットされたと考えていいでしょう。従来の就職支援は、3年生は業界研究を皮切りに、夏のインターンシップ、秋からの就職ガイダンス、自己分析、企業研究、エントリーシートや面接対策、そして3年生3月の合説解禁からの選考といった流れでした。しかし、自由化になった以上、いつ、何をするかは、大学や企業団体に決められたルールに乗る必要はもうありません。リクルートキャリア「就職白書2019」によると、「プレエントリー受付」以外は2018年卒を下回る一方で、2018年度のインターンシップ実施率は95.9%となり、2017年度よりも11.3ポイント増加しています。つまり、夏から始まるインターンシップ経由での採用が増えたことを意味しています。また「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」(3月1日)によると、エントリーシート提出者は52.0%で、筆記試験受験者は54.6%、面接試験受験者は46.4%と、いずれも前年同期から10ポイント以上増えています。さらに「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」(4月1日)によると、2020年春卒業予定の大学生・大学院生の4月1日時点の内定率(内々定を含む)が26.4%と発表。3月1日時点(13.9%)に比べて12.5ポイント、昨年度同時期(18.8%)に比べ7.6ポイント上回りました。これは学生優位の売り手市場が鮮明となるなか、企業の採用活動の前倒しがさらに進んだことを意味します。

以上のように、従来の就職活動より早まっている中、少なくとも5月から始まるインターンシップ募集までに、今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用し、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手(企業団体)を知る」、さらに夏のインターンシップに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習(Problem-based-Learning)です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る(自己分析)、相手を知る(企業団体研究)、就職活動のプランを創る。

(到達目標) 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- スプツニ子!『はみだすカ』宝島社
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力:その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくない人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 企業団体研究成果発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

英語I (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズに充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC TEST （セーラーラーニング株式会社）（2,000円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5 （国際コミュニケーション協会）(3,000円＋税)

TOEICテスト公式問題集：新形式対応編 （国際コミュニケーション協会）(3,000円＋税)

TOEICテスト新公式問題集 vol. 2~6 （国際コミュニケーション協会）(2,800円＋税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・ Unit 1
- 2回 Daily Life (日常生活)
- 3回 Transportation (交通)
- 4回 TOEIC演習 (1) 【リスニング＋リーディング】
- 5回 Jobs (仕事)
- 6回 Meals (食事)
- 7回 TOEIC演習 (2) 【公式問題集リスニング】
- 8回 Communication (コミュニケーション)
- 9回 Fun (楽しみ)
- 10回 TOEIC演習 (3) 【公式問題集リーディング】
- 11回 Office Work
- 12回 Meeting
- 13回 Travel
- 14回 Finance
- 15回 Business

成績評価の方法 /Assessment Method

定時試験 (期末試験を含む) ...40%、平常の学習状況(小テスト等を含む)...60%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語I (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 I
			ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では英語力の基盤となる文法知識の復習とともに、リーディング学習では教科書の精読に英文多読を適宜交えて、読む力を伸ばします。リスニング学習では、事前・事後学習を含めて、実践的な聴く力を伸ばします。また授業では、理解度を測る小テスト[事前に指定された教科書の内容が中心となる]を実施します。

教科書 /Textbooks

妻鳥千鶴子 他 『First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition』(センゲージラーニング) (¥2200 [税込み])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle (学習システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Shopping リスニング & 文法(八品詞・句と節)
- 3回 Unit 1 Shopping リーディング & 文法(文型)
- 4回 Unit 2 Daily Life リスニング & 文法(時制 - 現在・過去)
- 5回 Unit 2 Daily Life リーディング & 文法(時制 - 未来)
- 6回 Unit 3 Transportation リスニング & 文法(時制3 - 現在完了形)
- 7回 Unit 3 Transportation リーディング & 文法(時制4 - 過去・未来完了形)
- 8回 Unit 4 Jobs リスニング & 文法(動詞 - 動詞分類)
- 9回 Unit 4 Jobs リーディング & 文法(動詞2 - 能動態・受動態)
- 10回 Unit 5 Meals リスニング & 文法(動詞3 - 現在分詞)
- 11回 Unit 5 Meals リーディング & 文法(動詞4 - 過去分詞)
- 12回 Unit 6 Communication リスニング & 文法(関係代名詞 1 - 制限用法)
- 13回 Unit 6 Communication リーディング & 文法(関係代名詞 2 - 非制限用法)
- 14回 Unit 7 Fun リスニング & 文法(関係副詞 1 - 制限用法)
- 15回 Unit 7 Fun リーディング & 文法(関係副詞 2 - 非制限用法) & まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・30%, 平常の学習状況(小テストを含む)・・・70%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語II (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

『一歩上を目指すTOEIC(R) LISTENING AND READING TEST Level1 Basic STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』LEVEL 1、Asahi Press 1700円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代の参考書があれば持参のこと

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業概要、グループわけ、アプリ紹介等)
- 2 . Unit 1 : Eating Out 文法 : 動詞 (1)
- 3 . Unit 2 : Travel 文法 : 動詞 (2)
- 4 . Unit 3 : Amusement 文法 : 動詞 (3)
- 5 . Unit 4 : Meetings 文法 : 代名詞
- 6 . Unit 5 : Personnel 文法 : 不定詞と動名詞 (1)
- 7 . Unit 6 : Shopping 文法 : 不定詞と動名詞 (2)
- 8 . Unit 7 : Advertisement 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(1)
- 9 . Unit 8 : Daily Life 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(2)
- 10 . Unit 9 : Office Work 文法 : 仮定法
- 11 . Unit 10 : Business 文法 : 分詞
- 12 . Unit 11 : Traffic 文法 : 関係詞
- 13 . Unit 12 : Finance and Banking 文法 : 接続詞
- 14 . Unit 13 : Media 文法 : 前置詞
- 15 . Unit 14 : Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 : 20%
小テスト : 30%
期末試験 : 50%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストは毎週行いますので、事前準備を怠らないこと

英語II (済営 1 - I) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することが出来る。

教科書 /Textbooks

Seize the Keys of the TOEIC L&R Test (金星堂) (1,900円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税) (○)

TOEIC テスト公式問題集：新形式対応編 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税) (○)

TOEIC テスト新公式問題集 vol. 2~6 (国際コミュニケーション協会) (2,800円 + 税) (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Daily Life
- 3回 Shopping
- 4回 Parties & Events
- 5回 Traffic & Travel
- 6回 Office Work
- 7回 TOEIC演習 (リスニング)
- 8回 Marketing & ICT
- 9回 Production & Logistics
- 10回 Employment
- 11回 Personnel
- 12回 Business
- 13回 Health & Environment
- 14回 Finance
- 15回 TOEIC演習 (総合)

成績評価の方法 /Assessment Method

定時試験(期末試験を含む)...40%、平常の学習状況(小テストを含む)...60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したするので、その指示に従ってください。

英語II (済営 1 - J) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
- Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
- Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
- Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
- Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
- Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
- Week 8 Review of Units 1-3
- Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
- Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
- Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
- Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
- Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
- Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability, with additional exercises in reading and listening.

教科書 /Textbooks

Richards, Jack C. Four Corners Level 2A Student's Book with Online Self-study, 2nd ed. '18. Cambridge.
ISBN: 9781108570701
Price: ¥2420 including tax

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Recommendations will be made at the beginning of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule*

Lesson 1: Introduction to the class
 Lesson 2: Unit 1, "My Interests," Lessons A&B
 Lesson 3: Unit 1, "My Interests," Lessons C&D
 Lesson 4: Unit 2, "Descriptions," Lessons A&B
 Lesson 5: Unit 2, "Descriptions," Lessons C&D
 Lesson 6: Unit 3, "Rain or Shine," Lessons A&B
 Lesson 7: Unit 3, "Rain or Shine," Lessons C&D
 Lesson 8: Midterm test
 Lesson 9: Unit 4, "Life at Home," Lessons A&B
 Lesson 10: Unit 4, "Life at Home," Lessons C&D
 Lesson 11: Unit 5, "Health," Lessons A&B
 Lesson 12: Unit 5, "Health," Lessons C&D
 Lesson 13: Unit 6, "What's on TV?" Lessons A&B
 Lesson 14: Unit 6, "What's on TV?" Lessons C&D
 Lesson 15: Speaking test and review

The units break down as follows:

Lesson A: Topic-related vocabulary and grammar point
 Lesson B: Useful phrases for conversation
 Lesson C: Grammar point
 Lesson D: Topic-related reading

*Schedule and pace may be changed to suit the needs of the class. Further explanation will be given on the first session.

成績評価の方法 /Assessment Method

30% Participation and Diligence (Attending class, following directions, asking questions, etc.)
 10% Homework (Homework is not graded, but checked that it is finished)
 10% Vocabulary Quizzes
 20% Speaking test
 15% Midterm test
 15% Final Test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the material before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with small groups at the beginning of class.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation. Missing the final exam will result in a 「-」 grade.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort both in and out of class. With good attendance, homework, and preparation, you can do well in this class.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This Communicative English course challenges students to analyze and learn the meaning of English words and expressions through carefully designed student-centered activities that primarily focus on listening and speaking; and secondarily on reading (with a writing activity included). A fifth skill--the cultural component of language--is included contextually within a short reading that pinpoints a cultural theme that was mentioned in the DIALOGUE portion of the lesson. The content of each lesson is not only practical in nature, but uses language that is spoken on a daily basis by native English speakers throughout the United States and Canada.

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue. Students receive further reinforcement of the vocabulary with additional example usages.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses. This also tests students' understanding of the material by challenging them to select an answer based on context.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations. This cloze activity requires the students to first listen to the dialogues while filling in the missing vocabulary, then to role-play the dialogues with a partner.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Each lesson's reading concentrates on one aspect of culture that was mentioned in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk Talk Meeting People published by Halico Creative Education, Tokyo. ISBN: 978-4-909730-60-2 by Todd Jay Leonard (author)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
 Class 2: Meeting a Friend by Accident. pp. 4-9.
 Class 3: You Wouldn't be Tom Hanley, Would You?. pp. 10-15
 Class 4: Allow Me to Introduce Myself. pp.16-21
 Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
 Class 6: It's a Pleasure to Meet You. pp.22-27
 Class 7: Let's do Lunch. pp.28-33
 Class 8: Making an Appointment. pp.34-39
 Class 9: Let's have a Party. pp.40-45
 Class 10: I Need a Vacation! pp.46-51
 Class 11: I think I'm Lost. pp. 52-57
 Class 12: May I Take a Message. pp. 58-63
 Class 13: Calling and Leaving a Message. pp.64-69
 Class 14: Leaving a Voice Mail Message. pp.70-75
 Class 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation: 50%
 Midterm and Final Exams: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course. This course is best suited to high-beginner to intermediate level students of English. Because it is based on situational dialogues, it will be especially beneficial for students looking to increase their vocabulary and to learn practical, everyday English that will help them when using English while traveling or working and conversing with other English speakers.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.
 If a student must miss class due to a university function or official club activity, I will need an official note from the university organization detailing the event that requires the student from attending the lesson. Also, if a student is ill, and brings a note from the hospital, I will not count that as an absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
- Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
- Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
- Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
- Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
- Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
- Week 8 Review of Units 7-9
- Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
- Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
- Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
- Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
- Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
- Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck. I hope you enjoy the course. I look forward to meeting all of you.

キーワード /Keywords

英語V (済営 2 -G) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC(R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

〔到達目標〕

〔技能〕英語（読む、聞く、書く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

〔授業の概要〕

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

〔授業のねらい〕

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC(R) L&R TEST: BEGINNER』
レベル別 TOEICテスト実力養成コース：初級編
著者：早川幸治 他 ¥2,090（税込）
出版社：金星堂 2019年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Shopping
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Advertising
- 7回 Unit 6 Events
- 8回 Unit 7 Daily Life
- 9回 Unit 8 Media
- 10回 Unit 9 Recruiting
- 11回 Unit 10 Production & Sales
- 13回 Unit 11 Meetings
- 12回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Personnel
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)+TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語V (済営 2 -H) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 2 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”
 (著者) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 U. 1、Unit 2 Dining Out
- 4回 U. 2、U. 1単語小テスト
- 5回 Unit 3 Media、U. 2単語小テスト
- 6回 U. 3、Unit 4 Entertainment
- 7回 U. 4、U. 3単語小テスト
- 8回 Unit 5 Purchasing、U. 4単語小テスト
- 9回 U. 5、Unit 6 Clients
- 10回 U. 6、U. 5単語小テスト
- 11回 Unit 7 Recruiting、U. 6単語小テスト
- 12回 U. 7、Unit 8 Personnel
- 13回 U. 8、U. 7単語小テスト
- 14回 Unit 9 Advertising、U. 8単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VI (済営 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION-”
(TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ-改訂新版-) (著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant
- 3回 U. 1、Unit 2 Entertainment
- 4回 U. 2、U. 1単語小テスト
- 5回 Unit 3 Business、U. 2単語小テスト
- 6回 U. 3、Unit 4 Office
- 7回 U. 4、U. 3単語小テスト
- 8回 Unit 5 Telephone、U. 4単語小テスト
- 9回 U. 5、Unit 6 Letter & E-mail
- 10回 U. 6、U. 5単語小テスト
- 11回 Unit 7 Health、U. 6単語小テスト
- 12回 U. 7、Unit 8 Bank & Post Office
- 13回 U. 8、U. 7単語小テスト
- 14回 Unit 9 New Products、U. 8単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

英語VI (済営 2-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VI (済営 2 -H) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 済営 2 - H / 済営 2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到着目標）

【技能】 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Before- After Practice for the ToEIC L & R Test, Revised Edition
Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe センゲージラーニング (2,310円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . Listeningの問題の答え合わせ。 2 . リーディングの訳を行う

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Part 1~7
- 3回 Unit 2 Part 1~7
- 4回 Unit 3 Part 1~7
- 5回 Unit 4 Part 1~7
- 6回 Unit 5 Part 1~7
- 7回 Unit 6 Part 1~7
- 8回 Unit 7 Part 1~7
- 9回 Unit 8 Part 1~7
- 10回 Unit 9 Part 1~7
- 11回 Unit 10 Part 1~7
- 12回 Unit 11 Part 1~7
- 13回 Unit 12 Part 1~7
- 14回 Unit 13 Part 1~7
- 15回 Unit 14 Part 1~7

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 40% 予習点14パーセント 期末試験46% 最終評価にTOEICスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

英語VI (済営 2-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いてDictationをし、必ず予習をしてくる。後半の物語は単語を調べておく。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に予習点の説明をします。第1回の授業に必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VII (済営 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済営 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. There is also a focus on conversation and writing.

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 3A (2nd ed.)

Publisher: CUP

ISBN: 9781108559805

Price: 2200yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction/orientation

Week 2: ask and talk about routines

Week 3: describe what was happening in the past

Week 4: Ask about and describe fashion

Week 5: Ask about and talk about life experiences

Week 6: Compare human-made structures

Week 7: Ask and talk about weekend plans

Week 8: Presentation 1

Week 9: Talk about personality traits

Week 10: discuss environmental problems

Week 11: discuss what's important in relationships

Week 12: talk about themselves and experiences

Week 13: talk about music

Week 14: discuss travel preferences

Week 15: Presentation 2 and exam outline

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete the homework diligently and prepare for the presentations adequately.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済営 2 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング）と話す力（スピーキング）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd Edition Level 3A
K. Wilson & T. Healy
Oxford University Press
ISBN 9780194602853
¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

英語VII (済営 2 - H) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 - Course Introduction
Week 2 - Unit 1 I've been running
Week 3 - Unit 1 People talking about their hobbies
Week 4 - Unit 2 I wonder what it's about
Week 5 - Unit 2 Scenes from a show
Week 6 - Unit 3 It was painted by Banksy
Week 7 - Unit 3 People on museum tours/Listening quiz#1
Week 8 - Conversation test#1
Week 9 - Unit 4 Who's your best friend
Week 10 - Unit 4 People talking about close friends
Week 11 - Unit 5 Gotta have it!
Week 12 - Unit 5 Reviews of Apps
Week 13 - Unit 6 He'd never been abroad
Week 14 - Unit 6 People talking about unfortunate travel events/listening quiz#2
Week 15 - Conversation test#2

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 30%
Listening Quizzes 20%
Conversation Tests 20%
Mini-presentations 10%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Bring textbooks to class and preview assigned materials before coming to class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済営 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済営 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

ソーシャル・アウトLOOK メディア英語で社会を視る（三修社）（¥1,870 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

速読速聴・英単語 Core1900 ver.5 (Z会) 松本茂 (著) (¥2,090 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1: お米ガチャでPR [社会・生活]
- 第3回 Chapter 2: 「植物の時代」の夜明け [環境・技術]
- 第4回 Chapter 3: 緊急速報も国際化 [国際]
- 第5回 Chapter 4: アストンマーティン空を飛ぶ [経済・科学技術]
- 第6回 Chapter 5: AIが「想定外」をなくすお手伝い [環境・科学技術]
- 第7回 Chapter 6: 野生動物を救え！ [環境・医療]
- 第8回 Unit 1～6の振り返り
- 第9回 Chapter 7: 人生100年、どう生きる？ [社会・労働]
- 第10回 Chapter 8: 救急医療にレスキュー [国際・医療]
- 第11回 Chapter 9: なぜ今「グローバル化」？ [国際・経済]
- 第12回 Chapter 10: 八工の力で食糧危機を解決 [社会・バイオ]
- 第13回 Chapter 11: やめられない、とまらない！ [社会・医療]
- 第14回 Chapter 12: 受験生に朗報？ [科学]
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

英語VIII (済営 2 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 2 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる

リーディング学習として、現代社会の様々なトピックについて書かれた英文を音読した後、文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。その他、各チャプターで英文法の基礎を復習し、本文の内容理解問題、文法練習問題など豊富な練習問題に取り組みます。最後は自分で意見を述べられる力をつけていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

教科書：Changing Times, Changing Worlds
著者：Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi
成美堂 2020年 2,090円（税込）
ISBN: 9784791972074

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
 平素の学習状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①音声ファイルをダウンロードして活用しましょう。
- ②指定された範囲の予習をして授業に臨みましょう。
- ③各Unitで間違えた箇所は、必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。
 予習・復習をしましょう。
 授業の詳細は、初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Mark D. Stafford, successful keys to the TOEIC listening and reading test 2, 桐原書店, 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Unit 1 Daily life
- 第 2 回 Unit 2 Places
- 第 3 回 Unit 3 People
- 第 4 回 Unit 4 Travel
- 第 5 回 Unit 5 Business
- 第 6 回 Unit 6 Office
- 第 7 回 Technology
- 第 8 回 Personnel
- 第 9 回 Management
- 第 10 回 Purchasing
- 第 11 回 Finances
- 第 12 回 Media
- 第 13 回 Entertainment
- 第 14 回 Health
- 第 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・90% 授業への取り組み・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

英語IX (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、応用的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------------|--------------------------|
| 1回 | はじめに 英語を学ぶということ | |
| 2回 | 聴解 (単語と文法の力をつける①) | 読解 (単語と文法の力をつける①) |
| 3回 | 聴解 (単語と文法の力をつける②) | 読解 (単語と文法の力をつける②) |
| 4回 | 聴解 (単語と文法の力をつける③) | 読解 (単語と文法の力をつける③) |
| 5回 | 聴解 (単語と文法の力をつける④) | 読解 (文脈を考える①) |
| 6回 | 聴解 (英語の音に注目する①) | 読解 (文脈を考える②) |
| 7回 | 聴解 (英語の音に注目する②) | 読解 (文脈を考える③) |
| 8回 | 聴解 (英語の音に注目する③) | 読解 (言語外の知識を利用する①) |
| 9回 | 聴解 (英語の音に注目する④) | 読解 (言語外の知識を利用する②) |
| 10回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する①) | 読解 (言語外の知識を利用する③) |
| 11回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する②) | 読解 (言外の意味を捉える①) |
| 12回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する③) | 読解 (言外の意味を捉える②) |
| 13回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する④) | 読解 (言外の意味を捉える③) |
| 14回 | 聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ) | 読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国济営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

This is a "deep thinking in English" class. We will work together and enjoy conversations in English. You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
 (see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Cycle 1: Video clip 1A, discussion and writing.
- 第3回 Cycle 1: Video clip 1B, discussion and writing.
- 第4回 Cycle 1: Video clip 1C, discussion and writing.
- 第5回 Cycle 1: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第6回 Cycle 2: Video clip 2A, discussion and writing.
- 第7回 Cycle 2: Video clip 2B, discussion and writing.
- 第8回 Cycle 2: Video clip 2C, discussion and writing.
- 第9回 Cycle 2: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第10回 Cycle 3: Video clip 3A, discussion and writing.
- 第11回 Cycle 3: Video clip 3B, discussion and writing.
- 第12回 Cycle 3: Video clip 3C, discussion and writing.
- 第13回 Cycle 3: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第14回 Begin review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice
- 第15回 Complete review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice

成績評価の方法 /Assessment Method

Cycle 1プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 2プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 3プレゼンテーション とライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題をアップロード、(2) 変更等の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法などの質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国济営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

教科書 /Textbooks

English Central (4 Month Academic Premium)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Case Study 1 - and discussion in class
- 第 3 回: Case Study 2 - and discussion in class
- 第 4 回: Case Study 3 - and discussion in class
- 第 5 回: Student Presentations (1)
- 第 6 回: Case Study 4 - and discussion in class
- 第 7 回: Case Study 5 - and discussion in class
- 第 8 回: Case Study 6 - and discussion in class
- 第 9 回: Case Study 7 - and discussion in class
- 第 10 回: Student Presentations (2)
- 第 11 回: Case Study 8 - and discussion in class
- 第 12 回: Case Study 9 - and discussion in class
- 第 13 回: Case Study 10 - and discussion in class
- 第 14 回: Case Study 11 - and discussion in class
- 第 15 回: Student Presentations (3)

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Topic based discussion and writing

中国語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

中国語I (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

中国語I (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 黄 健 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 黄 健 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VIII	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	第九課	宮島と下関(会話)
2回	第九課	練習
3回	第十課	九州(会話)
4回	第十課	練習
5回	第十一課	福岡(会話)
6回	第十一課	練習
7回	第十二課	佐賀(会話)
8回	第十二課	練習
9回	第十三課	長崎(会話)
10回	第十三課	練習
11回	第十四課	四国(会話)
12回	第十四課	練習
13回	第十五課	仙台と北海道(会話)
14回	第十五課	練習
15回	総合練習	

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

（到達目標）
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

- 第1回 授業説明、基礎復習
- 第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習
- 第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習
- 第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習
- 第8回 場面の体験1
- 第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習
- 第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習
- 第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第14回 第6課② 読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 翻訳力 作文力

上級中国語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

到達目標）
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業時に説明する。（前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する予定。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期	
第1回	第7課① 文法、翻訳、聴解練習
第2回	第7課② 会話、リスニング、作文練習
第3回	第8課① 文法、翻訳、聴解練習
第4回	第8課② 会話、リスニング、作文練習
第5回	場面の体験1
第6回	第9課① 文法、翻訳、聴解練習
第7回	第9課② 会話、リスニング、作文練習
第8回	第10課① 文法、翻訳、聴解練習
第9回	第10課② 会話、リスニング、作文練習
第10回	場面の体験2
第11回	第11課① 文法、翻訳、聴解練習
第12回	第11課② 会話、リスニング、作文練習
第13回	第12課① 文法、翻訳、聴解練習
第14回	第12課② 会話、リスニング、作文練習
第15回	場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、初級、中級を一通り終えた学習者が、さらに中国人に問いかけ、自由に話し合い、そして纏まった表現で自分の意志を話せるように図る。

授業内容は、日本を舞台にした、極めて身近な材料を取り上げ、自分のことから、家族、そして周囲の人への話題を広めていく。

講義の進み方

一課を二回に分けて進む。

一回目、必要な単語や文法表現を説明し、本文の音読練習と一問一答(ピンインなしの会話文を用いる)の形で日本語文意の確認を行う。

二回目、参考文の音読練習、と日本語文意を確認し、「自由会話」に挙げられたタイトルの一つを選び、発表する。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

教科書：『中国語実習コース』白水社

著作者：張 乃方

出版日：2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ガイダンスで説明を行う。

上級中国語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回
授業ガイダンス
1学習内容の説明
2成績判定基準の説明
3中国語能力確認「自己紹介」
- 第二回
第一課「自己紹介」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第三回
第一課「自己紹介」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第四回
第二課「家庭」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第五回
第二課「家庭」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第六回
第三課「父母」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第七回
第三課「父母」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第八回
第四課「友達」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第九回
第四課「友達」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十回
第五課「居住」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十一回
第五課「居住」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十二回
第六課「通勤通学」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十三回
第六課「通勤通学」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十四回
第七課「飲み物」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十五回
第七課「飲み物」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 平常点60% (学習意欲、発表の成績)

成績評価の方法 /Assessment Method

2 定期試験40%

ただし、通期で遠隔授業を行う場合、また、対面試験を行う条件に満たさない場合、最終成績評価は平常点に基づいて算出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 事前学習：新出単語や会話文を勉強する前に、本文音源を聞き、出来るだけ真似して発声練習する。
- 2 事後学習：配る練習プリントやテキスト練習問題を用い、授業にて学習した知識をこまめに復習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する情報や中国人に関することに、より関心を持つようになるのは望ましい。

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、初級、中級を一通り終えた学習者が、さらに中国人に問いかけ、自由に話し合い、そして纏まった表現で自分の意志を話せるように図る。

授業内容は、日本を舞台にした、極めて身近な材料を取り上げ、自分のことから、家族、そして周囲の人への話題を広めていく。

講義の進み方

一課を二回に分けて進む。

一回目、必要な単語や文法表現を説明し、本文の音読練習と一問一答(ピンインなしの会話文を用いる)の形で日本語文意の確認を行う。

二回目、参考文の音読練習、と日本語文意を確認し、「自由会話」に挙げられたタイトルの一つを選び、発表する。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

教科書：『中国語実習コース』白水社

著作者：張 乃方

出版日：2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ガイダンスで説明する。

上級中国語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回
後期授業ガイダンス
第八課「休日」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第二回
第八課「休日」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第三回
第九課「送り迎え-電話の会話」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第四回
第九課「送り迎え-電話の会話」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第五回
第十課「病気」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第六回
第十課「病気」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第七回
第十一課「入院」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第八回
第十一課「入院」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第九回
第十二課「旅行」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十回
第十二課「旅行」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十一回
第十三課「手紙」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十二回
第十三課「手紙」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十三回
第十四課「ローン」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十四回
第十四課「ローン」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十五回
総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 平常点60% (学習意欲、発表の成績)
- 2 定期試験40%

成績評価の方法 /Assessment Method

ただし、通期で遠隔授業を行う場合、また、対面試験を行う条件に満たさない場合、最終成績評価は平常点に基づいて算出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 事前学習：新出単語や会話文を勉強する前に、本文音源を聞き、出来るだけ真似して発声練習する。
- 2 事後学習：配る練習プリントやテキスト練習問題を用い、授業にて学習した知識をこまめに復習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する情報や中国人に関することに、より関心を持つようになるのは望ましい。

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（叢基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Iで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～ありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～ありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 崔 相振 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【映画など】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで練習】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%

平常の学習状況、小テスト、課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ!韓国語』 金順玉・阪堂千津子 (白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか?】
- 3回 疑問詞を使った表現【~は何/どこですか?】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ~しますか?】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか?】
- 7回 用言の否定形【~しません、~くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【~に~しに行きます】好みの表現【~が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は?いくらですか?】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【~ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【~するつもりです】動作の進行【~しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

朝鮮語Ⅳ(1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習しておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오체】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오체】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오체」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오체」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 韓国文化紹介【映画など】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50%
平常の学習状況、小テスト、課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 変則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 変則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、～しに・～ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅵ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅵ	KRN211 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語Ⅴ』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄹ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回 第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回 第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回 第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回 第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回 第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄹ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄹ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション（韓国語で自己紹介を含む）
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

单元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)르까요?, -(으)르 것 같다】
- 4回 . 作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回 . 読解【宿泊先の予約】
- 6回 . 聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로, 밖에】
- 7回 . 作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回 . 韓国の観光事情について話し合う
- 9回 . 読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回 . 聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다(가)】
- 11回 . 作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回 . 読解【終了式】
- 13回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)는지, -(으)르 게요】
- 14回 . 作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み発・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『Enjoy!! 韓国の文化と言語』(自主制作出版物により、授業時に案内)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 第1課 ビビンバが美味しい理由
- 第4回目 会話に役立つ文法①
- 第5回目 フリートーク①
- 第6回目 第2課 韓服と着物
- 第7回目 会話に役立つ文法②
- 第8回目 フリートーク②
- 第9回目 ドラマで学ぶ韓国の社会と文化
- 第10回目 第3課 便利なマンション暮らし
- 第11回目 会話に役立つ文法③
- 第12回目 フリートーク③
- 第13回目 第4課 いつでもどこでもデリバリー
- 第14回目 会話に役立つ文法④
- 第15回目 フリートーク④ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 60% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

フリートーキングや発表を多く取り入れます。間違いを恐れずに、積極的に取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『Enjoy!! 韓国の文化と言語』(自主制作出版物により、授業時に案内)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 第5課 恋愛と結婚
- 第4回目 会話に役立つ文法①
- 第5回目 フリートーキング①
- 第6回目 第6課 「オッパ」ってお兄さん？彼氏？
- 第7回目 会話に役立つ文法②
- 第8回目 フリートーキング②
- 第9回目 ドラマで学ぶ韓国の社会と文化
- 第10回目 第7課 スキンシップを好む韓国人
- 第11回目 会話に役立つ文法③
- 第12回目 フリートーキング③
- 第13回目 第8課 「みんな一緒に」と「おひとりさま」
- 第14回目 会話に役立つ文法④
- 第15回目 フリートーキング④ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 60% 期末試験... 40%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

フリートーキングや発表を多く取り入れます。間違いを恐れずに、積極的に取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 復習とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

直接対面授業の場合 期末試験60%、小テスト・和文露訳課題等40%
遠隔授業の場合 期末試験40%、小テスト・和文露訳課題等60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞・時刻表現
- 4回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、生格、指示代名詞、限定代名詞、和文露訳
- 5回 四課の復習、練習問題
- 6回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 7回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 8回 五課の復習、練習問題
- 9回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 10回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 11回 六課の復習、練習問題
- 12回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 13回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 14回 七課の復習、練習問題
- 15回 復習とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

直接対面授業の場合 期末試験60%、小テスト・和文露訳課題など60%
遠隔授業の場合 期末試験40%、小テスト・和文露訳課題など60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 / Credits: 1単位 / Semester: 1学期 / Class Format: 講義 / Class: クラス 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

ロシア語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉でよく使われる現在分詞、過去分詞、仮定法、最上級表現など複雑な構文について解説する。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

1年生のロシア語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語IIで習ったことの復習 1
- 2回 ロシア語IIで習ったことの復習 2
- 3回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 4回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 5回 八課の復習
- 7回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 8回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 9回 九課の復習
- 10回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 11回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 12回 十課の復習
- 13回 副動詞、形動詞現在
- 14回 形動詞過去、特殊変化動詞
- 15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

直接対面授業 期末試験60% 小テスト・和文露訳課題等40%
遠隔方式授業 期末試験40% 小テスト・和文露訳課題等60%

ロシア語Ⅴ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの読み・和訳の発表等を課すので授業前準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

ロシア語Ⅰ、Ⅱを履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞、仮定法などを使った構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の意味用法理解など、より複雑な文法の学習を行う。読み物テキストの読解を通じて文章読解力を養うことを目指す。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安藤厚ほか編「ロシア語ミニ辞典」白水社、1997年
中村建之介著「自習ロシア語問題集」白水社、2014年
佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

直接対面授業 期末試験60% 普段の授業発表等40%
遠隔方式授業 期末試験40% 小テスト・課題など60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

ロシア語I、IIを履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課の復習
- 2回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 3回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 4回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 5回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 6回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 7回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 8回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習
- 10回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 11回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 12回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 13回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 14回 ビデオ学習④ 会話練習、作文【Я И СПОРТ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

(到達目標)

【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課①【モスクワの町】	
8回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修しておくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語 I	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業を実施することを前提に作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて連絡します。
ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アップファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

ドイツ語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験 50%
- 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
- 今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
- ETV「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
- ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
- 授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

- パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて連絡します。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

ドイツ語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。

Was ist dein Vater von Beruf?

Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

ドイツ語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。
Was hast du am Wochenende gemacht?
Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。

Was isst du zu Mittag?

Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

ドイツ語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスツッキーの作り方。
- 15回 まとめ

ドイツ語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

ドイツ語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

ドイツ語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『パリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞 avoir の活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞 aller と近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語II	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

新装 カフェ・フランセ ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる(2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11~20
- 9回 家族について語る、ジャパン・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパン・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

新装 カフェ・フランセ ニコラ・ガイヤール 他著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
リスニングや長文のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン 2』（松村博史他 朝日出版 2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習、子音の発音
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語、母音の発音
 - 第4回：強制形、複合母音、鼻母音の発音、数字1～20
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞、数字21～69
 - 第6回：代名動詞の複合過去、数字70～100
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞、eの発音
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue、月の言い方
 - 第10回：前未来、曜日の言い方
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

フランス語Ⅴ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
リスニングや長文のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2』（村松博史 朝日出版 2300円+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解（歌詞）
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解（『星の王子さま』狐の話）
- 第13回：長文読解（『星の王子さま』献辞）
- 第14回：長文読解（『星の王子さま』第1章）
- 第15回：長文読解（『星の王子さま』バオバブの話）

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合にはこの通りではありません。

フランス語VI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書中心の回は復習をしっかりとすること。読解などの場合は指示された予習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
 日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。
 ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
 授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2500円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (総括)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) unité 5 : どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

フランス語Ⅶ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・40%
期末テスト・・・40%
授業中の取り組み・・・20%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
 - 2) unité 6 : 誰 (後半)
 - 3) unité 6 : 誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7 : 何 (前半)
 - 5) unité 7 : 何 (後半)
 - 6) unité 7 : 何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8 : どのように (前半)
 - 8) unité 8 : どのように (後半)
 - 9) unité 8 : どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9 : 過去について (前半)
 - 11) unité 9 : 過去について (後半)
 - 12) unité 9 : 過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

フランス語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはず。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 野村 明衣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、スペイン語の基礎文法を学び、学生間あるいは教員学生間の会話練習を通して、スペイン語での日常的なコミュニケーション能力の習得を目指します。

また、スペイン各地の世界遺産、歴史や文化なども紹介します。

スペイン語には5つの母音がありますが、これは日本語の母音の発音と似ているので、日本人にとって発音しやすい言語です。また発音のしやすさから、私たちの周りにある店やモノの名前が実はスペイン語であることも多々あります。こういった身近にあるスペイン語に気づくとき、言語を学ぶおもしろさを感じることができるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

辻博子・野村明衣 『彩(いろど)りスペイン語』 朝日出版社 2021年
ISBN: 978-4-255-55119-7

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西川喬 『わかるスペイン語文法』 同人社 2010年

西和辞典:

○西和中辞典(小学館)

○現代スペイン語辞典(白水社)

○新スペイン語(研究社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

和西辞典:

○和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)

○クラウン和西辞典(三省堂)

和西辞典(小学館)

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、アルファベット
- 第2回 発音、アクセント
- 第3回 名詞、名詞の数
- 第4回 冠詞、形容詞
- 第5回 主格人称代名詞、動詞ser
- 第6回 否定文、疑問文、疑問詞(1)
- 第7回 直説法現在 規則動詞
- 第8回 疑問詞(2)、接続詞
- 第9回 指示詞
- 第10回 所有詞
- 第11回 曜日、日付、時間表現(1)
- 第12回 動詞estar, serとestar
- 第13回 hay, hayとestar
- 第14回 総復習(1)
- 第15回 総復習(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 小テスト(毎回)35% 日常の授業への取り組み15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を持参すること。くわしくは初回の授業でお知らせします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始5~10分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

キーワード /Keywords

スペイン スペイン語

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはず。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 明衣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、スペイン語の基礎文法を学び、現在形の活用を一通り学習します。
ペアやグループでの会話練習を通して自分のことをスペイン語で表現する能力を身につけ、日常的なコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。
また、スペインの文化を扱った発展問題を通して異文化理解を深め、自国の文化と比較により学習者の視野を広げることを目標とします。
(到達目標)
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Iと同じテキストを使用します。
辻博子・野村明衣 『彩(いろど)リス페인語』 朝日出版社 2021年
ISBN: 978-4-255-55119-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西川喬 『わかるスペイン語文法』 同学社 2010年

西和辞典:

- 西和中辞典(小学館)
- 現代スペイン語辞典(白水社)
- 新スペイン語(研究社)
- プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
- パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

和西辞典:

- 和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)
- クラウン和西辞典(三省堂)
- 和西辞典(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習
- 第2回 直説法現在 不規則動詞(1)
- 第3回 直接目的格人称代名詞
- 第4回 間接疑問文、時間表現(2)
- 第5回 直説法現在 不規則動詞(2)
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 直説法現在 不規則動詞(3)
- 第8回 前置詞格人称代名詞、動詞gustar
- 第9回 その他のgustar動詞、不定語・否定語
- 第10回 天候表現、比較表現
- 第11回 再帰動詞
- 第12回 再帰動詞のその他の用法
- 第13回 再帰動詞演習
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 小テスト(毎回)35% 日常の授業への取り組み 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず辞書で単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始5～10分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

キーワード /Keywords

スペイン スペイン語

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017 第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、
スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は何ですか？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

スペイン語Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはず。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

スペイン語Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)

スペイン(増田監修：新潮社)

スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)

スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウイルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ（題材未定）を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)

新スペイン語 (研究社)

現代スペイン語辞典 (白水社)

プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)

パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)

クラウン和西辞典 (三省堂)

その他

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)

スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)

スペイン (増田監修: 新潮社)

スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)

スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)

スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)

スペイン語基礎文法 (ロボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウイルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を発展させクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはず。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を応用・発展させ、クラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	8課	旅館で 直説法未来・過去未来
2回	8課	リピーティング・シャドウイング
3回	9課	明治神宮 受身表現
4回	9課	リピーティング・シャドウイング
5回	10課	バルで gustar型構文
6回	10課	リピーティング・シャドウイング
7回	11課	オリンピック秘話 接続法現在
8回	11課	リピーティング・シャドウイング
9回	12課	新幹線 quizáを使った接続法、比較級
10回	12課	リピーティング・シャドウイング
11回	13課	銀座への行き方 命令文
12回	13課	リピーティング・シャドウイング
13回	14課	通訳依頼の電話 条件文
14回	14課	リピーティング・シャドウイング
15回	15課	浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をMoodleで提出すること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

- 『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語ロジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク) ¥2,400
- 『スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版) ¥1,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
- 石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--|-------------------|
| 1回 オリエンテーション | |
| 2回 「スタディスキル11」 アクティブラーニングをやってみよう | 「ロジカルトレーニング」 発想力① |
| 3回 「スタディスキル12」 テーマからトピックを取り出そう | 「ロジカルトレーニング」 発想力② |
| 4回 「スタディスキル14」 インターネットで情報を探そう | 「ロジカルトレーニング」 読解力① |
| 5回 「スタディスキル15」 本を手にして読んでみよう | 「ロジカルトレーニング」 読解力② |
| 6回 「スタディスキル16」 図解で考えよう | 「ロジカルトレーニング」 読解力③ |
| 7回 「スタディスキル17」 表・グラフを使って考えよう | 「ロジカルトレーニング」 読解力④ |
| 8回 「スタディスキル18」 議論の方法を知ろう | 「ロジカルトレーニング」 読解力⑤ |
| 9回 「スタディスキル19」 レポートの文章の特徴を知ろう | 「ロジカルトレーニング」 読解力⑥ |
| 10回 「スタディスキル20」 レジユメを作成してみよう | 「ロジカルトレーニング」 表現力① |
| 11回 「スタディスキル21」 レポートの基本を知ろう | 「ロジカルトレーニング」 表現力② |
| 12回 「スタディスキル23」 発表の資料を作ろう (テーマ決め・準備) | 「ロジカルトレーニング」 表現力③ |
| 13回 「スタディスキル24」 発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表) | |
| 14回 「スタディスキル24」 発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表と自己評価) | |
| 15回 「スタディスキル25」 1年間の学びをふりかえろう (総括) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み (発表・課題を含む) ...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通して何をどこまで身につけることができたか、何がまだ足りていないかを振り返り、どうしたら目標を達成できるか、などについて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【詳しいブック・トークをもとにアウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【情報を引用しながらブック・レポートを書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 【全体を振りかえる】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%
ポートフォリオ評価...40%(自己評価 20%、ピア評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学に必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版）¥1,900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（館岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一意性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み（課題を含む）...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1) 「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2) 修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(有田佳代子他編著、研究社)
- 『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイクロ・アグレッション】
- 7回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】【ユニバーサルデザイン】
- 8回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 10回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 11回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み(課題や授業中の発表を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

多文化共生 多文化社会 多様性

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1) 日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1) 自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2) 自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1) 論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2) 共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

数学【昼】

担当者名 /Instructor 久保 宏和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修のみ)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済の諸問題を数理的に理解するための基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

経済学の本質を学ぶ上で、数学を避けて通ることはできない。

その上で本授業での目的は3つある。

1つ目は、経済学でよく用いられる基本的な数学の知識を「石橋を叩いて渡る」一貫として身につけておくことである。今後、他の専門カリキュラム履修中で、当たり前のように数学の知識が問われたときに困らないように学習しておく。

2つ目は、数学への「苦手意識」をなくすことである。数学的リテラシーが必要とされる文系学生の多くは、数学が苦手なのではなく、単なる「食わず嫌い」であることが多い。講義内で取り扱う単元は、経済学を理解するための初歩的な数学なので少なくとも「数学は苦手」と感じていた人は、その「食わず嫌い」と向き合い「苦手意識」を克服してほしい。

3つ目は、経済学と数学がどうつながっているのかを理解することである。そのために、「経済学的な例」を用いて数学を学んでいく。特に、売り上げや利潤の最大化問題を初め、日常の問題を経済学的に考える。

本講義内容を修得することは、多岐にわたる専門経済学を修める際に本質的な理解を深め、物事をシンプルに、論理的に考える力を養い、問題解決の能力を高めることにつながる。

(到達目標)

【知識】 経済学で用いられる基礎的な数学の知識を身につけている。

【技能】 経済学で用いられる基礎的な数学を活用できる。

【思考・判断】 数学を用い、経済問題の解決の探求に向かうことができる。

教科書 /Textbooks

改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める、尾山大輔・安田洋祐、日本評論社、2016年
経済学で出る数学—ワークブックでじっくり攻める、白石俊輔、日本評論社、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

経済数学早わかり、西村和雄、日本評論社、2003年
経済数学入門—初歩から一歩ずつ、丹野忠晋、日本評論社、2017年
経済数学入門の入門、田中久稔、岩波書店、2018年

数学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーションと1次関数【関数と変数、1次関数、連立方程式、市場均衡を解く】
- 第2回2次関数と独占・寡占市場【2次関数、平方完成、ゲーム理論とナッシュ均衡】
- 第3回指数・対数と金利【指数、複利計算、割引現在価値、対数の計算】
- 第4回貯蓄と数列【等差数列、等比数列、数列の極限、級数】
- 第5回漸化式と経済成長【漸化式(差分方程式)、ソロー・モデル、経済成長理論とは】
- 第6回微分とは何か【微分の定義、導関数、べき乗法則、企業の利潤最大化】
- 第7回さまざまな微分の公式【凹関数と凸関数、微分の公式(積・商・逆数・合成関数・逆関数)】
- 第8回2変数関数と偏微分【偏微分とは、偏微分のやり方、2変数効用関数】
- 第9回中間テスト【これまでの範囲の中間テスト】
- 第10回ベクトルの基礎【ベクトルとは、スカラー倍、内積、1次独立と1次従属】
- 第11回行列と行列式【行列とは、行列の積、行列の計算、逆行列】
- 第12回積分とは何か【積分の定義、不定積分、定積分、余剰の計算】
- 第13回さまざまな積分の公式【部分積分、置換積分、積分の計算練習】
- 第14回確率とリスク【確率とは、条件付き確率、確率論入門(確率変数とは、離散型確率変数の平均(期待値))】
- 第15回積分とオークション【連続型確率変数の平均(期待値)、確率密度関数、分布関数、オークションの期待収入】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容が多岐にわたるだけでなく、初めて聞く考え方もたくさん出てきます。試験前に慌てて勉強しても間に合いません。必ず予習・復習を行うようにしてください。特に以下の2点に留意し、復習されることをおすすめします。

- (1) 「できなかった問題」について解法を再確認し、「なぜ自分は解けなかったのか」についても省察された上で「正解を導ける考え方が身に着くようになる」まで何度も問題を解き直す。
- (2) 「自分が取り組んでいる単元」は「経済学を理解するために、どのような状況で必要とされる知識なのか」について考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につけている。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】与えられた課題について論理的に考察し、自身の考えを適切な文章にまとめ、表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論をつうじて問題の考察に取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】様々な社会問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

基礎演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、2年次までに習得した経済学に関する知識を改めて修得してもらい、ゼミ論文、卒業論文作成における土台を築いていきます。演習では、講義のように教員の話をお聴きだけでなく、自分の意見を発言できる機会があり、間違っただけを発言したからといって、責められることはなく、失敗したことから多くのことを学べる機会があると思います。そのため受講生には積極的・主体的な参加が求められます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

山本 勲、『実証分析のための計量経済学』、中央経済社、2015年(2,808円)
その他の教科書については適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2～3回	文献精読について
4～5回	伝える技術の習得
6～9回	文献輪読、プレゼンテーション、ディスカッション
10～11回	文献輪読と論文の書き方
12～15回	文献輪読と調査・研究の方法

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

自分の問題意識をデータを通じて調べる。
データ解析の考え方と方法を学ぶ。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩『数学ガールの秘密のノート：やさしい統計』SB Creative 2016.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。
1回から15回：各章担当を決めて、レジュメを作成して、報告するという形式でゼミを進める

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

官公庁が出版している様々な白書の中から、各学生が興味のあるテーマの白書を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考力する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 各自のテーマの決定
- 3回 報告の見本
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80%， 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会・経済事象を自らと関わりのあるものであるという認識を持ってもらう。購読を通して、他人の意見を参考として自身の意見を持ち、それを説得力を持って表明することを目指す。まずは、平易な時事問題に関する文献から始める。具体的にはゼミ3、4回で新書1冊というのが目安となる。

〔到達目標〕

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定（新刊の新書など）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 顔合わせ
- 第2回～第14回 学生の報告を中心として購読を進める。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会・経済の出来事に関心を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の知的好奇心が広がればと思います。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。各種の経済データベースを用いる。また、コンピュータソフトウェアとしてPythonを利用する。

専門演習III

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

大屋幸輔『コア・テキスト統計学』新世社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野匡郎、田中久稔『Rによる実証分析』Ohmsha

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 データの整理・測定
- 第3回 確率
- 第4回 離散確率変数とその分布
- 第5回 連続確率変数とその分布
- 第6回 標本調査・標本分布
- 第7回 推定
- 第8回 仮説検定
- 第9回 回帰分析（イントロダクション）
- 第10回 回帰分析（標本相関係数他）
- 第11回 回帰分析（最小自乗法）
- 第12回 回帰分析（決定係数）
- 第13回 回帰分析（ σ 自乗の推定、 t 変量）
- 第14回 回帰分析（検定）
- 第15回 最尤推定法と統計モデル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を読んでくること。また、卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。
事後学習：教科書の復習をすること。また、演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否かが判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、教科書を事前に熟読すること。復習としては、Pythonを使って、データ解析を行うこと。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンに統計ソフトをインストールするので持参すること。

キーワード /Keywords

統計的推定、統計的検定、回帰分析、最尤法

専門演習I【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

仮のテーマから出発して、専門演習IIで取り組むテーマを見つけ出すことが目的です。
調べて、まとめて、他人に説明して、他人の意見を聞き、別の視点を得て、次の作業を定める。これの繰り返しです。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。
- 【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

必要があれば別途指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス【研究倫理】
- 2回～14回学生による途中経過の報告
- 15回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。
- 【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。
 - 【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の対象を各自が決めて参考資料を講読し、その内容を発表する。第1学期末までには、卒業研究の仮テーマと仮の目次を決定する。さらに、参考文献表の作成、参考文献の講読・発表、引用の仕方などを学ぶ。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心をもち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスおよび最近の経済問題について討論 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
 - 2回 卒業研究のテーマの決定(複数の候補について、内容などを説明する)
 - 3回 卒業研究のテーマと担当の決定(役割分担などを決める)
 - 4回 参考文献表の作成(参考文献リストの表記の仕方などを学ぶ)
 - 5回 参考文献表の作成と発表の分担の決定
 - 6回～15回 参考文献の内容の発表と引用の仕方の説明
- ※卒論の内容にかかわりうる産業・企業の説明会などを授業時間中に行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(議論への参加など)...90%、レポート...10%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。(予習と復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会的課題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、ソーシャルビジネスに関わる企業、NPO、行政の調査や、それらとの協働作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外でのフィールドワークなども実施します。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》

自らの問題意識に基づいて社会課題を抽出し、対策やビジネスモデルを提案することができる。

《プレゼンテーション力》

自分の考えやプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。

《実践力（チャレンジ力）》

策定したプランやプログラムを確実に実施するための手順を作成できる。

《コミュニケーション力》

NPOや企業などで働く人と「対話」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎力を養う（コミュニケーション力を身につける）
- 3回 基礎力を養う（分析力を身につける）
- 4回 基礎力を養う（企画力を身につける）
- 5回 ワークショップ(社会課題を探る)
- 6回 ワークショップ(未来の社会を考える)
- 7回 ワークショップ(ソーシャルビジネス事例から学ぶ)
- 8回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの手法を学ぶ)
- 9回 ワークショップ(マネジメントの手法を学ぶ)
- 10回 ワークショップ(マネジメントの手法を活用する)
- 11回 グループによる調査・研究(テーマ設定と事前準備)
- 12回 グループによる調査・研究(実施)
- 13回 グループによる調査・研究(報告およびディスカッション)
- 14回 グループによる調査・研究(ディスカッション)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題（20%）、授業での発言回数などグループ学習への寄与（50%）、授業における発表内容（30%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってフィールドワーク等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には、その都度提示、説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会的課題

専門演習I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルド著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
石川城太・棕寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
棕寛著『自由貿易はなぜ必要なのか』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テキストと報告の担当を決める。
2回-15回 学生による輪読・報告するという形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでおくこと。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iでは、日本の産業・経済・社会の歴史について学問していただきます。そのうえで、皆さんには身近な地域の歴史について調査・研究していただきます。

「なぜ北九大は北方にあるのか?」「なぜ小倉の中心地に大きな公園（勝山公園）があるのか?」「なぜ北九州にはこんなにたくさんの工場があるのか?」

ごく日常の風景だけに、気にとめることもないかもしれませんが、しかしそこに上記のような問いをはさみ、その答えを探してみると、それまでただ漠然と眺めていただけの日常世界を、私たちは主体的に解釈できるようになります。この「問い・解釈し・認識を新たにする」試みこそが学問なのです。

その中でも歴史学は「過去」を活用します。

私たちが自明と思っている日常世界にも、それがそこに存在することとなった理由や経緯があります。

「今」ある現実とは必然ではなく、また偶然でもありません。「過去」のいかなる条件や選択が「今」を生むこととなったのか知ることができれば、私たちは周囲の現実を客観的に認識できるようになります。

そして「なぜこうなったのか?」がわかれば、「それを変えるには何が必要なのか?」が見えてきます。

この演習では、こうした歴史学的な思考を実践してもらい、皆さんに日本の産業・経済・社会について客観的かつ主体的に考察できる能力を養っていただきます。

そのうえでここでは、グループごとに課題を決め、地域の歴史に関する調査・研究を行ってもらいます。また、北九州の産業・経済史に関する文献の「輪読」を行い、地域の歴史を探索するフィールド・ワークにも出かけます。

このプロセスで、先に述べたような問いを、皆さん自身が抱き探究できるようになることが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済I・II』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワーク(北方地区)
- 第3回・4回 テキストの輪読、ディスカッション
- 第5回 フィールドワーク(北方地区)
- 第6回 学生による調査報告
- 第7回 フィールドワーク(小倉北区)
- 第8回～9回 地域史関連テキストの輪読、ディスカッション
- 第10回 調査研究に関するレクチャー
- 第11回～12回 フィールドワーク型グループワーク
- 第13回 グループワーク報告会
- 第14回 フィールドワーク(工場見学)
- 第15回 アクティヴ・ラーニング-学生による学生評価-

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークにおける貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションにおける積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習では、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行ってもらいます。したがって皆さんには、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習I【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

経済学的視点から財政の仕組みや政策の目的と効果について正しく理解し言葉で表現できることを目標とします。主に教科書の内容を精読し、日本の財政の問題について正しく理解し、自分の考えをまとめてもらいます。また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

(到達目標)

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

明解 日本の財政入門 (金融財政事情研究会 刊)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容50% 議論の参加度・発言内容および質問に対する受け答え50%

専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。)目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。 目安時間60分

履修上の注意 /Remarks

テキスト、および配布資料、板書事項の復習をして講義に臨むこと。 毎回、前回の内容を質問しますので、自分の言葉で答えられるように十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政

専門演習I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I SEM311M

授業の概要 /Course Description

日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く思考する力を身に付け、都市問題や地域問題への関心を持つことが出来るようになる。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力、論文作成などの基本スキルについても学習する。なお進学論文の準備も課すこととする。

教科書 /Textbooks

テキストについては初回に、数冊のテキストを詳しく紹介し、最も好ましいものを選択することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎的立地理論の習得
- 3回 基礎的立地理論の習得
- 4回 基礎的立地理論の習得
- 5回 基礎的立地理論の習得
- 6回 基礎的立地理論の習得
- 7回 基礎的立地理論の習得
- 8回 基礎的立地理論の習得
- 9回 基礎的立地理論の習得
- 10回 基礎的立地理論の応用
- 11回 基礎的立地理論の応用
- 12回 基礎的立地理論の応用
- 13回 基礎的立地理論の応用
- 14回 基礎的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察し、経済学的思考の習得を目標とする。またレポート執筆・発表・ディスカッションを通じての基礎スキルの向上も目標とする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各自の関心によるが、労働経済学の基礎文献として以下を挙げる。
- ・『人事と組織の経済学』、エドワード・ラジャー著（樋口美雄・清家篤訳）、日本経済新聞社。
- ・『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』、大橋勇雄、中村二郎著、有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回～第15回 学生による輪読・発表
- * 初回の演習前に本演習のガイダンスを行うので必ず出席すること。
- * 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

- 1回目の演習までに自分が何に関心があるのかを説明できるようにしておくこと。
- 労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学I(担当：畔津)を同時に受講すること。
- 毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習IIでは、ゼミ論文、卒業論文のテーマを決め、その準備を行います。各自が関心のあるテーマを取り上げ、それらを調査、検討した成果を報告してもらうことになります。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2～3回	テーマ設定と文献・資料収集
4～5回	文献・資料の整理
6～8回	研究テーマ設定作業
9～12回	研究テーマの中間報告
13～15回	研究テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%
報告にあたって十分な準備をしたか、演習において積極的に発言したかが基準になります。毎回出席したからといって、よい評価がもらえるとは限りません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成の準備として、統計解析の訓練を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Stock and Watson. 2016. Introduction to Econometrics, 4th ed. Addison-Wesley. Pub.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：講義と演習と発表

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本専門演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社。
- ・林 紘一郎『ネットワーク情報社会の経済学』NTT出版。
- ・松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店。
- ・友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高めて、「卒業研究A・B」において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：【研究倫理】【演習の目的・計画】など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習Ⅲ、Ⅳ案内
- 15回 まとめ

専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 研究報告・ 演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・ 参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと
- ・ 常に現実のミクロ経済に興味をもつこと
- ・ ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

- ・ 特殊なミクロ経済行動

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、官公庁が出版している様々な白書やその他の文献などの中から、各学生が興味のあるテーマの文献を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の推敲に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「専門演習I」に比べやや「堅い」文章を購読する。知識にも広狭深淺があることを学び、そのうえで社会についてのより深い理解を目指す。また、卒業論文の構想を固めることを併せて行う。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

参加者と相談して適宜定める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 購読文献の選定

第2回~第14回 学生の報告を中心として購読を進める

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢 ... 85% 卒論構想の内容 ... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習はもとより、積極的なゼミ参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。主に、CiNiiに掲載されている和文論文のリーディングを行う。必要に応じて、統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。

専門演習Ⅲ

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野匡郎、田中久稔『Rによる実証分析』Ohmsha

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：ゼミ生は、毎週、事前に読み込んだ論文をA4一枚に要約したものを提出する。その要約を教員が添削する。それとともに、論文に関連する統計的手法の理解に努める。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。
事後学習：演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否か判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、論文の要約を作成する。また、他のゼミ生の要約にも目を通しておく。復習としては、自分の作成した要約のどこをどのように修正されたか、よく吟味すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰの成果から出発して、自分で不思議に思ったことを自分で調べ、その結果と過程を他人にもわかる形式で伝えることをします。4年次で取り組むテーマ(卒論の仮テーマ)を見つけ出すことが目的です。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14 回 学生による途中経過の報告
- 1 5 回 今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
卒業論文研究題目(仮)の提出。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業研究のテーマと目次に則して、各自で内容の発表を繰り返す。また、正しい引用の仕方や参考文献一覧の作成法などを引き続き指導する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～7回 卒業研究の参考文献の発表

8回～15回 卒業研究の各担当部分の発表(引用の仕方、図表の作り方も学ぶ)

(※9～11回目頃に、他の大学との合同ゼミを行う。下関市立大学を予定。また、卒論のテーマにかかわりうる産業・企業の説明会などを授業時間中に行う可能性がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況…90%、レポート…10%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。(予習と復習、それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会問題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、社会活動や地域活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外でのフィールドワークなども実施します。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》
自らの問題意識に基づいて社会課題を抽出し、対策やビジネスモデルを提案することができる。
《プレゼンテーション力》
自分の考えやプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。
《実践力（チャレンジ力）》
策定したプランやプログラムを確実に実施するための手順を作成できる。
《コミュニケーション力》
NPOや企業などで働く人と「対話」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 実習(NPOとの協働事業)
- 3回 実習(NPOとの協働事業)
- 4回 実習の振り返り
- 5回 実習を踏まえた研究テーマの設定
- 6回 企業 / NPO事例研究
- 7回 企業 / NPO事例研究
- 8回 企業 / NPO事例研究
- 9回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (各自のプラン模索)
- 10回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン模索)
- 11回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン策定)
- 12回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン発表)
- 13回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 14回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 15回 卒業研究に向けたテーマの発表とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題 (20%)、授業での発言回数などグループ学習への寄与 (50%)、授業における発表内容 (30%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってフィールドワーク等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には、その都度提示、説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会課題

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰに続き、国際経済学の基礎理論を習得したうえで、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。自由研究とグループワークを実施し、各自関心のあるトピックスを詳しく調査し、学部のポスターセッション大会での研究発表を目標としている。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルト著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
石川城太・棕寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
棕寛著『自由貿易はなぜ必要なのか』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回-14回 前期に続き、学生による輪読・報告する形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。自由研究とグループワークの研究発表も予定している。
15回 卒業研究テーマの検討・発表
(実施予定を変更する可能性がある。1回目のガイダンスで相談したうえで決定する。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。
グループで研究調査を行い、学部のポスターセッションに参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱの内容は、専門演習Ⅰに引き続き、身近な地域の歴史を対象にした調査・研究がメインとなります。ただし、ここでは学術的裏づけを行った、より本格的な調査・研究をしていただきます。

歴史学での調査・研究は、難事件の捜査に似ています。

何十年も前（もしくは100年以上前！）の出来事ですから関係者はすでにいません。ですから彼らから聞き取りを行うことはできませんし、現場を再調査しても確たる証拠は出てきません。

利用できるのは、断片的に残された当時の記録（史料）のみ。これらを探し集め、ひとつひとつの事実を確認し、相互の関係を推理し客観的に裏付けることで、出来事の全体像を明らかにする、それが歴史学です。

この作業を皆さんには、身近な地域で起こった過去の出来事を対象に行っていただきます。

ただ、やみくもに捜査をしても事件の真相はつかめません。ベテラン刑事の「嗅覚」は、経験とそれに基づく知識に裏付けられています。

歴史学も同じで、「どんな史料があるのか」「それはどこにあるのか」「それをどう使えばいいのか」、知っておくことが真相解明の近道となります。

また、時には「現場」に足を運ぶことで見えてくる事実もあります。

このことをふまえ、専門演習Ⅱでは、皆さんに史料の探索方法を、適宜、レクチャーします。

そのうえで皆さんには、グループで協力し、実際に残された記録をもとに難事件の捜査を行っていただきます。

そしてその過程で「現場」でのフィールドワークを行い、また成果を演習内で、あるいは経済学部が主催する「ポスターセッション」でプレゼンしてもらいます。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済Ⅰ・Ⅱ』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献調査に関するレクチャー
- 第3回～5回 指定されたテーマ（地域経済史）に基づくグループワーク
- 第6回 フィールドワーク（戸畑・若松区）
- 第7回 指定されたテーマ（地域経済史）に基づくグループワーク
- 第8回 フィールドワーク（工場見学）
- 第9回 ポスターセッションに関するレクチャー
- 第10回～11回 ポスターセッションに向けたグループワーク
- 第12回 成果報告会（ポスターセッション予行練習）
- 第13回 ポスターセッション
- 第14回 ポスターセッション総括
- 第15回 卒論のテーマ設定に関するレクチャー

専門演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。
フィールドワークを行う際も、その前後に、行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習ではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行っていただきます。したがって学生には、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰに引き続き、財政の問題を深く掘り下げ（制度、データ、理論に基づく考察）、自分の卒業研究に繋げることを目標とします。また、10月ごろから他大学からの合同ゼミの準備と卒業研究の準備を行い、合同ゼミの開催会場にて研究発表を行います。

（到達目標）

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

経済主体の最適化など理論分析に必要な技術、論文を書く準備の仕方を並行して行う。

専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50% 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。) 目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。目安時間60分

履修上の注意 /Remarks

復習をして講義に臨むこと。 前回の内容を質問しますので自分の言葉で人に分かるように説明できるぐらい十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Ⅰを受けて、引き続き日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力などのスキルを身に付けていく。論文については、卒業論文のための予備論文を提出していただく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

教科書 /Textbooks

授業の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 現代的立地理論の習得
- 3回 現代的立地理論の習得
- 4回 現代的立地理論の習得
- 5回 現代的立地理論の習得
- 6回 現代的立地理論の習得
- 7回 現代的立地理論の習得
- 8回 現代的立地理論の習得
- 9回 現代的立地理論の習得
- 10回 工場見学の事前準備
- 11回 工場見学
- 12回 工場見学の事後学習
- 13回 現代的立地理論の応用
- 14回 現代的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50%

課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰと同様に、労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察する。各自の関心にもとづき研究テーマを設定し、卒業研究に向けて必要な知識・技術を身につける。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する問題について専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるため、特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 学生による輪読・発表

* 経済学部主催ポスターセッション大会に出場する。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%

原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

経済学部主催ポスターセッション大会における研究発表は単位認定要件である。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

関心のあるトピックについての書籍を読んでおくこと。

労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学特講を卒業までに受講すること。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究Aでは、専門演習IIで各自が選択した研究テーマをもとに卒業論文を作成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。また、卒業後の進路についても、ゼミを通じてしっかり考えてもらうために、自己分析、希望する進路について検討します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～12回 研究テーマの設定作業と経過報告
- 13～15回 研究中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告するためにしっかり時間をかけて準備をして下さい。そのためには、文献、資料を集め、しっかりと読み、論点を整理してください。演習終了後は、演習時のコメントに対する対応をすることで、報告内容、卒業論文の内容をより良いものにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成のひとつである卒業研究の準備を行なうことにより、ゼロから自分の考えをまとめ、人に伝えていく技術・技能を身につけることを目標とします。また、適宜、ケーススタディを通じて論理的思考法や議論の組立を学習します。

教科書 /Textbooks

伊丹敬之『経営戦略の論理 - 第4版 - 』日本経済新聞出版社（2012年9月）
伊丹敬之『ケースブック 経営戦略の論理』日本経済新聞出版社（2012年9月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識に合わせて適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 卒業研究のテーマの検討
- 4回 卒業研究の企画について（プレゼンテーション）
- 5回～10回 ケース・スタディ
- 11回～14回 卒業研究に係る参考文献についての報告
- 15回 卒業研究の構想案と今後の計画について（プレゼンテーション）

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 40% プレゼンテーション20% 卒業研究の構想案 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自らの問題意識に従って参考文献の探索や新聞・雑誌・インターネットからの情報収集を日常的に実施すること。
事後学習については、卒業研究Aの各回で得られた知見を確実に卒業研究に生かせるように整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時には、予習の成果としてポイントを整理したレジュメを持参すること。
なお、ケース・スタディの場合は、事前にケースを配布するので、予習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスに関連するテーマの中で、各自が興味のあるテーマについて調査・分析を行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究（卒業論文）作成のために、論文・専門書の購読、および必要なデータの収集を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～14回 研究報告
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%
報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある卒業研究テーマについて論文を作成・報告し、卒業研究論文提出に向けての準備を行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス：【研究倫理】【研究計画】

第2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開

第3回～第8回 特殊なミクロ経済行動もしくは現象などについて調査・報告

第9回～第14回 関心のある特殊なミクロ経済行動もしくは現象に関する研究について調査・報告

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

インプットからアウトプットを得るトレーニングを行う。課題の文献を読み、自分の考えを文章にして表現することによって自らの考えを整理してもらいたい。
また、あわせて卒業論文のテーマを確定してもらおう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
必要に応じて卒業論文のテーマについて話し合う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
提出課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

他人の意見を参考にして、自らの考えを作り上げてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

【思考・判断】経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回、報告用レジュメを作成し、報告すること。

事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、論文の構想について熟慮すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次で決めたテーマ(卒論の仮テーマ)について調査・研究します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回ガイダンス【研究倫理】

2 回～14回学生による途中経過の報告

1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法，提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献一覧の作り方などを引き続き学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、執筆。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次に続き、ソーシャルビジネスについて学びます。とりわけ、新たなソーシャルビジネスの創出や、地域における社会活動とビジネスのつながりについて、具体的に北九州を舞台に考えていきます。教室以外でのフィールドワークなども実施する予定です。また、各自の卒業研究について報告およびディスカッションを行います。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》

自らの問題意識に基づいて社会的課題を抽出し、研究のための分析枠組みを設定することができる。

《プレゼンテーション力》

分析内容や策定したプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。

《実践力（チャレンジ力）》

策定したプランやプログラムを確実に実施するための手順を作成できる。

《コミュニケーション力》

NPOや企業などで働く人と「対話」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業研究の方法と課題
- 3回 卒業研究テーマ報告会
- 4回 ワークショップ（ソーシャルビジネスの経営分析）
- 5回 ワークショップ（ソーシャルビジネスの経営分析）
- 6回 ワークショップ（ソーシャルビジネスの経営分析）
- 7回 ケーススタディから学ぶ（調査）
- 8回 ケーススタディから学ぶ（ディスカッション）
- 9回 ケーススタディから学ぶ（ディスカッション）
- 10回 ケーススタディから学ぶ（ビジネスモデルの抽出）
- 11回 卒業研究中間報告
- 12回 卒業研究中間報告
- 13回 卒業研究中間報告
- 14回 卒業研究中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題（20%）、授業での発言回数などグループ学習への寄与（50%）、授業における発表内容（30%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

卒業研究A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってフィールドワーク等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には授業中に説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会課題

卒業研究A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて段取りで課題を出し、研究・調査報告を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 卒業論文の書き方
- 4回～15回 文献調査・報告、課題提出・報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献・研究テーマの調査などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は、「専門演習I・II」で身につけた知識や能力をもとに、自ら研究テーマを定め、独自に調査・研究を行い、その成果を論文にまとめることを目的としています。

論文は他人の研究成果や主張を要約的にまとめるレポートとは違います。

論文は自らの問い（課題）をもとに、関連する資料を集め、またその資料をもとに分析することで、自ら定めた問いに対して自分なりの回答を与えるものとしてあります。つまり自分の関心に基づき、自分の力で調べ、自分自身で答えを導く作業こそが卒業研究です。

この作業を行うためには、まず自分が「知りたい」「（知ることが）面白そう」と思える課題を見つけられなければいけません。このゼミは経済史の演習ですから、経済・産業・社会の「今」をふまえ、「なぜこうなったのか？」と「過去」にさかのぼって探究したいと思う対象を見つける必要があります。

もし経済・産業・社会について無知で、特に知りたいと思う気持ちも無ければ、課題を設定することなどできません。

研究を行うためには、それに先立って、自身の知的好奇心を喚起し、幅広い知識を身につけ、その中から特に関心を抱ける対象を探し出す作業が必要なのです。

そこで、「卒業研究A」では、まず課題（テーマ）設定の方法や、ここでの留意点などについてレクチャーします。

また指定されたテーマに基づき、関連する資料を自ら探し、その中から自分の知らなかった事実を「発掘」し、ゼミで発表してもらいます。

また、地域の経済・産業史に関する、専門的なフィールドワーク（グループワーク）を実践する中、自分が特にどんなことを「面白い」「面白そう」と感じるのか、自身の興味関心を「発見」してもらいます。

そしてテーマが定まり次第、そのテーマに関連する文献や史料を集め、夏明けから本格的に始まる卒業論文の執筆に向けた下準備を進めていただきます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～5回 卒業研究テーマ報告
- 第6回・7回 卒業研究に関するレクチャー
- 第8回 フィールドワーク（門司港）
- 第9回 卒業研究に関するレクチャー
- 第10回 フィールドワーク（公立文書館）
- 第11回 論文作成のための情報検索講座（大学図書館）
- 第12回・13回 文献調査型グループワーク
- 第14回 フィールドワーク（工場見学）
- 第15回 グループワーク報告会

卒業研究A【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究A 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

(到達目標)

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究への積極性 50%

卒業研究A【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上。発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

財政

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力も深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、専門演習I・IIで学んだ事をもとにして、卒業研究に着手する。自らの関心に基づき、自らのやるべき研究を設定し、研究のための下調べ、綿密な研究計画が完了することを目標とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション

* 各自の研究発表の他、題材を提示した上でディスカッションを行うことがある。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%

原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究テーマについて十分考えておくこと。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究Bでは、卒業研究Aにつづき、各自が定めたテーマを卒業論文としてまとめます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。

1回 オリエンテーション

2～13回 卒論の中間報告

14～15回 卒論の発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、卒業論文に対する取り組み状況および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文完成に向け、多くの文献、資料を集め、しっかり読んで、問題点、論点を明確にして下さい。

演習終了後は、演習時のコメントに対する対応をすることで、報告内容、卒業論文の内容をより良いものにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成のひとつである卒業研究を完成させます。

教科書 /Textbooks

各自の問題意識が異なりますので、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識が異なりますので、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業研究の中間報告（プレゼンテーション）
- 4回～12回 卒業研究に係る参考文献やヒアリング調査等についての報告
- 13回～15回 卒業研究の修正・完成

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 20% 各種報告 20% 卒業研究 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、卒業論文の中間報告の資料や卒業研究に係る文献のレジュメ作成を求めます。
事後学習については、卒業研究Bの各回で得られた知見を確実に卒業論文に生かせるように執筆を進めてください。

履修上の注意 /Remarks

本ゼミでは、卒業研究として2万時程度の卒業論文の完成を目指します。よって、日頃から文章力の向上や図表を使った表現力の向上に努めることを期待します。
なお、通常に授業では、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究提出後に、ゼミOB等を招いて報告会を実施します。卒業まで気を抜かないようにしてください。

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスに関連するテーマの中で、各自が興味のあるテーマについて調査・分析を行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告者のレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆を行う。

到達目標

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各メンバーの卒論に対して検討し、精緻化と完成を目指す。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究（卒業論文）を完成させる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（卒業論文完成までの予定・計画について）【研究倫理】
- 第2回～第14回 研究報告
- 第15回 完成させた卒業論文の報告・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の取り組み・・・50%
- 卒業論文の内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容の改善と報告準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある卒業研究テーマについて論文を作成・報告し、卒業研究の論文をまとめる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：【研究倫理】【研究計画】
- 第2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 第3回～第7回 卒業研究テーマについて調査・研究報告
- 第8回～第14回 卒業研究論文内容研究報告、および提出
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% 論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の出来：90% 平常点：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

半分は、学生時代の総決算として比較的「堅い」文献の輪読という伝統的なゼミを行う。「じっくり深く読み込む」ために、これまでの学習成果を総動員してもらいたい。
残りの半分は、卒業論文の作成に関わる内容を行う。「自らの考えを文章にして表現することが、自分自身を知ることを含め最も効果的な学修方法である」ということを確認してもらいたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定、卒業論文のテーマと進捗状況の確認
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
卒業論文の中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
各自卒論の完成に向け必要な作業を着実に進めること。

履修上の注意 /Remarks

ある意味、大学生活の総括であることを自覚してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

【思考・判断】 経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究を書けるところから執筆し、報告すること。

事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、卒業研究を修正していくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒論を作成します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】 経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】 他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】 経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回ガイダンス【研究倫理】

2 回～14回学生による途中経過の報告

1 5 回卒論内容の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。

卒業論文の提出。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】 発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。

【復習】 参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、発展。パワーポイントによる発表会を行う。

(うち、9回目～11回目頃に、他の大学のゼミとの合同発表会を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、発表資料を必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の問題関心に沿って、卒業研究を作成します。中間報告とディスカッションを重ねながら、各人の研究をベースにした相互学習を図ります。

DPに基づく到達目標

《課題発見・分析・解決力》

自らの問題意識に基づいて社会的課題を抽出し、研究のための分析枠組みを設定することができる。

《プレゼンテーション力》

分析内容や策定したプランを他者に的確にわかりやすく伝えることができる。

《実践力（チャレンジ力）》

分析枠組みに沿って、フィールドワークを実施することができる

《コミュニケーション力》

研究対象であるNPOや企業などで働く人を対象に「対話的取材」ができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業論文中間報告
- 3回 卒業論文中間報告
- 4回 卒業論文中間報告
- 5回 卒業論文中間報告
- 6回 ケーススタディの研究と報告
- 7回 ケーススタディの研究と報告
- 8回 ケーススタディの研究と報告
- 9回 ケーススタディの研究と報告
- 10回 卒業論文中間報告
- 11回 卒業論文中間報告
- 12回 卒業論文中間報告
- 13回 卒業論文中間報告
- 14回 報告会準備および予備作業
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習・事後学習の課題（20%）、授業での発言回数などグループ学習への寄与（30%）、卒業研究の内容（50%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

卒業研究B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によってケーススタディ等が実施できない場合があります。状況に応じてシラバス内容を変更せざるを得ない場合には、その都度提示、説明します。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会課題

卒業研究B 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて、研究報告を行い、論文執筆を完成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、卒業研究の進捗状況を確認する
- 2回－14回 卒業研究進捗報告と論文指導
- 15回 卒業研究発表会(予定)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献、調査方法などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

「卒業研究B」では、「卒業研究A」で定めたテーマ（課題）に基づく調査・研究を進め、成果を論文にまとめていただきます。

そのためにまずは演習時、研究のノウハウを、適宜、私がレクチャーします。

一方で皆さんには、夏休みの間に立てていただく卒業研究のプラン（工程表）に基づき、調査研究を進め、その成果を整理しまとめる作業を行っていただきます。

この間、演習を通じて、あるいは個別指導という形で、皆さんには研究の進捗状況を報告していただき、研究が円滑に進むよう、私が必要な指導を行います。

なお、本演習では卒業研究の指導だけではなく、一学期同様、フィールドワークやグループワークを行い、研究を行ううえで必要となる知見や姿勢を身に付けていただく予定です。

そして年末に皆さんに提出していただく卒業論文を、私が添削し修正要求を出します。

皆さんはその修正要求に応じて、1月末までに追加調査等を行い、論文を完成させてください。

2年間で身につけた「問い・解釈し・新たな認識を得る」スキルを学術的成果として形にする（そして晴れて卒業を迎える）、それが「卒業研究B」の最終的な目標です。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・3回 論文執筆に関するレクチャー
- 第4回・5回 フィールドワーク型グループワーク
- 第6回 グループワーク報告会
- 第7回 フィールドワーク(工場見学)
- 第8回 論文執筆に関するレクチャー
- 第9回～13回 執筆指導
- 第14回 論文発表会
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

卒業研究B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究Bは卒業研究をまとめることを主目的としていますが、実際の研究は授業時間外に学生自らが行う必要があります。卒業研究に関する指導を受けるに当たっては、事前に十分研究活動を行い、その成果をもって指導を受けるようにしてください。また、授業後は、教員による指導内容に基づき修正作業を行い、その成果をもって次回の授業に臨めるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究B 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

(到達目標)

【思考】

経済に関する問題について、専門的知識を用いて論理的に考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】

他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の理解に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】

経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究の完成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上。発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

マクロ経済学・財政

卒業研究B 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力も深めていく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 工場見学の事前学習
- 11回 工場見学
- 12回 工場見学の事後学習
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび論文の課題について、下調べを行うなど予習をしておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、卒業研究を完成させることである。卒業研究Aにおける下調べ、研究計画に基づき、調査、分析、論文執筆作業を行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】経済に関する課題を自ら設定し、専門的知識を用いて深く考察し、自身の考えを適切な表現手段を用いて表現することができる。

【コミュニケーション力】他者との議論や協力をつうじて、経済の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】経済の諸問題に関心を持ち続け、その解決に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション

* 各自の研究発表以外に、題材を指定しディスカッションを行う。

* 卒業研究中間報告会、卒業研究発表会を開催する。

* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組みおよび発表 100%

原則として無断欠席をした学生には単位を認定しない。

卒業研究中間発表会、卒業研究発表会における発表は単位認定要件である。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究Aに引き続き、卒業研究を進めておくこと。

毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要な初歩的の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身につけることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

- 【知識】他の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身につける。
- 【技能】基本的なフローチャートの作成方法やプログラミングについての技能を身につける。
- 【思考・判断・表現力】フローチャートやプログラミングの知識を活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身に付ける。

教科書 /Textbooks

毎回資料（ファイル）を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行機著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス 【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)
- ・ 遠隔授業の場合、PCが必要となりますので準備をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フローチャート、プログラミング、Python

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本経済を時系列的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	現代日本経済の諸問題を時系列的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門A

ECN150M

授業の概要 /Course Description

毎回、出席者にレポートしていただき、それをもとにディスカッションする形式とする。

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に理解していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

○橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本経済のトレンド(1) 戦後復興 【経済改革】 【労働改革】 【傾斜生産方式】
- 3回 日本経済のトレンド(2) 高度成長 【重厚長大産業】 【エネルギー革命】
- 4回 日本経済のトレンド(3) 高度成長から安定成長へ 【ニクソンショック】 【オイルショック】
【バブル経済】
- 5回 日本経済のトレンド(4) バブル経済の発生と崩壊 【構造改革】 【IT革命】 【グローバル化】
- 6回 まとめと課題
- 7回 日本経済のトレンド(5) 構造改革とリーマンショック 【アジア展開】 【リーマンショック】
【中国市場】
- 8回 日本産業の国際展開 【東アジア市場】 【電機産業】 【産業空洞化】
- 9回 日本企業の国際競争力(1) 鉄鋼産業 【寡占競争】 【合併】 【高炉メーカー】
- 10回 日本企業の国際競争力(2) 自動車産業 【クラスター】 【トヨタイズム】 【ジャストインタイム】
- 11回 流通革命と情報化のインパクト 【IT革命】 【サプライチェーン】 【大規模小売店】
- 12回 まとめと課題
- 13回 規制緩和と企業制度改革 【日本型企業システム】 【構造改革】 【持ち株会社】
- 14回 日本企業の組織改革と日本経済のシステム転換 【世界最適調達】 【カンパニー制】 【ICT】
【フラット化】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題を重視して評価する。

課題 ... 100%

現代日本経済入門 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、参考図書、新聞や経済雑誌等で授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる箇所をよく読んでおくこと。事後学習については、学習したテーマに関連する事柄について参考図書や他の経済関連図書などで知識の補足をし、次の講義に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の動向を、時系列的に整理するよう努めてください。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバル化、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本経済を横断的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	現代日本経済の諸問題を横断的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門B

ECN151M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。関連するニュース報道や解説書を理解できるようになることが、目標である。また、日本経済と日本産業が、これまでどのような展開と変遷を辿ったかを説明し、今後の日本経済を見通すうえで必要な専門知識を教える。なお、授業の末尾に練習問題を提示して解答・提出を求める場合がある。

(到達目標)

【知識】現代日本の経済に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。現代日本が直面する経済問題を理解するために必要な情報を収集分析することができる。

【思考・判断】現代日本の経済問題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし (プリントをmoodle等にアップロードするので、それを利用すること。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

1回	日本経済の概要	【高度成長期からの変遷】
2回	日本経済の概要	【少子高齢化・人口減少と財政赤字】
3回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【メインバンク・システム】【系列】
4回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【安定株主】
5回	少子高齢化に立ち向かう日本	【平均寿命】
6回	少子高齢化に立ち向かう日本	【年金・医療制度】
7回	財政赤字と政府債務	【基礎的財政収支】
8回	財政赤字と政府債務	【デフォルト】【マネタイゼーション】
9回	新たなグローバル化の波	【WTO】【FTA】
10回	新たなグローバル化の波	【直接投資】【TPP】
11回	エネルギーの経済学	【固定価格買取り制度】
12回	エネルギーの経済学	【発送電分離】
13回	量的・質的緩和とデフレ克服	【インフレーション・ターゲティング】
14回	量的・質的緩和とデフレ克服	【出口戦略】
15回	現代におけるデータの取扱い方の解説、および、総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末のレポート：100%

現代日本経済入門B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の講義内容にかかわるプリントの各章を事前に関連して予習するとともに、専門用語などを自分で調べる。授業の後では、授業で学んだ内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習・復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実証経済分析 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済の実証分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な実証分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 実証分析に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの実証分析に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

実証経済分析

ECN231M

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一部を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

また、これらを真似して、表計算ソフトを使った分析や結果の視覚化をなるべく多く経験していただきます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記は一例です。受講者数および受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

- 1回 講義概要
- 2回 実証経済分析の目的、背景、手法、結論
- 3回 因果関係で考える
- 4回 回帰式の作られかた
- 5回 実証したい仮説を、実証できる仮説に翻訳する
- 6回 統計学を応用した因果関係のチェック
- 7回 実証経済分析の結果を役立てる
- 8回 回帰分析のまとめ
- 9回 演習：分析の背景を読み解く
- 10回 演習：分析の結果を読み解く
- 11回 データを集める
- 12回 データの特徴を把握する 1：移動平均
- 13回 データの特徴を把握する 2：分布
- 14回 演習：分布の視覚化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 計量経済学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な計量経済学的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 計量経済学的分析に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの計量経済学に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

計量経済学

ECN232M

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を数理的側面に言及しつつ考えます。

(到達目標)

【知識】計量経済学的分析に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】計量経済学的分析に必要な情報を収集することができる。

【思考・判断・表現力】計量経済学的分析について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。機器類の利用可能性、受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

- 1回 講義概要
- 2回 回帰分析の復習(1)【母集団と標本, 統計的推論】
- 3回 回帰分析の復習(2)【同時分布の特徴, 回帰分析】
- 4回 情報の構造を利用する(1)【複雑因果】
- 5回 情報の構造を利用する(2)【実験データと観察データ】
- 6回 情報の構造を利用する(3)【パネルデータ】
- 7回 ここまでのまとめ, 練習問題
- 8回 質的データの分析法(1)【最尤原理】
- 9回 質的データの分析法(1)【質的応答】
- 10回 質的データの分析法(1)【計数】
- 11回 質的データの分析法(1)【標本選別】
- 12回 ここまでのまとめ, 練習問題
- 13回 データ処理
- 14回 学期末レポートの解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題(14回)80%(うち60%分は必須), 学期末試験(レポートを予定)20%

計量経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】 クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】 宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 朝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミング

INF211M

授業の概要 /Course Description

この科目では、基礎的な情報科学について学び、プログラミングの基礎を身につけることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料（ファイル）を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本経済史 I

ECN220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、主に18世紀末から19世紀（江戸時代中頃から明治時代）の日本経済について論じていきます。
特にここでは、「産業革命」以降の世界経済が日本に及ぼした影響について、「革命」前後の変化をふまえて考察していくつもりです。

「産業革命」以前の社会では、その生産力の低さゆえに、度々、貧困や飢餓が招かれてきました。
こうした時代、足りない「富」はしばしば他国から調達されることとなり、「富」の掠奪（りやくだつ）を目的とした戦争や侵略が、歴史上、繰り返されてきました。

しかし「産業革命」を機に、状況は一変します。「革命」を達成したヨーロッパでは、全ヨーロッパの総需要を遥かに上回る「富」の供給が可能となり、それとともに他国からの「富」の掠奪ではなく、新たな市場の開拓という、まったく新たな経済的動機が発生することとなります。

この結果、経済活動は一気にグローバル化し、アジアやアフリカ、南米は、ヨーロッパの市場として再編され、あるいは植民地となっていくこととなりました。

本講義では、まずこのような「産業革命」を契機とした「革命的」な変化について論じ、日本が19世紀、いかなる時代的状況に置かれることとなったのか考察します。

そのうえで、同時代における日本の選択を検証することで、日本が植民地化の危機を逃れ、アジアで最初の工業国へと台頭していくこととなったプロセスを、世界史的な観点から明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの罠」
- 第4回 戦(いくさ)と掠奪(りやくだつ)の経済史
- 第5回 「マルサスの罠」と日本人 - 近世の日本人の選択 -
- 第6回 「勤勉革命」
- 第7回 生産力の肥大化 - 「産業革命」と経済のグローバル化 -
- 第8回 「豊かな国」と「貧しい国」 - 経済格差の構造化 -
- 第9回 東アジアを巡る攻防 - 「ペリー来航」の経済史的意義 -
- 第10回 世界経済システム下での日本 - 「開国」とその影響 -
- 第11回 「明治維新」の経済史的意義 - 外資の排除と技術移転 -
- 第12回 日本人の文化的資質と近代化
- 第13回 「文明」の衝突 - なぜアジアは「革命」を輸入できなかったのか -
- 第14回 日本版「産業革命」の始動
- 第15回 総括

日本経済史I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。このレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 産業革命

日本経済史II 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本経済史についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	日本経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本経済史II

ECN221M

授業の概要 /Course Description

本講義では、近代から戦後に至る日本経済の歴史を、北九州を事例としながら論じていきます。

周知のように日本の「産業革命」は、「明治維新」を機にスタートします。そしてこの際、北九州は、工業化に不可欠なエネルギーとなった石炭の一大供給地として発展の端緒を開くこととなりました。

また20世紀に入ると、鉄の国産化が図られ、また軍需が拡大していく中、北九州がこれらの生産拠点に選ばれることとなります（八幡製鉄所の設立）。

この結果、北九州は日本経済を支える「屋台骨」としての役割を果たすようになりました。

しかしそうであったために北九州は、戦後の「エネルギー革命」や「高度経済成長」、それらに伴う産業構造の変化といった、日本経済そのものの変化の波をダイレクトに受けることとなります。

いわば北九州は、近代以降、工業化にまい進して来た日本経済の「縮図」であり、それゆえに北九州の経済・産業史を通じて、戦前から戦後にかけての日本経済史を学ぶことができます。

そして、何より北九州は私たちにとっての「地元」でもあります。

本講義を受けることで、ここ北九州が「なぜ今、このような状況にあるのか」、そのプロセスを知り原因を理解することができます。

例えば、一時期、100万人の人口を抱えていた北九州ですが、その後、人口は減少の一途をたどり、駅前には「シャッター商店街」が広がっています。

なぜ北九州は活力を失ってしまったのでしょうか。そして今後もこの状況は変わらず続いていくのでしょうか。

これらの問いを、現在に至るプロセス、つまりは歴史をもとに考えてみると、その答えが見えてきます。

北九州市立大学で経済学を学ぶ学生として、ぜひ「地元」の経済に目を向け、その歴史を知り、今を理解してみてください。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

日本経済史II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス - なぜ「北九州」を学ぶのか -
- 第2回 「産業革命」と北九州
- 第3回 日本の工業化と筑豊の発展
- 第4回 近代的労働市場の形成と炭鉱
- 第5回 港湾都市（若松・門司）の発展
- 第6回 「軍都」小倉 - 軍隊と地域経済 -
- 第7回 軍需産業と小倉の工業
- 第8回 軍需・石炭・鉄 - 北九州のアドバンテージと八幡製鉄所 -
- 第9回 八幡製鉄所と地域社会 - 先進的都市の形成 -
- 第10回 「北九州工業地帯」の形成
- 第11回 戦時経済体制の破綻と戦後復興
- 第12回 「エネルギー革命」 - 北九州の地殻変動 -
- 第13回 「高度経済成長」と北九州 - 地理的アドバンテージの喪失 -
- 第14回 産業構造の変化と北九州の衰退
- 第15回 「重厚長大」型経済からの脱却 - 北九州の現在 -

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。このレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義とともに、教養教育科目「知の創造特講B（戦後の日本経済）」を履修することをお勧めします。「戦後の日本経済」では、「日本経済史特講」でも扱う戦後史に焦点を絞り、この内容を北九州に限らず、日本経済全体を俯瞰する観点から詳細に論じています。つまり両者は相互に補完する関係にあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史、北九州工業地帯、石炭、炭鉱、軍需、製鉄、八幡製鉄所、高度経済成長、エネルギー革命

西洋経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	西洋経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	西洋経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋経済史

ECN223M

授業の概要 /Course Description

難民排除を主張するアメリカのトランプ大統領、イギリスのメイ首相、フランスのルペン氏をはじめ右翼政党の伸長、難民保護のドイツのメルケル首相の窮地。こうしたグローバル経済を排除する傾向はなぜ起こったのか。この問題を明らかにしたい。

そのためには、第1次世界大戦と第2次世界大戦の間＝両大戦間期の世界経済を検討しなければならない。

そこで第1になぜアメリカは永遠の繁栄を謳歌できたのか。アメリカの対極としてドイツはなぜ国家倒産に追い込まれていったのかを、巨額な賠償金支払から検討していく。

1929年のニューヨークの株式の暴落と世界恐慌の関連を明らかにする。

その後、各国の世界恐慌対策の結果、なぜ第2次世界大戦が起こったのかを検討する。

第2次世界大戦後のアメリカの世界支配構造をGATTから学ぶ。また、あれだけ絶大であったアメリカ経済がなぜ1971年のニクソンショックとなって終焉したのかを学ぶ。

アメリカの世界的地位の衰退過程を、グローバル化のレーガノミクスからオアバマを経てトランプまでを通じて見る。

欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）からEU形成過程を学びながら、なぜ難民問題を排除するようになったのかを、イギリスとフランス、それにドイツから明らかにする。

最後に、自己中心主義に走る各国をみて、今後いったいどのような世界は全体としてどのような方向目指すのかを一緒に考えたい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グローバル化から自国第一主義へと転換しつつある世界経済を歴史的な視点から明らかにする。
- 2回 アメリカとドイツ経済とを中心に両大戦間期の世界経済の特徴をみる
- 3回 永遠の繁栄のアメリカ（経自動車産業と住宅産業を中心に）
- 4回 国家存亡の危機のドイツ経済の特徴{巨額な賠償金支払いとフランスのルール地方占領、天文学的なインフレ}
- 5回 ドーズ案と相対的安定期の世界経済
- 6回 世界恐慌と各国の対策（ニューディール、ナチス経済、オタワ会議、大東亜共栄圏）
- 7回 ブロック経済と為替ダンピングによる第2次世界大戦
- 8回 第2次大戦後のアメリカの世界支配（IMFとGATT）体制のアメリカとドル散布による西欧諸国の復活
- 9回 ドル危機と1971年のニクソン宣言の意味
- 10回 衰退していくアメリカ経済レーガノミクス
- 11回 1971年ドル危機とニクソン宣言ークリントンー小浜ケアートランプノミクスまで
- 12回 西欧6ヶ国によるEC形成過程（ECSC - S ¥ EEC - EC - マーストリヒト条約ーEU）
- 13回 イギリスのEU加盟騒動から離脱まで
- 14回 なぜ移民を排斥するのか（トランプ、メイ首相、弱体化したメルケル首相、など）
- 15回 グローバル化から自国第一主義までから見えてくるものー縮小する世界経済連携と今後の世界経済ー

西洋経済史 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義でその都度あげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アジア経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができて
	プレゼンテーション力		いる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	アジア経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	アジア経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア経済史

ECN224M

授業の概要 /Course Description

インドや中国がイギリスの植民地となったのに、なぜ日本だけは植民地にならなかったのだろうか。この問題を明らかにするために17世紀からの紅茶帝国主義を見ていきたい。

16世紀に北国で寒いイギリスは中国の茶とインドのキャラコ（更紗）に魅了された。それを前提に、第1に、なぜ中国がイギリスの植民地となっていったのか。

当時、水しか飲んでいなかったイギリスにおいて中国の緑茶がイギリス東インド会社を通じて輸入された。皇室⇒貴族⇒庶民と茶が普及するにつれて、イギリスの貿易赤字問題が発生し、ついにはインドのアヘンをインドから中国に輸出して、貿易のバランス取ろうとした。その結果としてイギリスと中国の間で何が起こったのかを見たい。

第2に、緑茶に砂糖を入れて飲む習慣を覚えたイギリスは、西インド三角貿易を確立した。それはいったいどんなもので、どのような結末となったのかを明らかにしたい。

全体として紅茶帝国主義としてイギリスが中国、インド、アフリカ、西インド諸島を支配したプロセスを明らかにしたい。

第2に、イギリス産業革命はなぜ起こったのか、インド綿であるキャラコ生産をめぐって西インド三角貿易からインドの植民地イギリス産業革命は、キャラコ論争⇒キャラコ輸入禁止⇒ハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンによる模倣⇒機械による綿糸生産といった流れからインドのイギリス植民地化を見ていきたい。

第3に日本がなぜアジアで唯一植民地にならず、工業国となったのかをイギリス、なかんずくスコットランド出身のトーマスグラバーの活動を通じて明らかにしたい。

第4に倒幕に成功した明治維新政府がイギリスの支援を受けていかにして産業国家を育成したのかを、使節団派遣⇒殖産興業⇒地租改正⇒官営工場⇒払下げ⇒財閥の形成から見ていく。

第5になぜ日清戦争が起こったのか。この問題を日本産業革命と財閥の市場としての朝鮮半島の観点から明らかにする。

第6に、世界恐慌と満州事変⇒日中戦争⇒太平洋戦争⇒敗戦の過程を見ていく。

脱亜入欧からはじまって、ついには今日のアジアの一員になっていく日本資本主義の姿を見た後は、アジア地域に位置する日本はいったいどのようにアジア諸国と付き合うのかを、受講生と一緒に考える。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指示する。

アジア経済史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】アジア経済史の目的
- 【第2回】なぜ中国はイギリスの植民地となったのかー豊かさゆえにイギリスに狙われたー
- 【第3回】緑茶輸入とイギリスの貿易赤字対策としてのインドでのケシの花栽培とアヘン戦争
- 【第4回】豊かなインドの特徴ーキャラコと毛織物の比較
- 【第5回】キャラコ論争と毛織物保護とハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンによる機械制キャラコ生産
- 【第6回】インドに職人を手首切断とイギリスのインド支配
- 【第7回】薩長連合の後ろのトーマス・グラバー
- 【第8回】イギリス製の大型砲で徳川幕府を倒した明治維新
- 【第9回】欧米使節団が学んだものー殖産興業⇒地改改正⇒官営工場⇒払下げ⇒財閥の形成（脱亜入欧）
- 【第10回】財閥による産業革命の成功と日清戦争の必然性
- 【第11回】日露戦争でイギリスのカーティフ炭が果たした役割
- 【第12回】第1次世界大戦によって工業国化（軽工業と重工業の確立）となった日本資本主義主義
- 【第13回】世界恐慌とその打開策として日本の満州進出
- 【第14回】父親の軍隊手帳と日中戦争
- 【第15回】世界第2位となった中国とや韓国などアジア諸国とどのように付き合うべきかー結びに代えてー

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ

- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学史【昼】

担当者名 /Instructor 村田 和博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済学思想や理論が展開された歴史及びその背景を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学史

ECN222M

授業の概要 /Course Description

人間の歴史は思考の歴史でもある。我々が生きる経済社会も同様で、現代の経済社会を知るためには、市場社会の形成・確立・展開の歴史のプロセスをとらえ、ときどきの経済社会で展開された理論と思想を理解することが不可欠になる。そこで、本講義では現代に至るまでに登場した経済学の理論と思想について講義する。

(到達目標)

【知識】経済学の歴史について総合的な知識を身につけている。

【技能】経済学の論考をその歴史的背景から理解することができる。

【思考・判断・表現力】経済問題を歴史的論考の中に位置づけ、自分の考えや判断を体系的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年。

早坂忠編『経済学史』ミネルヴァ書房、1989年。

高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会、2002年。

中村廣治、高哲男『市場と反市場の経済思想—経済学の史的再構成』ミネルヴァ書房、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、経済学史とは、重農主義【ケネーの経済表】

第2回 重商主義【富と貨幣、貿易差額説、貿易政策、高利反対論】

第3回 スミス1【古典派経済学とは、富とは何か、分業論、価値と価格、自然価格と市場価格】

第4回 スミス2【賃金と利潤、生産的労働と不生産的労働、重商主義批判、小さな政府論】

第5回 イギリス産業革命期の社会【工場制度の進展、企業規模の拡大、雇用形態と企業管理者、労務管理】

第6回 リカード【労働価値説、地代論、利潤論、機械論、貿易】

第7回 マルサスとオウエン【マルサス：人口論争、貿易、有効需要の理論、オウエン：労務管理、コミュニティ】

第8回 バベッジ【管理の科学化、賃金、大規模生産の優位性】

第9回 ミル【生産論、分配論、動態論、社会主義論】

第10回 マルクス【商品と価値、貨幣、剰余価値、工場制度の光と影】

第11回 ウェーバー【支配の諸類型、官僚制組織】

第12回 マーシャル【4つの時間区分、短期供給曲線と長期供給曲線、内部経済と外部経済、企業家機能、経済騎士道、生活基準の経済学】

第13回 ケインズ1【新古典派の限界、非自発的失業、有効需要の原理、消費関数】

第14回 ケインズ2【乗数効果、資本の限界効率、流動性選好、ケインズ政策】

第15回 シュンペーター【経済発展と新結合、企業者利潤、企業者の機能】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

経済学史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：参考書の該当範囲をよく読み、内容を整理する。
事後学習：授業内容について改めて整理する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済思想史、経済理論史

業界研究I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	個人のキャリア形成に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	キャリア形成に関する知識を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		業界研究 I	CAR310M

授業の概要 /Course Description

この授業は2年生対象の必修科目です。大学2年生2学期という時期に、皆さんのキャリア意識を喚起することを目的としています。皆さんの大学卒業後の進路は民間就職、公務員就職、進学、起業、その他、様々な選択肢が考えられます。皆さんの今後の進路の多様性に関わらず、この授業では、皆さんが自身のキャリアと向き合うための方法を学習します。主な内容は、「自己分析」、「業界・職種研究」、「企業研究」、「労働者の権利」といったものです。一見、民間就職希望者のための授業に見えるかもしれませんが、いずれの内容も皆さんの今後の進路に関わらず、自身のキャリアと向き合う際に、応用することができる内容になっています。なお、それぞれ学外の方を講師として招き、授業してもらいます。

なお本科目は、更なるステップアップ段階（実践の場）として用意されている選択科目「業界研究」の準備としての役割も果たしています。さらに本科目は3年生対象の選択科目「キャリア開発II」に接続します。

(到達目標)

【知識】

個人のキャリア開発に必要な専門的な知識を身につけている。

【コミュニケーション力】

個人のキャリア開発の展望について、口頭や文書によつて的確に伝達することができる。

【自律的行動力】

個人のキャリア形成に関わる課題を発見し、自律的にキャリアデザインをすることができる。

教科書 /Textbooks

とくに使用しません。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学修上、有用なサイトを下記に示します。

- ・ 就職情報サイト「リクナビ」
- ・ 就職情報サイト「あさがくナビ」
- ・ 就職情報サイト「マイナビ」

その他、キャリア開発全般について知るための文献として渡辺峻・伊藤健市(2015)『学生のためのキャリアデザイン入門(第3版)』中央経済社を、労働者の権利について知るための文献として菅野和夫(2019)『労働法(第12版)』弘文堂を読むことを推奨します。

業界研究I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第0回 事前説明と事前課題（1学期中にアナウンスします）
- 第1回 ガイダンスとキャリアデザインの内容と意義【キャリア】
- 第2回 自己分析（1）【社会人基礎力】
- 第3回 自己分析（2）【適性検査】
- 第4回 自己分析（3）【モチベーション】
- 第5回 業界研究（1）【業界・業種】
- 第6回 業界研究（2）【BtoB】【BtoC】
- 第7回 仕事研究【職種】【職掌】
- 第8回 企業研究（1）【同業他社】
- 第9回 企業研究（2）【3C】【5C】
- 第10回 企業研究（3）【ビジネスモデル】
- 第11回 適性検査対策の学習計画【SPI】【玉手箱】【TG-WEB】
- 第12回 講演会（授業中にアナウンスします）
- 第13回 労働者の権利（1）【労働契約】
- 第14回 労働者の権利（2）【労働者保護】
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 全体評価100%のうち
- ・ 事前課題（My Compass 1st）：10%（単位認定要件）
 - ・ 適性検査対策eラーニング教材：20%（課題3回）
 - ・ 第2～第10回、第13回～第14回授業の平常点：55%
 - ・ 講演会課題：5%
 - ・ 期末課題（My Compass 2nd）：10%（単位認定要件）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に示された内容については必ず予習し、課された課題については熱心に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1学期の履修登録期間に必ず登録すること。
- ・ 1学期中に事前課題の説明に関するアナウンスをします。
- ・ 1学期中に重要な連絡等を、Moodleコースを通じて行います。毎回、必ず閲覧するようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア開発、自己分析、業界研究、企業研究、仕事研究、適性検査、労働法

業界研究II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	みずからのインターンシップ体験を口頭や文書によつて的確に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	インターンシップに対し意欲的かつ挑戦的に取り組むことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		業界研究II	CAR380M

授業の概要 /Course Description

本講義は本学経済学部が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものです。本講義は夏季集中科目ですが、実際の授業は夏季休暇前から始まるという点、また、履修登録方法が一般の科目と少し異なる点に注意してください（登録方法に関しては4月にMoodle上で説明されます。なお、履修ガイドの注意事項にも記載してあり、本講義は「キャリア開発I」の単位を修得済みであることが受講条件です）。

この講義のねらいは、（1）就業体験（インターンシップ）を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、（2）大学での学習体験を現場で活かし、学問上の学習意欲を高めるとともに、実践的な知識をも習得すること、（3）職業意識を涵養し、進路選択に資すること、（4）就業体験（インターンシップ）を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上4点です。

インターンシップへの参加は、実際の就業体験を通じて、「働く」とはどういうことかを考え、業界や企業の現実を知り、また自分の「向き不向き」を確かめ「向き不向き」について新たな発見をする機会となり、今後の人生・進路について改めて考える機会ともなります。

インターンシップにおいてはアルバイトとは違い、一定期間とは言え、「社会人」という立場で企業に身を置くこととなります。そこには事前に知っておくべき知識や所作などがあり、これを欠いてはせっかくのインターンシップも実り多いものとはなりません。そこで本講義では、事前にインターンシップで必要となる情報を学ぶ機会を提供します。またインターンシップで得た実感を今後役立つスキルにまで昇華してもらうべく、インターンシップ後には、プレゼンテーションやディスカッションの機会を用意しています。

なお、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意してください。詳細については、履修ガイドの注意事項を参照してください。また4月に詳細を説明する機会を設けますので注意しておいてください。

（到達目標）

【知識】業界研究に必要な専門的な知識を身につけている。

【コミュニケーション力】様々な業界について研究し、口頭や文書によつて的確に伝達することができる。

【自律的行動力】様々な業界について研究し、自身のキャリアデザインと結びつけることができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

よい機会ですので、インターンシップに行く前にキャリアに関する文献を読んでおいてください。

図書館にもある本をいくつか挙げておきます。

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書(○)

森岡孝二(2011)『就職とは何か』岩波新書(○)

渡辺峻・伊藤健市(2013)『学生のためのキャリアデザイン入門(第2版)』中央経済社(○)

三戸公(1991)『会社ってなんだ』文真堂(○)

業界研究II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習(7月上旬から8月上旬に複数回実施、全回の受講が必須)
- 第5回～12回 インターンシップによる実践的活動(8月～9月)
- 第13回～15回 活動報告と事後評価(9月下旬に一日集中で実施予定、受講が必須)

※上述しましたが、通常の学期科目とは異なり変則的な日程が組まれます。日程の詳細については4月にMoodle上で説明がなされる予定ですので、よく確認してください。

※9月下旬に開催予定の「事後報告会」(第13～15回に相当)では、インターンシップの成果について10分間程度、パワーポイントにて報告してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

学生が提出するインターンシップ報告書(就業受け入れ企業・団体・組織の評価を含む)および報告会の発表内容により総合的に評価します。なお、インターンシップ報告書は事後報告会のときに提出しなければなりません。

※事前研修、インターンシップ、事後報告会の全日程への出席が単位修得要件です。いずれかを無断で欠席した場合には原則として成績が不可となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: インターンシップに行くにあたって失礼のないように、希望する産業および企業に関する理解を諸文献を通じて深めておいてください。

事後学習: インターンシップ後にインターンシップ報告書を作成し事後報告会の準備をすることが事後学習に当たります。また事後報告会后にディスカッションの振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 2年2学期開講の「キャリア開発I」の単位修得済みであることが受講条件となります。なお、履修ガイドの該当注意事項を参照してください。
- (2) 本科目は1学期の時点から受講に関わるいくつかの申込手続きが開始されますので、それぞれの手続きの締切日には注意を払ってください。また、本科目の履修のためには諸書類を提出してもらう必要があります。例年、この書類不備のために履修不可になってしまう学生が後を絶ちませんので、細心の注意を払ってください。申込プロセスやスケジュールについては4月にMoodle上で説明する予定です。
- (3) 単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前研修と事後報告会(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)のすべてに出席しなければなりません。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとします。
- (4) インターンシップに行くにあたり、事前の業界・企業研究と、事後的な振り返りを怠らないよう努めてください。
- (5) 本科目の関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教育科目の「キャリアデザイン」などが参考になるかと思えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

例年、履修申請をしながら、事前研修や事後報告会を無断で欠席する学生が散見されます。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むよう心掛けてください。

今後の就職活動およびその後の人生において必ず役立ちますので、インターンシップに行くことをよい機会として、社会人としての自覚をもち、基本的素養を身につけるようにしてください。

本科目を通じて「業界や企業に関する知識」「自己の理解」が豊かになることを願っています。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

外書講読【昼】

担当者名 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国語で書かれた経済に関する文献を講読するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	外国語で書かれた経済に関する文献講読を通じて、身の回りの経済の諸問題を理解し、その解決策を検討することができる。
	生涯学習力	●	外国語で書かれた経済に関する文献講読を通じて、身の回りの経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外書講読

ECN390M

授業の概要 /Course Description

発音の周波数域一つ取ってみても、英語と日本語は全く異なった言語と言えます。ですから、日本でだけ暮らしている人には、英語はたいへん聞き取りにくく感じられます。逆の経験として、私は、アメリカに住んでいたときに不意に日本語で話しかけられ、全然聞き取れなかったことがありました。

そんな英語の文章を、日本人が読めるようにするにはどうすればいいんでしょう？私は、カタカナ発音と学校文法からどれだけ脱却できるかだと思います。その過程で、辞書をできるだけ引かず、書いてある内容を漠然とでも理解しながら適度なスピードで読み進む練習がとても重要になります。

授業では、参加者に順番に、経済に関する英文を音読してもらいながら、日本語で内容を解説します。また、各国経済や国際経済に関する必要な知識を説明していきます。

【到達目標】

1. 外国語で書かれた文献から専門的な内容を読み取ることができる。
2. 外国語文献の購読を通じて、異なる社会背景を理解しつつ、社会活動を促進する力を身につけている。
3. 外国語文献の購読を通じて、異なる社会背景への関心とキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

The Economist 誌の Finance & Economics の記事（こちらで用意します）。

The Economist は1843年9月にロンドンで発行が開始され、現在も世界で読まれている英文経済雑誌です。世界中のビジネスマンや経済学者をファンに持ちます。記事の内容も世界のあらゆる事情に渡りますが、タイムリーで興味深い内容を中心に毎回最新号の記事を読み解いていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な書籍があれば授業で紹介します。

外書講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The Economist を読む (1)
2. The Economist を読む (2)
3. The Economist を読む (3)
4. The Economist を読む (4)
5. The Economist を読む (5)
6. The Economist を読む (6)
7. The Economist を読む (7)
8. The Economist を読む (8)
9. The Economist を読む (9)
10. The Economist を読む (10)
11. The Economist を読む (11)
12. The Economist を読む (12)
13. The Economist を読む (13)
14. The Economist を読む (14)
15. The Economist を読む (15)

たとえば、日本のニュースでも株価、為替レートなどがよく出てきますが、あなたはそれらを英語で言えますか。正解はそれぞれ、stock price, foreign exchange rate です。日本語のニュースでよく聞く経済用語も英語では意外と言えないものですよ。

授業では世界の企業や業界の現状や各国の金融、景気動向などについてのタイムリーな記事を取り上げ、参加意識を持ちながら楽しく読解に取り組めます。知らず知らずのうちに英文読解力を身に付けることができます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加割合で100%評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、インターネットやマスメディアで、ときどきの世界経済やアメリカ経済の状況を調べておいてください (20分)。
事後学習は、授業で取り上げた英文をあらためて通読し、知らなかった単語や文章の内容を再確認しておいてください (20分)。

履修上の注意 /Remarks

この授業では、英文読解のコツを伝授したいと思います。経済学者による英文講読の授業で、英語を読む勉強と経済知識の獲得と、一挙両得を目論みませんか？英語は得意だがもっと読解に強くなりたい人にも、昔から英語に苦手意識のある人にも、面白く、ためになる授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気楽な気持ちで受講してください。英語力と経済知識が自然に身に付きます。

私は福岡大学教授 (経済学部・大学院経済学研究科) なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール (yamazaki@kitakyu-u.ac.jp) に送ってください。

キーワード /Keywords

The Economist 世界経済 国際金融 業界 英語力 経済知識 発音 読解

ビジネス英語 A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of both Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

(到達目標)

【技能】 英語を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】 英語を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】 ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

ビジネス英語 A (選抜クラス) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語 A 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of both Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

(到達目標)

【技能】英語を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】英語を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む現代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わるやり取りを理解することで、貿易の一連の流れを学びます。その第一歩としては、どのような場で英語が使われるかの理解から始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、必要な技能はリーディング・ライティングが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識の理解も目指します。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEICの対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。

(到達目標)

【技能】英語を用いた基本的なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】英語を用いてビジネスを想定した基本的な意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション グローバルビジネス 【ビジネス】
- 2回 オリエンテーション グローバルビジネスにおけるコミュニケーション 【コミュニケーション】
- 3回 ビジネスコミュニケーションと英語 【ビジネス、英語】
- 4回 レターとEメールのフォーマット(1) 【構成】
- 5回 レターとEメールのフォーマット(2) 【エチケット】
- 6回 オフィスの英語 電話の英語 (1) 【リスニング】
- 7回 オフィスの英語 電話の英語 (2) 【メッセージ】
- 8回 海外出張の英語(1) 【スケジュール】
- 9回 海外出張の英語(2) 【交渉】
- 10回 ビジネス社交の英語(1) 【招待】
- 11回 ビジネス社交の英語(2) 【案内】
- 12回 取引申込の英語(1) 【新規取引】
- 13回 取引申込の英語(2) 【信用照会】
- 14回 引合いの英語 (1) 【インコタームズ】
- 15回 引合いの英語 (2) 【見積もり】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

ビジネス英語 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、意味・発音等が分からない表現は、辞書等を使い調べておきます。日本語テキストの場合は、意味・読みが分からない表現を調べておきます。
 事後学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、授業で確認したことの理解を深めます。そのためには、テキスト付属のCDを何度も聞いて、文字・音声・意味が結びつくようにします。そして音読を繰り返します。日本語テキストの場合は、ビジネスについての実務の理解を深めるようにテキスト・ノートを読み込みます。英語・日本語のどちらにしても、事後学習で疑問点が出れば、次回授業で質問をしてください。メールでの質問もできます。

履修上の注意 /Remarks

次回の予告をします。「事前・事後学習の内容」にあることを、確実にすることが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易にはなじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる表現に初めて出会い、特殊に見えるからだけです。習うより慣れろが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

(到達目標)

【技能】英語を用いた流麗なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】英語を用いてビジネスを想定した深い意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、グローバル社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

ビジネス英語 B (選抜クラス) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers of Japanese and non-Japanese living in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, role-play conversations, and reading challenges.

(到達目標)

【技能】英語を用いた流麗なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】英語を用いてビジネスを想定した深い意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、グローバル社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

ビジネス英語 B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This class is a great opportunity for students to practice the 4 skills of English (Listening, Speaking, Reading, Writing) while learning unique business approaches and thinking from around the world.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。ビジネス英語が初めての人もいますので、最初に英文ビジネスレター・メールの構成要素のような基本的なことから学び始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、リーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識（貿易実務の知識）を習得します。テキストは、原則として二回の授業で一つのチャプターを終えます。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEIC対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。TOEICのテキストは、二回の授業で一つの章を終えます。ビジネス英語Aと同じテキストを使いますが、Bの方が英語は少し難しくなっています。

(到達目標)

【技能】英語を用いた流麗なビジネスコミュニケーションができる。

【コミュニケーション力】英語を用いてビジネスを想定した深い意思疎通を図ることができ、社会活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】ビジネス英語への関心とキャリア意識を持ち続け、グローバル社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

ビジネス英語B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション グローバルビジネスにおけるコミュニケーション 【ビジネス】
- 2回 レター、メールの構成要素 【定型表現】
- 3回 オファーの英語 (1) 【オファー、インコタームズ】
- 3回 オファーの英語 (2) 【カウンターオファー】
- 4回 注文の英語 (1) 【発注】
- 5回 注文の英語 (2) 【信用状態】
- 6回 契約書の英語 (1) 【契約、信用状】
- 7回 契約書の英語 (2) 【売買契約】
- 8回 信用状の英語 (1) 【当事者】
- 9回 信用状の英語 (2) 【取り消し不能信用状】 9回 海外出張の英語(2) 【交渉】
- 10回 出荷の英語 (1) 【船積み】
- 11回 出荷の英語 (2) 【船積書類】
- 12回 決済の英語 (1) 【支払い】
- 13回 決済の英語 (2) 【支払い方法】
- 14回 クレームの英語 (1) 【請求】
- 15回 クレームの英語 (2) 【処理】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、意味・発音等が分からない表現は、辞書等を使い調べておきます。日本語テキストの場合は、意味・読みが分からない表現を調べておきます。

事後学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、授業で確認したことの理解を深めます。そのためには、テキスト付属のCDを何度も聞いて、文字・音声・意味が結びつくようにします。そして音読を繰り返します。日本語テキストの場合は、ビジネスについての実務の理解を深めるようにテキスト・ノートを読み込みます。英語・日本語のどちらにしても、事後学習で疑問点が出れば、次回授業で質問をしてください。メールでの質問もできます。

履修上の注意 /Remarks

次回の予告をします。「事前・事後学習の内容」にあることを、確実にすることが必要です。辞書、テキストを忘れると評価が下がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語に初めて出会うからであり、特殊に見えるからです。習うより慣れろが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター / メール

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易（1）【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易（2）【貿易の利益】
- 4回 不完全競争と国際貿易（3）【ダンピング】【価格差別化】
- 5回 不完全競争と国際貿易（4）【産業内貿易】【独占的競争市場】
- 6回 不完全競争と貿易政策（1）【輸入関税】
- 7回 不完全競争と貿易政策（2）【輸入数量割当】
- 8回 不完全競争と貿易政策（3）【外国独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易政策（4）【戦略的貿易政策】
- 10回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 11回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 12回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 13回 貿易と環境（2）【排出権取引】
- 14回 貿易と環境（3）【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論の履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

（到達目標）

【知識】

公共経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【技能】

公共経済学で取り扱う課題に対し必要な高度な分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、公共政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

公共経済学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト（12回）...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス論【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ファイナンスに関する専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ファイナンスに関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ファイナンス論

ECN360M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせ、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。

ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。

(到達目標)

【知識】ファイナンスに関する専門的な知識を身につけている。

【技能】ファイナンスに関する分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】ファイナンスに関する諸問題について、論理的に思考して対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

神原&城下&姜&福田&岡村著(2013)『入門証券論 [第3版]』有斐閣

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井・国枝監訳(2014)『コーポレート・ファイナンス 第10版 上』『コーポレート・ファイナンス 第10版 下』日経BP社

○小林孝雄・芹田敏夫(2009)『新・証券投資論 [I]』日本経済新聞出版社

伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣(2009)『新・証券投資論 [II]』日本経済新聞出版社

○日本証券アナリスト協会編『証券投資論 第3版』日本経済新聞社

○三井住友信託銀行マーケット事業(2020)『第7版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

○筒井義郎・佐々木俊一郎・山根承子・グレッグ・マルデワ(2017)『行動経済学入門』東洋経済新報社

ファイナンス論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券（1）【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券（2）【単利】【複利】
- 6回 株式（1）【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式（2）【配当割引モデル】
- 8回 行動ファイナンス【プロスペクト理論】【価値関数】【損失回避】
- 9回 ポートフォリオ理論（1）【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論（2）【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論（3）【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論（4）【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論（5）【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM（資本資産評価モデル）（1）【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM（資本資産評価モデル）（2）【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。
- ・ 日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 毎回授業に出席して、内容を100%理解するように努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

(到達目標)

【知識】 財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 2) 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- 3) わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学II

ECN362M

授業の概要 /Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。

（到達目標）

【知識】現代の主要な財政問題に関して専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】現代の主要な財政問題の分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 2) マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- 3) マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 4) 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。

事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。

財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論では、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当て、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②独占禁止政策を理解する。
- ③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

教科書 /Textbooks

小田切宏之著『競争政策論（第2版）』日本評論社 2017年
小田切宏之著『産業組織論』有斐閣 2019年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

花園誠著『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣 2018年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義全体の概略の説明
- 2回 競争政策(1) 競争政策とは何か? 独占禁止法入門
- 3回 競争政策(2) 競争政策はなぜ重要か? 独占禁止法の解説(外部講師の招へい)
- 4回 産業組織論の方法論的基礎 SCPパラダイム: 市場構造・市場行動・市場成果
- 5回 市場の諸類型(1) 市場構造と競争形態(完全競争・独占・寡占・独占的競争)
- 6回 市場の諸類型(2) 市場構造と競争形態(ハーフィンダル指数)
- 7回 コンテスタブル・マーケット 航空産業の事例
- 8回 地域独占産業の事例 日本の電力システムの構造改革
- 9回 共謀と暗黙の協調 カルテル(談合)と暗黙の協調
- 10回 M&Aについて(1) M & Aの定義・理論
- 11回 M&Aについて(2) 事例研究
- 12回 垂直的取引制限 再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
- 13回 ネット取引とプラットフォーム プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
- 14回 イノベーションと知的財産権 知的財産権 短期効率性と長期的効率性のトレードオフ、特許制度と競争政策
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパー20%、定期試験(論述問題・計算問題など)80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。本講義では、現代を代表するさまざまな産業をとりあげ、その産業の歴史的発展に注意しながら、どのようなメカニズムで産業が進化・発展していくのかを産業組織論の観点から探求する。できるだけ個別に企業・産業をとりあげ、各企業の企業戦略をケース・スタディによって具体的にみながら、企業や産業の構造・戦略的行動および政府による政策的効果が市場の成果にどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。とりあげる産業としては、ビール産業、自動車産業、情報通信産業などである。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②代表的な産業の歴史的な発展のメカニズムを理解する。
- ③政府による産業政策や競争政策、規制のあり方が産業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『日本産業三つの波』NTT出版
小田切・後藤『日本の企業進化』東洋経済新報社
浅羽茂『競争と協調の戦略』日本評論社
伊丹・加護野・小林・榊原・伊藤『競争と革新 自動車産業の企業成長』東洋経済新報社
丸山恵也・小栗崇資・加茂紀子『自動車産業』大月書店
奥野・南部・鈴木『日本の電気通信-競争と規制の経済学』日本経済新聞社
福家秀紀『情報通信産業の構造と規制緩和-日米英比較研究』
日経ビジネス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 講義全体の概略の説明、戦後経済・産業の歩み
- 2回 個別産業の研究 ビール産業(1) ビール産業の歴史、ビール産業のシェアの変動
- 3回 個別産業の研究 ビール産業(2) ドライ戦争：ス・パードライの事例研究
- 4回 個別産業の研究 ビール産業(3) 味覚戦争：製品差別化とは(水平的差別化と垂直的差別化) 味覚地図
- 5回 個別産業の研究 ビール産業(4) 発泡酒戦争の事例研究
- 6回 個別産業の研究 ビール産業(5) ビール産業の価格戦略(カルテルとプライスリーダーシップ)
- 7回 個別産業の研究 補論 デイズニーランドの価格戦略
- 8回 個別産業の研究 自動車産業(1) 米国の自動車産業の歴史
- 9回 個別産業の研究 自動車産業(2) 日本の自動車産業の歴史、日本の産業政策
- 10回 個別産業の研究 自動車産業(3) 自動車産業の国際戦略・世界的再編
- 11回 個別産業の研究 自動車産業(4) トヨタ生産システムとその進化
- 12回 個別産業の研究 自動車産業(5) CASE革命とそれによる産業構造の変化
- 13回 個別産業の研究 情報通信産業(1) 規制改革と民営化の理論
- 14回 個別産業の研究 情報通信産業(2) 電電公社の民営化・規制改革-第1次情報通信改革-
- 15回 個別産業の研究 情報通信産業(3) 第2次情報通信改革 ブロードバンド・インターネット時代の規制政策

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパー20%、定期試験(論述問題など)80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学 I

ECN343M

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

(到達目標)

【知識】労働経済に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】経済学的分析手法を労働市場に活用するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】労働市場の経済学的問題とその原因を論理的に推測し、その対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.

『労働経済学』, 樋口美雄, 東洋経済新報社.

『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 経済学の視点から見た労働 【労働】 【給与水準】
- 第2回 社会的分業と生産性 【分業の利益】 【規模の経済】
- 第3回 労働市場という概念と機能 【労働力の取引】 【労働市場】
- 第4回 労働力の質の質と技能 【人的資本】 【一般的・企業特殊技能】
- 第5回 企業の労働需要 【労働の限界収入】 【企業の労働需要曲線】
- 第6回 市場の労働需要 【代替と補完】 【市場の労働需要曲線】
- 第7回 個人の労働供給 【労働の限界不効用】 【個人の労働供給曲線】
- 第8回 市場の労働供給 【市場の労働供給曲線】 【労働移動】
- 第9回 労働市場のメカニズム 【市場メカニズム】 【補償賃金】
- 第10回 中間課題
- 第11回 労働市場への介入とその帰結 【価格規制】 【数量規制】
- 第12回 失業の原因と対策(1) 【オークンの法則】 【賃金の下方硬直性】
- 第13回 失業の原因と対策(2) 【ミスマッチ】 【摩擦的失業】 【構造的失業】
- 第14回 公的部門の労働市場 【公的部門】 【民間準拠】
- 第15回 労働市場の内部化 【内部労働市場】 【正社員】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容確認テスト(20%) + 中間課題(30%) + 期末試験or期末課題(50%)

* 授業内容確認テストは5問程度の出題です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題を提示しますので取り組みましょう。
参考資料を提示するので各自で読みましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に課題に取り組むことがあります。課題に回答するためにはスマートフォンやPC等が必要です。持参しましょう。
毎回、Moodleコースを閲覧しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会的分業、労働市場、失業、賃金格差

労働経済学II 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学II

ECN344M

授業の概要 /Course Description

企業にとって「労働」は最も重要な生産要素であると同時に、最も扱いにくい生産要素の一つです。したがって、企業は「労働」をどのように活用していくべきかについて十分に考察しなければなりません。本講義では、企業の立場から「労働」をいかに活用していくべきかを経済学的に考えるために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

(到達目標)

【知識】労働経済に関する応用的な知識を身につけている。

【技能】経済学的分析手法を企業組織に活用するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】企業組織の経済学的問題とその原因を論理的に推測し、その対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』, ポール・ミルグロム, ジョン・ロバーツ著 (奥野正寛他 訳) NTT出版.

『人事と組織の経済学』, エドワード・ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人事マネジメントとは 【人事経済学】
- 第2回 組織構造とインセンティブ 【情報伝達】 【インセンティブ】 【権限】
- 第3回 組織とフリーライド問題(1) 【ナッシュ均衡】 【フリーライド】
- 第4回 組織とフリーライド問題(2) 【監督者】 【残余利潤請求権】
- 第5回 事業規模と雇用量 【限界基準】 【代替と補完】
- 第6回 採用選抜 【スクリーニング】 【自己選抜】
- 第7回 雇用調整(1) 【調整費用】 【長期的視野】
- 第8回 雇用調整(2) 【採用費用】 【解雇費用】
- 第9回 離職と解雇 【解雇規制】 【割増退職金】
- 第10回 インセンティブと報酬体系(1) 【参加制約】 【インセンティブ制約】
- 第11回 インセンティブと報酬体系(2) 【プロフィットシェアリング】 【モニタリング問題】
- 第12回 インセンティブと報酬体系(3) 【固定給】 【出来高給】
- 第13回 報酬体系の設計(1) 【投入量ベース】 【産出量ベース】
- 第14回 報酬体系の設計(2) 【絶対評価】 【相対評価】
- 第15回 報酬体系の事例 【俸給表】 【コミッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容確認テスト(30%) + 課題2回(40%) + 期末試験or期末課題(30%)

* 授業内容確認テストは5問程度です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題に取り組みましょう。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に課題に取り組むことがあります。課題の回答のためにはスマートフォンやPC等が必要となります。持参しましょう。
履修済みであることが望ましい科目：労働経済学I
並行学習が効果的である科目：人事管理論、経営組織論、雇用関係法
毎回、Moodleコースを閲覧しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事経済学、インセンティブ設計、報酬体系、採用、離職、解雇

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考え方を持つ政治家や官僚や国民が存在する。例えば、アメリカのトランプ前大統領であり、前大統領を現時点においても支持しているアメリカ国民(共和党支持者等)である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくならないのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。
テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国前大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学 I

ECN310M

授業の概要 /Course Description

< 講義の概要 >

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合の国際マクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の最新の動向」及び「日本経済の現状と課題」について「国際マクロ経済学」の視点から理解することが出来るようになるものと考えられる。なお、国際マクロ経済学では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が研究対象となるので、「国際収支表」と「国際収支の諸概念」等々の国際マクロ経済の統計指標（データ）の動向が分析対象になる。なお、国際収支表については、近年の国際金融の拡大を反映した国際通貨基金（IMF）による新改訂版「国際収支マニュアル：BPM」（第6版）についても言及していく予定である。

【追記】なお、本講義では、上記の授業概要のサブタイトル「通貨の視点から国際経済の動向を診る」を中心に、米国通貨ドル（\$）を基軸とした「国際通貨制度」の持続可能性について、「グローバル・インバラン」（Global Imbalances）問題について併せて考察していく予定である。これにより、現在の最大の課題である「国際金融危機」or「通貨危機」の解決の糸口が見えてくるものと考えられる。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際マクロ経済学I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 国際経済の課題（問題提起）：“グローバル・インバランス”とその持続可能性・・・【経常収支黒字・赤字】
【国際資本の動向】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅰ）：国際資本（国際剰余資金）とアメリカ経済・・・【国際資本】【基軸通貨：ドル】
- 第4回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済の動向と欧州連合（EU）&新興経済国（BRICs）の現状 【英国のEU離脱】【欧州連合】【共通通貨：ユーロ】【ギリシャの財政危機】【中国経済の現状】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅰ）—マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）—・・・【総供給・総需要】 【閉鎖経済・開放経済モデル】【輸入超過&輸出超過】【マクロ不均衡と経常収支】【世界経済の不均衡問題】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅱ）—国際マクロ経済の分析枠組み（応用理論）— 【アブソープション理論】
【内需・外需】【経常収支の黒字・赤字】【世界一の債権国】【世界一の債務国】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅰ）・・・【経常収支】【資本収支or金融収支】【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅱ）・・・【経常収支黒字と資本収支赤字】【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）・・・【経常赤字】【財政赤字】【外貨準備高】【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）・・・【資本の輸出】【対外投資】【対外純資産】【世界一の債権国】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ）【資金循環】【財政収支】【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ）【過剰貯蓄】【資本輸出】【金融資産】
- 第13回 日本経済現状分析：経常収支の黒字問題と外貨準備高
【円高&円安の経済分析】【対外純資産】【円キャリートレード】【円高とデフレ】
- 第14回 世界経済の不均衡問題・・・【経常収支の黒字・赤字】【債権大国：日本・中国】【債務大国：アメリカ】
【グローバル・インバランス】【国際資本移動】【オフショアドル】
- 第15回 まとめ - 日本経済の再生：円の国際戦略&円の国際化 -

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み（授業の中で適宜指示します）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業内容に関連する資料（雑誌記事、新聞記事etc）を収集して、事前・事後の学習に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、授業の補助教材ですので、テキストやノートと共に有効に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部学生は、事前に「マクロ経済学」や「国際金融論」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおくとよいでしょう。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給・バランス オープン・マクロ 国際収支表 アブソープション 経常収支黒字・赤字 資本収支赤字・黒字 外貨準備高 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務 対外純資産 円キャリートレード 貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本移動 円高・円安 基軸通貨：米ドル 共通通貨：ユーロ グローバル・インバランス 世界経済の不均衡 国際通貨のトリレンマ オフショアドル

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学II

ECN311M

授業の概要 /Course Description

< 講義の概要 >

国際マクロ経済学は、海外との経済取引を考察の対象とするので、究極的には、“外国為替レート”の問題が議論の中心になってくる。外国為替レートは、基本的には海外貿易や資本取引（国際金融）といった経済取引を反映した形で外国為替市場で決定されるが、今日では「国際資本」（グローバル・マネー）の動きが活発になってきており、グローバル・マネーの動向（投機的な動き）が各国の為替レートに大きな影響を及ぼし、各国の実体経済に深刻な影響を与えている。

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な“外国為替市場”に関する「基本概念」と「基本理論」をできる限り平易に解説していくことを目的としている。特に、現在の国際通貨システムの根幹を担っている米国通貨ドル（基軸通貨）の役割が大きく揺らいできている状況下、国際通貨（基軸通貨）ドルの不安定な動きが国際金融システムの波乱要因ともなっている。

講義では、「金融のグローバル化」が急速に進展する状況下、国際資本（グローバル・マネー）の動向が世界経済に与える影響について、国際マクロ経済学（オープン・マクロ経済学）の視点から、“理論と現実経済”の両面から分かりやすく解説していく予定である。

< 講義の目的 >

本講義を受けることで、「国際マクロ経済学」を“通貨”（為替レート）の視点から理解し、各国のマクロ経済政策の在り方について理解を深めて頂けることを講義の目的としています。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際マクロ経済学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクションー国際通貨システムの視点から見た「世界経済の動向」と「日本経済」ー	
第2回	国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【固定相場制度】 【変動相場制度】 【管理通貨制度】	【IMF 体制】 【
	SDR】 【国際通貨制度の三位一体説】 【流動性ジレンマ】 【最適通貨制度】 【複数通貨制度】	
第3回	外国為替取引と為替レート 【外国為替市場】 【邦貨（円）建てレート】 【外貨（ドル）建てレート】	
第4回	外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】 【固定レート】 【市場レート】	
第5回	外国為替レートの決定メカニズム（I） 【フロー・アプローチ】 【購買力平価説】	
第6回	外国為替レートの決定メカニズム（II） 【アセット・アプローチ】 【投機と為替レート】	
第7回	変動為替相場（フロート）制度 【管理フロート制】 【円高】 【円安】	
第8回	固定為替相場制度 【平価】 【為替介入】 【外貨取引の規制】 【マクロ経済政策】	
第9回	変動為替相場制度と為替介入（I） 【通貨当局】 【国為替資金特別会計】 【FB：政府短期証券】	
	【外貨準備高】 【ファンダメンタルズ分析】	
第10回	変動為替相場制度と為替介入（II） 【中央銀行】 【ベース・マネー】 【マネー・サプライ】	
	【不胎化介入政策】 【非不胎化介入政策】	
第11回	外国為替レートとマクロ経済政策の効果（I） 【IS曲線】 【LM曲線】 【財政政策】 【金融政策】	
第12回	外国為替レートとマクロ経済政策の効果（II） 【マンデル＝フレミングモデル】 【BP曲線】 【世界金利】	
第13回	グローバル経済化と国際資本移動【I】 【金融のグローバル化】 【グローバル・マネー】 【金融危機】	
第14回	グローバル経済化と国際資本移動【II】 【通貨危機】 【為替変動リスク】 【ヘッジファンド】	
第15回	まとめー世界経済の動向と今後の展望ー	

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 . . . 80%
- (2) 授業への意欲益な取組み（授業中に適宜指示します） . . . 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業単元（授業内容）の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連する資料（雑誌記事、新聞記事etc）を収集して、事前予習や事後復習に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布した資料は、テキストやノートと共に授業中の補助教材として活用します。予習や復習に役立
てると共に、授業には必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部学生は、マクロ経済学や金融論、財政学などの講義を事前に受講していれば本講義の理解に役に立つ
でしょう。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものにな
るでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 基軸通貨（国際通貨） MF 体制 SDR 国際通貨制度の三位一体説（or 国際金融のトリレンマ） 流動性ジレンマ 最
適通貨制度 複数通貨制度 外国為替市場 邦貨（円）建てレート 外貨（ドル）建てレート 平価 通貨政策 ファンダメンタルズ分析 為替介
入 外貨取引の規制 国際金融 金融政策 財政政策 円高 円安通貨当局 管理フロート制 外国為替資金特別会計 FB（政府短期証券）
不胎化介入政策 非不胎化介入政策 国際資本移動 グローバル・マネー 金融危機 通貨危機 為替変動リスク ヘッジファンド

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。
加えて日本は、人口減少社会に突入している。
大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。
本講義では主に以下の4つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。
4. 人口減少社会を迎えた日本のポスト・コロナ期の地域経済について考察する。

(到達目標)

- 【知識】 地域経済に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域経済が抱える諸問題について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
- 【自律的行動力】 地域経済が抱える諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】【経済地理学】【地域政策】
- 3回 経済発展と地域構造【産業構造】
- 4回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 5回 工業化の進展②【高加工度化】
- 6回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 7回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 8回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 9回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 10回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 11回 工業地帯から大都市へ【太平洋ベルト地帯】【東京一極集中】
- 12回 一体型国土構造の盛衰【一体型国土構造】
- 13回 人口動態と地域経済【生産年齢人口】【デフレの正体】
- 14回 ポスト・コロナ時代の地域経済(「地域経済II」にむけて)【新型コロナ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済II

ECN245M

授業の概要 /Course Description

今日われわれの経済システムは大きな変化に見舞われている。
その影響を受け、我々の生活も、またその生活の場である地域経済も大きな変化を強いられている。
本講義は「技術革新と経済システム」の関係づけがベースとなっている。

具体的には

「コンピュータ・ネットワーク（CN）が経済を変え、ひいては私たちの生活の場である地域経済を変える」ということを学ぶ。

「従来は情報は人が運んでいたが、今日ではCNが運んでおり、人が運ぶのは専らウイルスであった」とった話。

（到達目標）

【知識】地域経済に関する専門的かつ応用的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】地域経済が抱える諸問題について総合的に思考して、解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自律的行動力】地域経済が抱える諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、望ましい社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コロナ禍で何が変わっているのか（講義の概要）
- 2回 資本主義が終わるって言われても【資本主義】
- 3回 人工知能で仕事なくなる？【AI】【IoT】
- 4回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 5回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 6回 技術革新と経済発展【技術論】
- 7回 インターネットの衝撃【CN（コンピュータ・ネットワーク）】
- 8回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 9回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 10回 市場の世界化②【労働市場】
- 11回 CNと都市【産業集積】
- 12回 ウイルスもまた人が運ぶ【新型コロナウイルス】
- 13回 イノベーションとクリエーション【イノベーション】【クリエーション】
- 14回 地域経済の行方【セルフ・プロモーション】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域政策を検討するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域政策に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域政策

ECN250M

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で全国的な視点からの地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

DPに基づく到達目標

《豊かな「知識」》

地域政策に関するニュースや文書を読んで理解することができる。

《時代を切り開く「思考・判断・表現力」》

地域課題に対する対策と地域のビジョンを提案することができる

《社会で生きる「自立的行動力」》

地域課題や政策を自分自身の生活と関連づけて説明することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。

配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本間義人『国土計画を考える』中公新書、1999年。

山崎亮『縮充する日本』PHP新書、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のランドデザインと国土形成計画について
- 8回 人口減少のインパクトと地方創生政策
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口、関係人口と移住政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート（20％）と期末テスト（80％）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1) 講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2) 事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。
なお、新型コロナの状況によっては、ワークショップ形式は実施できない場合があります。また、遠隔授業になった場合には、シラバス掲載内容を一部変更する場合があります。変更についてはmoodleに掲載します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

北九州経済分析I【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	北九州市の経済動向を理解するために基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析 I

ECN251M

授業の概要 /Course Description

1～5回は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、着目すべき企業や経営者について解説し、北九州市の特徴について考察を加えます。
6～9回は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業戦略、産業動向・業態変化などのダイナミズムについて考察します。
10～14回は、都市としての北九州市の変容過程を説明するとともに、小倉などの中心市街地や東田開発などの地域開発について具体的に考察します。
そして、15回は1～14回を総括する形で、北九州市の特徴を考察し、今後について展望します。
よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しいと思います。

DPに基づく到達目標

《豊かな知識》

北九州の歴史や産業、経済動向について豊富な知識を蓄える

《次代を切り開く「思考・判断・表現力」》

北九州という地域の歴史や経済事情を踏まえて、これから未来をロジカルに展望できる

《社会で生きる「自立的行動力」》

北九州の産業経済の中で自立的な行動を促す実践的な知識を蓄える

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』（2010年10月）

九州経済調査協会編『図説 九州経済2021』（2020年10月）

北村亘『政令指定都市』（2013年7月）

北九州経済分析I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 北九州市の誕生【5市合併】、【政令指定都市】、【傾斜生産方式】
- 5回 都心の変容とサービス経済化【第三次産業】、【サービス業】、【中心市街地】
- 6回 コロナ禍のサービス業と門司港レトロ【サービス業】、【観光業】、【サービス経済化】
- 7回 戦後の北九州の製造業【モノづくり】、【工業構造高度化】、【サービス経済化】
- 8回 1990年代以降の北九州市と福岡市【政令指定都市】、【人口動向】、【サービス経済化】
- 9回 再都市化とジェントリフィケーション【都心変容】、【ジェントリフィケーション】
- 10回 小倉における中心市街地の変容【商店街】、【繁華街】、【飲食業】、【安全・安心】
- 11回 副都心・黒崎の変容と今後【中心市街地】、【商店街】、【飲食業】、【企業城下町】
- 12回 東田開発とスペースワールド跡地問題【テーマパーク】、【科学館】、【アウトレット】
- 13回 課題解決先進都市としての北九州市の今後【人口予測】、【既に起こった未来】、【長寿化】
- 14回 北九州市の企業の実力【地場企業】、【注目企業】、【成長企業】
- 15回 総括～北九州の特徴と今後の展望～

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小テスト70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに、講義で活用したパワーポイントや資料、さらには参考文献などをm o o d l eにアップしますので、各自きちんと振り返りを行なってください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。なお、本講義は遠隔を前提に想定しています。よって、第1回目を除き、毎回、小テストを課す予定です。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、少子化、長寿化、地域企業、グループ経営、業態変化、中心市街地、繁華街

北九州経済分析II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析II

ECN252M

授業の概要 /Course Description

北九州の経済の実態を現場視線で学習します。具体的には、まず北九州で活躍する中小企業の動向を分析しつつ、経営の実態について、経営戦略、新規事業戦略、イノベーション戦略、組織マネジメント等の視点で考察します。また、後半部分では、北九州市八幡西区の黒崎地域にフォーカスして、街の変容について分析をしていくとともに、地域における協働やコラボレーションの実態やその意義についても検討します。なお、本授業においては、北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を卒業して、活躍している経営者や地域のキーパーソン4名をゲストスピーカーとして招いて講義して頂きます。各ゲストスピーカーの事例や経験から現場の実情をしっかり学んで下さい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- P.F. ドラッカー『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社（2001年12月）
- 遠藤功『経営戦略の教科書』光文社新書（2011年7月）
- クレイトン・クリステンセン他『イノベーションのDNA』翔泳社（2012年1月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域企業の目時としての顧客の創造【マーケティング】、【イノベーション】、【新規事業】
 - 2回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】、【マネジメントの3要素】
 - 3回 《事例研究1》ベンチャー企業の経営者の実像【ニッチ戦略】、【イノベーション】、【現場】
 - 4回 イノベーションのDNA【イノベーション】、【発見力】、【関連づける力】
 - 5回 《事例研究2》ネジチョコのお土産戦略【イノベーション】、【ブランディング】、【SNS】、【コラボ】
 - 6回 ブランディング戦略の変遷とSNS【ブランド】、【らしさ】、【ストーリー】、【コラボ】
 - 7回 北九州における環境産業の変遷【環境産業】、【エコタウン】、【再生資源】、【SDG's】
 - 8回 《事例研究3》中小環境関連企業の新規事業戦略【新規事業創出】、【多角化】、【リサイクル】
 - 9回 企業における多角化戦略の実例【コア・コンピタンス】、【アンゾフの成長ベクトル】、【外部環境変化】
 - 10回 マネジャーの10の属性【マネジメント】、【傾聴】、【共感】
 - 11回 《事例研究4》女性活躍を実践する企業【建設業】、【女性】、【マネジメント】
 - 12回 地域コミュニティの変遷【コミュニティ】、【学校】、【商店街】、【福祉施設】、【スポーツ】
 - 13回 《事例研究5》スポーツの地域コミュニティの可能性【スポーツ】、【プロスポーツ】、【地域活性化】
 - 14回 《事例研究6》福祉施設の地域コミュニティの可能性【医療・福祉】、【高齢化】、【少子化】
 - 15回 まとめ～北九州経済の今後と地域コミュニティの可能性【マネジメント】、【コミュニティ】
- * 3回目、5回目、8回目、11回目、13回目、14回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 60 % 講義内で行う小テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに講義で活用したパワーポイントや資料や参考レポート等をできるだけ Moodle にアップしますので、各自きちんと振り返りをしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）のOBの方々をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップ、経営戦略、さらには地域への思いについて意識して聞いてください。
なお、この講義シラバスは遠隔講義を想定しています。

キーワード /Keywords

地域企業、中小企業、中堅企業、新事業創出、イノベーション、コラボレーション、地域資源、リーダーシップ、マネジメント

地方財政論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

(到達目標)

【知識】 地域財政に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 地方財政について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自律的行動力】 地方財政への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

地方財政論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

授業の概要 /Course Description

新型コロナウイルス感染症に大きく揺さぶられた昨年の世界経済でしたが、今後何年間かは平常への回復の道になるでしょう。ヨーロッパに比べれば、まだましな面があるとは言え、アメリカ経済に残された傷も大きいものがあります。バイデン新大統領の内政・外交面での手帳が、今年のアメリカ経済に決定的な影響を持つことになるでしょう。

貿易、投資、金融の面で日本との深い結びつきを持つアメリカ経済の動向は、たいへん密接に私たちの仕事や生活に影響を与えます。この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済との比較も交えてわかりやすく説明します。

学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。前提となる経済学の知識もわかりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

【到達目標】

1. アメリカ経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
2. アメリカ経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
3. アメリカ経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田端克至『みんなが知りたいアメリカ経済』創成社、2020年6月。

山崎養世『21世紀型大恐慌―「アメリカ型経済システム」が変わるとき』PHP研究所、2020年11月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

アメリカ経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題から2問が出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んできてください(30分)。

事後学習では、その日の講義内容を記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください(30分)。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@kitakyu-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

東アジア経済論【昼】

専門教育科目
選択科目A
地域経済学系

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論

ECN352M

授業の概要 /Course Description

東アジアが世界経済の成長エンジンと言われるようになって久しい。21世紀は東アジアの時代だとも言われる。だが、「東アジア」という言葉が指す地域は広大であり、それぞれの国・地域がたどった歴史と経済成長の経路も多様である。そのような東アジアの発展経路の多様性を知り、それぞれの特徴を比較して考える視点を持つことは、日本に生きる我々にとって必要な知的訓練である。

この授業では、アジア経済の将来を展望するために必要な基本的知識を得ることを目標として、第二次世界大戦後のアジア各国の経済発展の歩みと現在の課題を概観する。

また、日本と東アジアを比較して考えるためのトレーニングとして、隣国である韓国・中国と日本が共通して抱える社会・経済的課題を取り上げて解説する。

最後に、東アジアの経済統合がいかなる秩序とコンセンサスの下で可能なのかを探るために、現在進んでいる様々な経済統合の試みを分析する。

(到達目標)

【知識】相互交流が深まる東アジア経済の現状について幅広い知識を身につけている。

【技能】東アジア経済の分析に必要な情報を収集、活用することができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
- 遠藤環ほか編 (2018) 『現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣
- 坂田幹男 (2013) 『ベーシックアジア経済論』晃洋書房
- ジェトロ・アジア経済研究所『アジア動向年報』各年版

東アジア経済論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス, 第二次世界大戦後の東アジア経済 - 社会主義と開発主義
- 第2回 「東アジアの奇跡」と開発主義国家
- 第3回 1997年のアジア通貨危機と従来の発展モデルの挫折
- 第4回 アジアNIEsの経済発展① 韓国
- 第5回 アジアNIEsの経済発展② 台湾
- 第6回 アジアNIEsの経済発展③ シンガポール
- 第7回 東南アジアの経済開発
- 第8回 中国の経済発展 - 社会主義市場経済の挑戦
- 第9回 北朝鮮の経済改革 - 自力更生と市場経済
- 第10回 日韓経済の比較 若年層の雇用と格差拡大
- 第11回 日中韓経済の比較 少子化問題と社会保障
- 第12回 2000年代の東アジア経済① 経済交流の深化と中国の台頭
- 第13回 2000年代の東アジア経済② 地域内の労働力移動と人の定着
- 第14回 2000年代の東アジア経済③ 広域自由貿易圏構想と中国主導の経済秩序
- 第15回 まとめ - アジアの経済統合の展望と日本の役割

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー : 30% , 期末レポート : 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、JETROのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、授業で取り上げる国の基本データを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、自分が関心のある東アジア各国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「東アジア」という地域は、何となく知っているようでありながら、学んでみると知らないことや意外な側面がドンドン出てきます。この授業を通じて、皆さんがすぐ隣にある東アジアの人々と国のことを知り、親しみを感じられるようになったらいいと思います。

キーワード /Keywords

東アジアの開発主義, 移行経済論, 東アジアの少子化問題, 労働力移動, 国際分業, 地域統合

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関する諸問題に対する関心および探究心を維持することができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

この授業では経営学全体をわかりやすくかみ砕いて説明することを目的としています。初学者向けの授業です。したがって、各テーマの内容を深く追求するというはしません。

みなさんには、この授業をきっかけに「自分は経営学で語られる事象の中のどういうことに関心があるのか」ということを考えていただければと思います。そうするためには、授業で語られる内容に対して、「本当にそうか?」、「なぜ、そう論じられてしまうのか」といった疑問を常に持つように心掛けていただければと思います。あるいは、これまでの人生で抱えてきた企業や、組織（例えば、学校や学校内の部活、学内のクラスなど）に対する疑問などを、経営学で翻訳するとどうなるのか、といったことを考えながら授業を受けるのも有効かもしれません。この授業をきっかけに、以降のキャンパスライフをより有意義なものにさせていただけたらと思います。

(到達目標)

【知識】 経営の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を身につけている。

【技能】 実際の組織を動かし、経営するための基礎的なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】 経営に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

上林憲雄, 他 (2018) 『経験から学ぶ経営学入門 [第2版]』有斐閣ブックス。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

経営学入門【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回〈経営学入門〉会社の経営とはどんなことか
初めに授業全体の進め方や評価の仕方等を確認します。その後、さっそく授業に入っていきます。内容は教科書の第1章です。
- 第2回〈組織行動論〉社員はなぜ働くのか
内容は教科書第9章です。
- 第3回〈企業論〉会社はどのようにして社会に役立っているのか
内容は教科書第2章です。
- 第4回〈企業形態論・企業統治論〉会社は誰が動かしているのか
内容は教科書第3章です。
- 第5回〈経営戦略論〉会社はどのような方針で動いているのか
内容は教科書第4章です。
- 第6回〈経営管理論・経営組織論〉会社はどんな仕組みで動いているのか
内容は教科書第5章です。
- 第7回〈企業間関係論〉会社は他の会社とどのように協力しているのか
内容は教科書第6章です。
- 第8回〈生産管理論・技術管理論〉会社はどのようにしてモノを造るのか
内容は教科書第7章です。
- 第9回〈経営管理論・経営組織論〉社員は仕事をどのように分担しているのか
内容は教科書第8章です。
- 第10回〈人的資源管理論〉社員はなぜ組織にとどまろうとするのか
内容は教科書第10章です。
- 第11回〈人的資源管理論〉社員はどのような報酬を求めるのか
内容は教科書第11章です。
- 第12回〈人的資源管理論〉社員はどのようにして育てられるのか
内容は教科書第12章です。
- 第13回〈マーケティング論〉会社はどのようにして商品を提供するのか
内容は教科書第13章です。
- 第14回〈国際経営論〉会社は海外でどのようにして経営しているのか
内容は教科書第14章です。
- 第15回〈財務管理論・会計学〉会社の利益はどのようにして測定するのか
内容は教科書第15章です。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%。
60点以上の者に単位を与える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
各回で対象となっている教科書の章を予め読んでおくとよいでしょう。
- ・事後学習
授業で配布したPowerPoint資料を中心に復習するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実は、私自身は企業で働いた経験はないです。そうした私がなぜ経営学を学ぶようになったかといえば、それは高校生や浪人生時代に抱いた集団に対する疑問や、大学学部生時代に抱いた働くことに対する疑問がきっかけだったりします。それは例えば「なぜ、ある集団は特定の価値観を押しつけてくるのだろう」や「働くことをポジティブに捉えないといけないような空気感がどこから生まれるのだろう」といったものです。この授業で教える内容が、例に出したこれらの疑問にちゃんと答えてくれるのかといえば、そういうわけではないですが、自身のもやもやとした疑問を学問を通じて論理的に理解できるというのはなかなか面白いです。あくまでも入門編であるこの授業では消化不良を起こすかもしれませんが、「経営学入門」をきっかけに経営学の面白さを感じていただければと思います。

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bケル-7

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関する諸問題に対する関心および探究心を維持することができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

この授業では経営学全体をわかりやすくかみ砕いて説明することを目的としています。初学者向けの授業です。したがって、各テーマの内容を深く追求するというはしません。

みなさんには、この授業をきっかけに「自分は経営学で語られる事象の中のどういうことに関心があるのか」ということを考えていただければと思います。そうするためには、授業で語られる内容に対して、「本当にそうか?」、「なぜ、そう論じられてしまうのか」といった疑問を常に持つように心掛けていただければと思います。あるいは、これまでの人生で抱いてきた企業や、組織（例えば、学校や学校内の部活、学内のクラスなど）に対する疑問などを、経営学で翻訳するとどうなるのか、といったことを考えながら授業を受けるのも有効かもしれません。この授業をきっかけに、以降のキャンパスライフをより有意義なものにさせていただけたらと思います。

(到達目標)

【知識】 経営の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を身につけている。

【技能】 実際の組織を動かし、経営するための基礎的なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】 経営に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

上林憲雄, 他 (2018) 『経験から学ぶ経営学入門 [第2版]』有斐閣ブックス。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

経営学入門【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回〈経営学入門〉会社の経営とはどんなことか
初めに授業全体の進め方や評価の仕方等を確認します。その後、さっそく授業に入っていきます。内容は教科書の第1章です。
- 第2回〈組織行動論〉社員はなぜ働くのか
内容は教科書第9章です。
- 第3回〈企業論〉会社はどのようにして社会に役立っているのか
内容は教科書第2章です。
- 第4回〈企業形態論・企業統治論〉会社は誰が動かしているのか
内容は教科書第3章です。
- 第5回〈経営戦略論〉会社はどのような方針で動いているのか
内容は教科書第4章です。
- 第6回〈経営管理論・経営組織論〉会社はどんな仕組みで動いているのか
内容は教科書第5章です。
- 第7回〈企業間関係論〉会社は他の会社とどのように協力しているのか
内容は教科書第6章です。
- 第8回〈生産管理論・技術管理論〉会社はどのようにしてモノを造るのか
内容は教科書第7章です。
- 第9回〈経営管理論・経営組織論〉社員は仕事をどのように分担しているのか
内容は教科書第8章です。
- 第10回〈人的資源管理論〉社員はなぜ組織にとどまろうとするのか
内容は教科書第10章です。
- 第11回〈人的資源管理論〉社員はどのような報酬を求めるのか
内容は教科書第11章です。
- 第12回〈人的資源管理論〉社員はどのようにして育てられるのか
内容は教科書第12章です。
- 第13回〈マーケティング論〉会社はどのようにして商品を提供するのか
内容は教科書第13章です。
- 第14回〈国際経営論〉会社は海外でどのようにして経営しているのか
内容は教科書第14章です。
- 第15回〈財務管理論・会計学〉会社の利益はどのようにして測定するのか
内容は教科書第15章です。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%。
60点以上の者に単位を与える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
各回で対象となっている教科書の章を予め読んでおくとよいでしょう。
- ・事後学習
授業で配布したPowerPoint資料を中心に復習するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実は、私自身は企業で働いた経験はないです。そうした私がなぜ経営学を学ぶようになったかといえば、それは高校生や浪人生時代に抱いた集団に対する疑問や、大学学部生時代に抱いた働くことに対する疑問がきっかけだったりします。それは例えば「なぜ、ある集団は特定の価値観を押しつけてくるのだろう」や「働くことをポジティブに捉えないといけないような空気感がどこから生まれるのだろう」といったものです。この授業で教える内容が、例に出したこれらの疑問にちゃんと答えてくれるのかといえば、そういうわけではないですが、自身のもやもやとした疑問を学問を通じて論理的に理解できるというのはなかなか面白いです。あくまでも入門編であるこの授業では消化不良を起こすかもしれませんが、「経営学入門」をきっかけに経営学の面白さを感じていただければと思います。

キーワード /Keywords

企業論基礎 【昼】

担当者名 葉 聡明 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

この授業では、ファイナンスにかかわる基礎的な概念を習得したうえで、現実のビジネスにおける応用ができることを目標とします。最初に、金利の計算とお金の価値に関して説明します。応用として貯金やローン、債券や株式などを取り上げます。次は、お金の投資を考えると、そのリスクとリターンを紹介し、株式市場や株式投資のポートフォリオ理論を取り上げます。最後は、企業（株式会社）に焦点を絞って、企業の資金調達方法や投資活動などを取り上げ、企業の財務分析や株価分析を行う方法を学びます。

（到達目標）

【知識】ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

【思考・判断】ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Fundamentals of Corporate Finance. Richard Brealey. 最新版 McGraw-Hill Higher Education

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- # 0 1 ファイナンス入門の概要と実例
- # 0 2 お金の価値：金利の計算
- # 0 3 お金の価値：ローン&債券の仕組み
- # 0 4 お金の価値：株式の価格決定理論
- # 0 5 練習・復習
- # 0 6 資本市場の仕組みと機能
- # 0 7 株式投資のリターンとリスクの計算
- # 0 8 ポートフォリオリターンとリスクの計算
- # 0 9 リターンとリスクの関係
- # 1 0 練習・復習
- # 1 1 企業（株式会社）の仕組みと特徴
- # 1 2 財務諸表と財務比率
- # 1 3 企業の資金調達
- # 1 4 企業のプロジェクト投資
- # 1 5 練習・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

QUIZ 30%
小テスト 40%
課題の提出物 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された資料の予習と、授業内容の復習と課題の作業（学習時間の目安は、予習60分、復習60分～です）

企業論基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業ではEXCELというソフトを使って計算したり課題を行ったりしますので、EXCELが使えるように用意しておくこと。
対面授業を実施する場合、授業によってはノートパソコンを使用する必要があり、事前に指示しますので、その際ノートパソコンを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ身近な実例や時事ニュースを取り上げて、授業内容との関連性を示しながら授業を進めていきますので、ファイナンスの勉強を楽しんでいただければと思います。

キーワード /Keywords

株式会社，株式，株価，金利，ポートフォリオ，リスク，リターン，財務分析

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業を運営するために必要な経営管理・マネジメントの基礎的知識について講義します。

(到達目標)

【知識】

経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【組織】【管理】【伝統的管理論】
- 第7回 組織とは何か2【人間観の転換】
- 第8回 組織とは何か3【近代的な管理】
- 第9回 組織とは何か4【組織社会と企業】
- 第10回 事例研究
- 第11回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第12回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第13回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第14回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポート等提出物の結果(20%)によって評価します。

マネジメント論基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジユメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

経営組織論 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことができる者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

(到達目標)

【知識】 経営組織に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 経営組織に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 経営組織について、複眼的・論理的に思考して 解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)

岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)

M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
- 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【組織人格と個人人格】
- 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
- 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
- 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
- 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
- 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原則】
- 第12回 組織構造② 【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織における管理① 【随伴的結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
- 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴的結果】【責任の組織化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

経営組織論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題の提出を求めます。
該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

経営戦略論 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)

網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)

他、参考となる文献を適宜紹介します。

経営戦略論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】【戦略経営論】【プロセス戦略論】【RBV】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】【シナジー効果】【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】【M&A】【戦略提携】
- 第7回 成長の戦略4 プロダクトポートフォリオマネジメント 【PLC】【経験曲線】【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォース】【PEST】【戦略グループ】【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略—事例研究 【コストリーダーシップ】【差別化】【集中化】【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】【チャレンジャー】【ニッチャー】【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクルと他企業との協力 【PLC】【ビジネスモデル】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム—事例研究 【顧客価値】【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合と創造 【組織構造】【組織文化】【組織インフラ】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 - 事例研究 【イノベーション】【組織学習】【知識創造】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジユメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジユメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 鄭 義哲 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

授業の前半は企業財務を学習する上で最小限必要となる基礎知識となる部分を紹介し、基本的な知識を習得した上で、後半は、企業の財務政策にかかわる資金調達、投資意思決定などの財務理論について学びます。具体的な授業の内容は以下の授業のスケジュールで紹介しています。なお下記授業計画は、あくまで予定であり、受講者の理解度等により変更することがあります。

到達目標

【知識】 財務活動に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 証券の仕組みを説明することができる。

【思考・判断・表現力】 日本企業の財務政策に関する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレートファイナンス(第2版)』, 日本経済新聞社 (2017年)

神原茂樹・菊池誠一・新井富雄, 『現代の財務管理』, 有斐閣アルマ (2011年)

砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳, 『日本企業のコーポレートファイナンス』, 日本経済新聞出版社 (2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (ファイナンスとは)
- 2回 ファイナンスにおける「企業価値とコーポレートガバナンス」
- 3回 ファイナンスの基礎1: リスクのない場合の現在価値・将来価値
- 4回 ファイナンスの基礎2: リスクのある場合の現在価値・将来価値
- 5回 ファイナンスのための会計の基礎1: 貸借対照表・損益計算書
- 6回 ファイナンスのための会計の基礎2: 財務分析
- 7回 資金調達1: エクティブ・ファイナンス
- 8回 資金調達2: デット・ファイナンス
- 9回 投資案の評価1: NPV
- 10回 投資案の評価2: IRR
- 11回 資本コスト1: レバレッジ
- 12回 資本コスト2: ビジネスリスクとファイナンシャルリスク
- 13回 MM理論1: 税のない世界
- 14回 MM理論2: 税と倒産コストを考慮
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

企業ファイナンスI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う内容については、上記の参考文献を通して事前に目を通しておくこと（1時間）。また授業終了後は授業で使った資料を用いて復習すること（1時間）。

履修上の注意 /Remarks

授業では計算問題が出てくることが多いですので電卓は持参した方がいいかもしれません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

頑張ってください。日経新聞が読みやすくなると思います。

キーワード /Keywords

企業価値 NPV コーポレートガバナンス

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 /Instructor 鄭 義哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

授業の前半は、（企業ファイナンスIでは所与とした）資本コストを算出するモデルであるCAPMについて勉強します。そのために、株式のリスクやリターンの測定やポートフォリオ理論などを学びます。後半は、CAPMで推定した資本コストを用いた企業価値評価の事例をみて、最後に企業の配当政策を企業価値との関連性から学びます。

到達目標

- 【知識】金融・証券に関する基礎的な知識を身につけている
- 【技能】金融商品の理論価格に関する初歩的な分析ができる。
- 【思考・判断・表現力】ができる。企業ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

神原茂樹・菊池誠一・新井富雄,『現代の財務管理』,有斐閣アルマ(2011年)
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳,『日本企業のコーポレートファイナンス』,日本経済新聞出版社(2008年)
新井富雄・高橋二郎・芹田敏夫,『コーポレートファイナンス 基礎と応用』,中央経済社(2016年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(企業ファイナンス1と企業ファイナンス2の関係)
- 2回 効率的市場について
- 3回 リスクとリターンの尺度
- 4回 ポートフォリオのリターン
- 5回 ポートフォリオのリスク
- 6回 最適ポートフォリオの決定1: リスク資産のみの場合
- 7回 最適ポートフォリオの決定2: 安全資産も導入した場合
- 8回 CAPM(資本資産評価モデル)
- 9回 CAPMによる株主資本コストの推定
- 10回 加重平均資本コスト
- 11回 フリーキャッシュフロー
- 12回 割引キャッシュフロー法による企業価値の評価
- 13回 配当政策1: 現金配当
- 14回 配当政策2: 自社株買い
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験80% 小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う内容については、上記の参考文献を通して事前に目を通しておくこと(1時間)。また授業終了後は授業で使った資料を用いて復習すること(1時間)。

企業ファイナンスII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業では計算問題が出てくることが多いですので電卓は持参した方がいいかもしれません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

計算問題が出ることも多いですが、欠席せずにまじめに取り組めば、決して難しい内容ではありません。

キーワード /Keywords

リスク リターン 資本コスト 企業価値

マーケティングI【昼】

担当者名 /Instructor 柳 純 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティング I

BUS230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業等の「市場問題の解決手法」ならびに「競争手段」として実践されている「マーケティング」について、基本概念、市場への接近方法を始めとした理論をベースに、実務部分にまで踏み込んだ内容を講義します。
前半部分では、市場とマーケティングの関係を理解することを目的に、市場概念およびマーケティング学説、市場戦略について解説します。また後半部分ではマーケティングの全体戦略としてSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング等）と部分戦略である4P（製品、価格、チャネル、プロモーション）のミックスについても説明します。

（到達目標）

【知識】 マーケティングに関する基礎的な知識を身につけている

【技能】 マーケティングに関する基本的な問題を体系的に理解することができる

【思考・判断・表現】 マーケティングに関連する基本的問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

岩永忠康編『<改訂版>マーケティングの理論と戦略』五紘舎、2019年。2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川和男『現代マーケティング論』同文館出版、2020年。2970円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義ガイダンス【講義概要、成績評価等の説明と導入問題】
- 第2回：市場概念（1）【市場概念と市場問題】
- 第3回：市場概念（2）【マーケティング概念の変遷と定義】
- 第4回：マーケティング学説史（1）【マーケティングの歴史とマイクロマーケティング】
- 第5回：マーケティング学説史（2）【マーケティングの歴史とマクロマーケティング】
- 第6回：市場戦略と競争（1）【市場細分化と標的化】
- 第7回：市場戦略と競争（2）【市場地位別と組織編成】
- 第8回：市場戦略と競争（3）【競争環境と競争要因】
- 第9回：消費者行動とマーケティング【消費者関与と行動】
- 第10回：製品戦略（1）【PLCと製品差別化】
- 第11回：製品戦略（2）【ブランド管理および類型】
- 第12回：価格戦略【価格設定方法と競争優位】
- 第13回：チャネル戦略【経路および類型】
- 第14回：プロモーション戦略【人的販売促進と非人的販売促進】
- 第15回：マーケティング・ミックス【4Pの組み合わせ】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（30%）、レポート（70%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、テキストの当該回の箇所を熟読すること。

事後学習は、毎回提示する資料内容を確認し、専門用語やポイントについて整理すること。

マーケティングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

マーケティングに関係する科目を履修すること。また「マーケティングII」を履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用するテキストの内容からレポートを課すことがあります。
課題ならびにレポートに関しては、必ず提出〆切日を厳守すること。

キーワード /Keywords

市場問題、マーケティング戦略、ブランドマネジメント

マーケティングII【昼】

担当者名 /Instructor 柳 純 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティングII

BUS231M

授業の概要 /Course Description

本講義は、マーケティングに関する基本的な戦略要素である製品、価格、チャネル、プロモーションについて概観するとともに、今日重要なテーマとなっている「サービス・マーケティング」や「ソーシャル・マーケティング」を中心に講義を進めます。前半部分では、製品戦略からプロモーション戦略に至るまでの企業行動の事例を盛り込みながら解説します。また後半には、産業別のマーケティングとしていくつかの産業におけるマーケティングについて紹介します。

(到達目標)

【知識】マーケティングに関する専門的な知識を身につけている

【技能】マーケティングに関する専門的な問題を体系的に理解することができる

【思考・判断・表現力】マーケティングに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

岩永忠康編『<改訂版>マーケティングの理論と戦略』五紘舎、2019年。2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ<新版>』有斐閣、2018年。2310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義ガイダンス【講義概要、成績評価等の説明と導入問題】
- 第2回：マーケティングについて【マーケティングの基礎概念】
- 第3回：マーケティング戦略とは【マーケティング戦略の概要】
- 第4回：製品戦略とブランドマネジメント【製品戦略とブランド概念】
- 第5回：価格戦略とチャネル戦略【新製品価格とチャネル選択】
- 第6回：プロモーション戦略(1)【人的販売促進と広告・宣伝】
- 第7回：プロモーション戦略(2)【パブリシティとセールスプロモーション】
- 第8回：サービス・マーケティング(1)【サービス概念とサービス産業】
- 第9回：サービス・マーケティング(2)【サービス産業における事例】
- 第10回：ソーシャル・マーケティング【社会的なマーケティングと環境マーケティング】
- 第11回：企業のマーケティング行動(1)【産業別事例研究】
- 第12回：企業のマーケティング行動(2)【産業別事例研究】
- 第13回：企業のマーケティング行動(3)【産業別事例研究】
- 第14回：企業のマーケティング行動(4)【産業別事例研究】
- 第15回：関係性マーケティング【市場関係の変化とパラダイムシフト】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(40%)、レポート(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、テキストの当該回の箇所を熟読すること。

事後学習は、毎回提示する資料内容を確認し、専門用語やポイントについて整理すること。

マーケティングII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

マーケティングに関係する科目を履修すること。なお「マーケティングI」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用するテキストの内容からレポートを課すことがあります。
課題ならびにレポートに関しては、必ず提出〆切日を厳守すること。

キーワード /Keywords

マーケティング・ミックス、サービス・マーケティング、産業別マーケティング

企業論Ⅰ【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論Ⅰ

BUS210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、上場企業に関する会計情報を自ら収集し、収益性・安全性・成長性等の経営指標を算定した上で、当該企業を定量的に評価できるようになることを目的とする。最終到達目標は、任意の企業を1社選択し、その企業についてアナリスト・レポートに類する報告書を独自に完成させることである。なお、企業評価論Ⅰでは前段となる情報の収集や内容の理解、および財務諸表分析を主とするため、より実践的な企業評価は企業評価論Ⅱで行う。

到達目標

- 【知識】 企業評価に関する理論を理解している。
- 【技能】 企業評価に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】 投資家の観点から論理的な分析をもとに、特定の企業価値を評価することができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、講義資料をMoodleで配布するので、各自印刷して講義に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- [1] Penman, S. H. (2018)“Financial Statement Analysis and Security Valuation (Fifth Edition),” The McGraw-Hill Companies (荒田映子・大雄智・勝尾裕子・木村晃久訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション(原書第5版)』有斐閣).
- [2] 乙政正太 (2019)『財務諸表分析(第3版)』同文館出版.
- [3] 笠原真人 (2015)『図解入門ビジネス-最新企業価値評価の考え方と実践がよ〜くわかる本』秀和システム.
- [4] 株式会社KPMG FAS (2011)『図解でわかる企業価値評価のすべて』日本実業出版社.
- [5] 桜井久勝・須田一幸 (2018)『財務会計・入門(第12版)』有斐閣アルマ.
- [6] 桜井久勝 (2020)『財務諸表分析(第8版)』中央経済社.
- [7] 奈良沙織 (2019)『企業評価論入門』中央経済社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】 企業評価論Ⅰの概要(ガイダンス)
- 【第2回】 企業評価の目的とプロセス
- 【第3回】 財務会計のシステムと企業選定
- 【第4回】 企業集団と企業の目的・事業内容
- 【第5回】 経営戦略と事業セグメント
- 【第6回】 貸借対照表の読み方
- 【第7回】 損益計算書の読み方
- 【第8回】 キャッシュ・フロー計算書の読み方
- 【第9回】 比例縮尺財務諸表の作成
- 【第10回】 財務諸表分析(1) 収益性
- 【第11回】 財務諸表分析(2) 生産性
- 【第12回】 財務諸表分析(3) 安全性
- 【第13回】 財務諸表分析(4) 不確実性
- 【第14回】 財務諸表分析(5) 成長性
- 【第15回】 まとめ

企業論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート4回×20点+最終レポート20点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 自分が分析する企業や同業他社の情報を収集する。
事後学習: 当該授業の内容を復習し、レポートを提出する。

履修上の注意 /Remarks

企業ファイナンスI・II、財務会計論I・II、経営統計I・II、証券市場論を履修していることが望ましい。Excelを使ったグラフ作成など、一部自習してもらう必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート作成回が多く、事前・事後学習時間が毎週数時間あると理解した上で履修してください。また、体系的な理解のため、企業評価論IIとあわせて受講されることを推奨します。

キーワード /Keywords

財務諸表分析、企業評価

企業論II 【昼】

担当者名 /Instructor 新田町 尚人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論II

BUS211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、企業評価論Iでの学修内容をベースに、アナリストレポートを作成することを目標とする。企業を評価するには多角的な視点からの評価が求められる。マクロ経済や競合企業の動向、当社の経営戦略と経営資源、顧客からの評価、株主からの評価等である。講義とレポート作成を通じて学生の皆さんにも多角的な視点を獲得してもらおうが狙いである。財務分析（成長性、収益性、安全性、生産性）に関しては、企業評価論I等で学修しているという前提で講義を進める。

この講義の担当者は、日本証券アナリスト協会検定会員（証券アナリスト）であり、講義計画はアナリスト資格試験の分野に対応している。また、証券担当の新聞記者、中小企業の経営コンサルタントの職務経験から得た多くの経験を講義のなかで伝えたい。

なお、企業を評価するのはアナリストだけではない。わが国企業の99%は中小企業であり、財務諸表が充実していない、入手できない場合もある。この講義では企業の経営力・マネジメント力を評価する「経営品質」、金融機関が融資の際に行う与信評価等も紹介したい。

<到達レベル>

基礎的なアナリストレポートが作成可能な、①市場と経済の分析、②企業分析、③証券分析のそれぞれの方法・知識を修得する。企業分析（財務分析）は習得済みの前提で講義を進めるため、自信のない学生は必ず復習しておくこと。

<講義形態>

- 個人または4名1グループで最終レポート（A4版10ページ程度）を作成する。
対面講義の場合はグループ、遠隔講義の場合は個人でのレポート作成を予定する。
レポートの構成は、①市場と経済の分析、②企業分析、③証券分析、④総合結果、とする。
- 北九州関連の上場企業の有価証券報告書を使うが、競合企業2社との比較分析が中心となる。
TOTO→LIXIL、タカラスタンダード
安川電機→ファナック、川崎重工業
山口フィナンシャルグループ（北九州銀行）→ふくおかフィナンシャルグループ、西日本フィナンシャルホールディングス

到達目標

- 【知識】企業評価に関する理論を理解している。
- 【技能】企業評価に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】投資家の観点から論理的な分析をもとに、特定の企業価値を評価することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・グロービス経営大学院『新版グロービスMBAファイナンス』ダイヤモンド社。○
- ・北川哲雄、加藤直樹、貝増眞『証券アナリストのための企業分析（第4版）』東洋経済新報社。
- ・奈良沙織『企業評価論入門』中央経済社。
- ・日本経営品質賞委員会『2021年度版 日本経営品質賞 アセスメント基準書』生産性出版。

企業論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 講義ガイダンス
 - 第1部「市場と経済の分析」
2. マクロ経済分析の基礎 (GDP、人口予測、統計モデルの考え方等)
3. 業界分析
 - 自社・競合分析 (5フォース、SWOT等)
- 第2部「企業分析」(財務分析)
4. 財務分析は学修済みとする (グループまたは個人ワーク)
- 第3部「証券分析」
5. 証券・金融市場の基礎 (資金循環統計、間接金融と直接金融、金融商品のリスク等)
6. 株式分析の基礎
7. 債券分析の基礎
8. 現代ポートフォリオ理論①
 - 資本コスト等
9. 現代ポートフォリオ理論②
 - CAPM、IRR等
10. 株式分析①
 - 配当割引モデル等
11. 株式分析②
 - 株価収益率、株価純資産倍率等
12. 総合評価
- 第4部「多彩な企業評価手法」
13. 経営力・マネジメント力の評価 (経営品質)
14. 金融機関の与信評価
 - 金融機関からのゲスト講師
15. 講義のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 最終レポート70点、講義中に課すミニレポート30点 (5点×6回) の合計100点とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習: 自分が分析する企業や同業他社の情報を収集する。
- 事後学習: 当該授業の内容を復習し、レポートを提出する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート作成回が多く、事前・事後学習時間が毎週数時間あると理解した上で履修してください。履修上の注意に記載の通り、企業評価論Ⅰの内容は学習済みとして進めますので、各自復習の上、企業評価論Ⅱの履修に臨んでください。

キーワード /Keywords

企業価値

人的資源管理論【昼】

担当者名 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き活きと働けるようにするという事を人事管理制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書：奥林康司・上林憲雄・平野光俊（2010）編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社。
その他適宜配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献：平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア。

人的資源管理論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。

第2回 経営学の中での人的資源管理論（1）

人的資源管理論とはどういう分野なのか，隣接研究分野との関係等から学びます。

第3回 経営学の中での人的資源管理論（2）

人的資源管理論の主役はあくまでも人事管理というシステムです。この考え方について学びます。

第4回 人事等級制度

人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。

第5回 人事考課制度と賃金制度（1）

人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。

第6回 人事考課制度と賃金制度（2）

人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，賃金制度について考課制度と関連付けながら学びます。

第7回 能力開発

企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。

第8回 雇用管理

日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。

第9回 労働時間（1）

ここまで学んだ日本企業における人事管理の特徴から，労働者の働き方にどのような特徴が出てくるのか，労働時間に着目しながら考えていきます。

第10回 労働時間（2）

日本労働者の労働時間について，今どのような問題が出てきているのか，それはどのような文脈からなのか，これらについて考えていきます。

第11回 労使関係と福利厚生制度

日本的労使関係の特徴および，日本企業における福利厚生の特徴とその変化について学びます。

第12回 非正規労働者

近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に非正規労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。

第13回 女性労働者

近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に女性労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。

第14回 高齢労働者

近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に高齢労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。

第15回 まとめ

全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。

60点以上の者に単位を与える。

※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。

事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税収など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9%

(注：経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自律的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
- 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
- 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
- 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
- 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
 - 第4回 製造業②…現状と展望
 - 第5回 非製造業(流通業、小売業、サービス業など)…現状と展望
 - 第6回 外部講師による講和①
 - 第7回 ベンチャー企業
 - 第8回 新事業展開
 - 第9回 人材の育成と確保
 - 第10回 海外展開
 - 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
 - 第12回 外部講師による講和②
 - 第13回 資金調達と金融機関の役割
 - 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
 - 第15回 まとめ
- ※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法 /Assessment Method

適宜、レポートを課します(50%)。期末試験は行いません。
授業の取り組み具合についても評価の対象とします(50%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府は何を講じようとしていますか。小規模事業者持続化補助金って何ですか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。中小企業は、身近な存在です。

- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
- ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
- ・ 自ら起業して経営する。
- ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

国際経営【昼】

担当者名 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	国際経営、グローバルビジネス全般に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経営

BUS311M

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国本土の企業制度（企業統治またはコーポレートガバナンス）と企業経営システム（内部特性：経営目標、経営戦略、経営組織、管理スキーム）の比較を中心に講義を進めていく。現地企業調査で得た一次資料を活用し、生きたケース（教材）を織り交ぜながら、日本と東アジア地域の企業経営様式の異同について学ぶ。

本講義の到達目標は下記通りである。

- 1、知識の取得 国際経営の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけること。
- 2、思考・判断・表現力の獲得 国際経営に関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができるようになること。
- 3、自律的行動力の強化 国際経営に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を持つことになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

王効平編著『日中長寿企業の経営比較』中央経済社
 王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会
 王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社
 末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会
 末廣昭『ファミリービジネス論-後発工業化の担い手』名古屋大学出版会

国際経営【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 第2回 比較アプローチの意義と課題
- 第3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 第4回 企業制度比較I【企業統治】、【同族企業】
- 第5回 企業制度比較II【利害関係者】、【経営権市場】、【インセンティブシステム】
- 第6回 経営システムの捉え方【経営の内部特性】
- 第7回 内部特性I：経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 第8回 内部特性II：経営戦略【国際化】、【戦略的提携】、【事前合理性】
- 第9回 内部特性III：経営組織【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 第10回 内部特性IV：管理スキーム【業績評価】、【人材養成】
- 第11回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【安全性指標】
- 第12回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】、【エクセレントカンパニー】
- 第13回 事例紹介I【日本発多国籍企業のケース】
- 第14回 事例紹介II【東アジア発多国籍企業のケース】
- 第15回 グローバル化と東アジア型企業経営

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・小テスト 50% (講義中の小テストの実施、課題レポートの賦課)
- ・期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 配布資料を熟読すること
- 参考文献について掲示資料のほかに適宜追加提示するが、各自入手し、活用すること

履修上の注意 /Remarks

- ・ウェブ講義スタイルが継続されることを前提に討論への積極的参加を！
- ・課題提出期限の厳守を！

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・自分の意見、考えを発信しましょう。
- ・国際情勢、世界経済の動きに常に興味を持ちましょう。
- ・疑問や確認したいことがあったらいつでも気軽にメールをお寄せください。

キーワード /Keywords

地域企業分析 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業経営に必要とされる諸理論を経営の実践において活用するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営の実践上の諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営の実践に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域企業分析

BUS400M

授業の概要 /Course Description

本科目の狙いは実際の企業の経営戦略や経営内容について分析する力を身に付けることにあります。
経済学部のカリキュラムの基本方針の一つとして「理論と実践の統合」という項目がありますが、本科目はその方針を実現するための科目の一つです。

本授業では全体を以下の三部構成とします。

【第一部】経営戦略の分析・構想のための基本概念、基本ツールの確認

【第二部】基本概念、基本ツールを応用した事例研究（文献資料を使用した戦略分析）

【第三部】地域の経営者を招聘した企業経営や戦略についての特別講演およびディスカッション

以上をつうじて企業経営の諸問題を理解・解決するために必要とされる応用力を修得することを目指します。

なお、授業にあたっては意見交換や質問といった「参加」型の形式を一部取り入れていきます。

（到達目標）

【知識】

戦略経営に関する専門知識を身につけている。

【技能】

戦略経営に関する実践的な問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

戦略経営に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

沼上 幹・加藤 俊彦・一橋MBA戦略ワークショップ著『一橋MBA戦略分析ケースブック：事業創造編』東洋経済新報社、2020年。
（二部の事例研究において必携です。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽 茂・牛島 辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)

網倉 久永・新宅 純二郎著『マネジメント・テキスト経営戦略入門』日本経済新聞社、2011年(○)

伊丹敬之著『経営戦略の論理(第4版)-ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞社、2012年

加藤俊彦著『競争戦略(日経文庫)』日本経済新聞社、2016年(○)

その他、随時紹介します。

地域企業分析 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	
第2回	経営戦略の基本概念	【戦略の定義】【戦略の構造】【戦略の意義】
第3回	経営戦略の思考方法①	【外部分析】【内部分析】【基本戦略】【事業の仕組み】
第4回	経営戦略の思考方法②	【戦略の構想】【ビジネスシステム】
第5回	文献を利用した事例研究①	【応用】【分析】
第6回	文献を利用した事例研究②	【応用】【分析】
第7回	文献を利用した事例研究③	【応用】【分析】
第8回	文献を資料した事例研究④	【応用】【分析】
第9回	文献を資料した事例研究⑤	【応用】【分析】
第10回	外部講師による講演①	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第11回	外部講師による講演②	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第12回	外部講師による講演③	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第13回	外部講師による講演④	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第14回	外部講師による講演⑤	【企業経営】【思考】【発想】【ディスカッション】
第15回	全体をつづじての討議	

(なお、全体スケジュールは外部講師の方の都合等で変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課すレポートや授業への参加度40%
学期末課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理してください。
特に外部講師登壇の際には講師の所属企業・組織について情報収集をしてください。
授業後は配布資料や参考文献、講師の講義の資料・メモを用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営戦略論」(経営情報学科2年次開講、経済学科3年次開講)を履修済みであることが望ましいですが、その限りではありません。
事例研究や外部講師による講演も授業内容に含まれますので、「実践」に興味ある際は受講ください。
(※また、「キャリア開発」ないし「キャリア開発I」で学んだ企業分析をより詳しく学ぶことが出来ます。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3・4年次生を対象とした科目として、学んできたことの実社会での応用を意識して受講してください。

キーワード /Keywords

理論と実践 応用力

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 朝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。

到達目標

- 知識： コンピュータシステムに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
技能： コンピュータシステムの分析と設計に関する手法を身につけている。
思考・判断： コンピュータシステムについて、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する

コンピュータシステム【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 データの検索【論理演算】【集合演算】
 - 4回 情報と情報量、文字、記号、マルチメディア
 - 5回 基数(2進数、10進数、16進数)、演算、補数、基数変換、誤差
 - 6回 コンピュータ内の数の表現、2進数表現、10進数表現、指数表現
 - 7回 情報量と曖昧さ(エントロピー)
 - 8回 データ構造(リスト、木、グラフ)
 - 9回 データ構造、ヒープソート、最短木
 - 10回 演習1(これまでの復習)
 - 11回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化
 - 12回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 13回 問題解決のためのモデル(その2)【デシジョンテーブル】
 - 14回 演習2(これまでの復習)
 - 15回 まとめと模擬試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示され用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容欄に示すように授業内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等積極的に自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	オペレーションズ・マネジメントの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのオペレーションズ・マネジメントに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

オペレーションズ・マネジメント INF200M

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。
この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

到達目標

知識

オペレーションズ・リサーチに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

技能

オペレーションズ・リサーチに関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

オペレーションズ・リサーチについて、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ、工程管理とは
- 3回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ、PERT図の作成
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅲ、所要時間の評価
- 5回 【PERT】の実習
- 6回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ、金利を踏まえた意思決定のあり方
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ、金利を踏まえた変換式の導出
- 8回 【経済性工学】の実習
- 9回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 10回 【線形計画法】の実習
- 11回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ、待ち行列の定義
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ、待ち行列に関する指標の導出
- 13回 【待ち行列理論】の実習
- 14回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%

ただし、欠席を減点対象とします。

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理解できなくても構いませんので、教科書の該当章をあらかじめ読み、どのような内容になるのか、どういった点が重要と考えられるかなど、考えておくことで講義での理解が深まります。

講義のあとは、練習問題を解いてみることで、講義で習った手法の実際場面での利用について考えることで理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なアルゴリズム・データ構造の基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータ構造に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータ構造を通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データ構造

INF231M

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は 以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【シェルソート】【マージソート】
- 11回 ソート法2、グラフ【ヒープソート】【グラフ】【隣接行列】
- 12回 応用例1【ダイクストラ法】【ハノイの塔】
- 13回 応用例2【動的計画法】
- 14回 応用例3【最大流問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%

課題... 20%

データ構造【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、資格試験にも対応できるよう基礎をしっかりと勉強するため、「難易度は高めです」。

（到達目標）

【知識】

データベースシステムに関する専門的な知識を身につけている。

【技能】

データベースシステム操作のスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】

データベースの構造を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
その他、講義中に指示

データベース【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%

詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

難易度は高めです

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが、資格試験に対応できるように、「難易度は高めです」。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。他に履修するものがない、友達が履修するなどの理由では選択しない方がよいと思います。

キーワード /Keywords

Webプログラミング【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なWebプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのWebプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてWebプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Webプログラミング

INF212M

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。

本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミングを中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのPHP言語の習得を目的とします。

PHPとは、Webページ上での処理を目的とした言語で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をするプログラムなどが作成可能です。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他、アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどにも応用可能です。

(到達目標)

【知識】

プログラミング言語、およびそのネットワークでの応用方法に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

インタラクティブなWebページの作成スキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】

入力フォームを用いて、データの入力Webページを適切に表現ができる。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。まとめ資料も配布しますが、最低限の内容しか記載していません。(しっかりと理解のためには参考書を各自参照してください。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷藤賢一著、『いきなり はじめる PHP』、リックテレコム
小川雄大他『パーフェクトPHP』、技術評論社
山田祥寛『独習PHP 第2版』、翔泳社

Webプログラミング【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、PHPとは【PHP】
- 第2回：PHPに必要なソフトのインストール
- 第3回：PHPの仕組み、HTML作成方法
- 第4回：HTMLによるフォームの作成方法
- 第5回：PHP言語入門：変数【PHP言語】【変数、配列】
- 第6回：HTMLとPHPによるデータの受け渡し方法【データ受け渡し】
- 第7回：PHP言語入門：条件分岐1【条件分岐】
- 第8回：PHP言語入門：条件分岐2【複雑な条件分岐】
- 第9回：PHP言語入門：繰り返し1【繰り返しfor】
- 第10回：PHP言語入門：繰り返し2【繰り返しwhile】
- 第11回：PHPによるファイル操作1【ファイル操作】
- 第12回：PHPによるファイル操作2【データの入れ替え】
- 第13回：乱数の利用【乱数】
- 第14回：クリックابلマップの利用【クリックابلマップ】
- 第15回：PHP技術の応用【PHP応用】

(進行速度、受講者の希望等により内容、順番、進み方は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 課題・小テスト...25% 期末試験...60%

詳細は第1回目に説明するので、必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回内容を復習し、理解できていない場合にはテキスト、参考資料、Web検索などでしっかりと勉強し、次回までには理解しておくこと。定期的な課題にもしっかりと時間をかけて取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPHP言語というプログラミング言語によるWeb上で動作するプログラミングをします。PHPはJAVAに似ていますので、JAVA経験者はJAVAの文法を復習しておくとう理解しやすいと思います。

PHPについては、初歩から中級程度の内容を勉強します。(自分で勉強したことがある人は物足りない可能性があります。)

基礎から勉強しますが、プログラミング未経験者は、各自予習復習をしっかりする必要がありますと思います。

Windowsの基本的な操作はできることを前提に話をします。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。必要なソフトのコピーをするので、この授業向けには1Gb(メガバイト)程度の容量が必要になると思います。

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業データ分析【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	データ解析法の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのデータ解析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業データ分析

INF341M

授業の概要 /Course Description

近年、情報科学や統計学、データ分析といった分野は非常に注目されています。経営情報学科においても、そういった流れを踏まえ、1年時に必修科目として「情報科学入門」や「経営統計I」を設置し、こういった学問分野への入り口としています。

本講義では、「経営統計I」で学んだ知識を「情報科学入門」で学んだプログラミングの技術を用いて確認し、また、卒業論文などの研究、また就職後の実務場面においてデータ分析を行うことができるようになるための知識と技術を身につけることを目的としています。

「経営統計I」で学んだ理論について、シミュレーションデータを用いてその通りにデータが振る舞うことを確認する。平均値や分散といった指標をMicrosoft ExcelやPythonで算出する方法を学び、実際に求めてみる。実データを用い、Pythonで統計的仮説検定や回帰分析などを行い、結果を解釈する。といった内容になります。

到達目標

知識

経営統計に関する基礎的な知識体系的かつ総合的に身につけている。

技能

経営統計に関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

経営統計について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷合廣紀(著)「Pythonで理解する統計解析の基礎」技術評論社

企業データ分析【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション, Excelの使い方【Microsoft Excel】
- 2回 Pythonの使い方とパッケージ【Python】 , 【numpy】
- 3回 データの作成と読み込み【csv】
- 4回 1変量データの要約【変数】 , 【尺度】 , 【度数分布表】 , 【ヒストグラム】
- 5回 変数の代表値について【平均】 , 【分散】 , 【標準偏差】
- 6回 離散的な分布の扱い方【確率】 , 【2項分布】
- 7回 母集団と標本【母数】 , 【標本】 , 【推定値】
- 8回 連続的な分布の扱い方【正規分布】 , 【確率密度関数】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】 , 【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【中心極限定理】 , 【標準誤差】 , 【信頼区間】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 12回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】 , 【F検定】
- 13回 2つの変数の間の関係【散布図】 , 【相関】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% レポート...30%
尚、欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を所定の場所にアップロードしますので、ダウンロード、読んでおいてください。

講義中の実習のほかに練習問題も出します。講義のあとは、練習問題を解いて理解度を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Python、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さらに高度な分析を学びたい人向けに、3年時開講科目として「マーケティング・サイエンス」があります。本講義には、そのための準備という位置づけもあります。興味を持った方は、ぜひより高いレベルの分析にチャレンジしてみてください。

キーワード /Keywords

システム分析 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

知識の到達目標としてはシステムに関する専門的な知識を身につけていることです。また、技能の到達目標としてはシステムを理解する上で必要な情報を収集、分析することができることです。さらに、思考・判断・表現力の到達目標としてはシステムの観点からの論理的な分析をもとに、代替案を立案し、その効果を評価できる力を身につけていることです。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートはMoodleに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○
平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに講義ノートをアップするので事前に目を通してください。
課題を出すので、課題に取り組んで下さい。

システム分析 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計」とあわせて受講すれば理解が深まります。
Moodleを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義内容は予め学習支援ホルダーにアップしておくので、予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な【到達目標】は以下のとおりである。

【知識】コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。

【技能】コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。

【思考・判断・表現力】コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2 回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3 回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4 回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5 回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6 回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7 回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8 回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9 回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10 回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11 回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12 回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13 回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14 回 問題演習
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

履修上の注意 /Remarks

情報ネットワーク【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

用語がたくさん出てくるので、それらの意味をきちんと調べて受講してほしい。

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

システム設計 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム設計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム設計に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム設計の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム設計

INF420M

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

知識の到達目標としてはシステムを構築する上で体系的かつ総合的に理解していることです。また、技能の到達目標としてはシステム構築を行うスキルを身につけていることです。さらに、思考・判断・表現力の到達目標としてはシステム設計について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができることです。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノート Moodle にアップする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング

山田 祥寛著『TECHNICAL MASTER はじめてのAndroidアプリ開発 第3版Android Studio 3 対応』2019年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
- 2回 アプリ開発とは？【AndroidStudio】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
- 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
- 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
- 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
- 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
- 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
- 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
- 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
- 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

システム設計 【昼】

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。講義ノートはMoodleにアップしておくので、予め予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論III 【昼】

担当者名 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要なより高度な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論III

ACC210M

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに特に主眼をおきたい。日商簿記検定2級の新しい出題範囲である連結会計、外貨建取引、リース会計などの諸問題についても慣れてもらうようにしたい。

（到達目標）

【知識】会計学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】会計学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

【自律的行動力】会計学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

滝澤ななみ『みんな欲しかった簿記の教科書 日商2級商業簿記』、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを配布する。テキストは、できうる限り新しい出題範囲を盛り込んだものを購入してほしい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに（2021年度の講義の概要）
- 2回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第157回）】
- 3回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第157回）】
- 4回 第157回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 5回 第157回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 6回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第156回）】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第156回）】
- 8回 第156回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 9回 第156回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第154回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第154回）】
- 12回 第154回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 13回 第154回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 14回 おわりに（2021年度の講義のまとめ）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を必ず行っておくこと。

簿記論III 【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 典生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	工業簿記の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	工業簿記の諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	工業簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	工業簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

工業簿記

ACC211M

授業の概要 /Course Description

この科目では、製造業で用いられる簿記で、商業簿記と対比して論じられる工業簿記を学習していきます。工業簿記は、材料を購入、加工して製品化する製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記と大きく異なっています。工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していきます。したがって、工業簿記をよりよく理解するためには、原価計算の仕組みを把握し、これを簿記システムと関連付けることが重要です。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、工業簿記の理論と実践の双方を理解するために必要な知識を習得することができます。

(到達目標)

【知識】 会計学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 会計学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

【自律的行動力】 会計学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

問題集等必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
11. 等級別総合原価計算
12. 組別総合原価計算
13. 工程別総合原価計算と減損
14. 標準原価計算
15. まとめ

工業簿記【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常的な授業への取り組み(15%)、課題の提出状況(35%)を目安として、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習のため、類似問題を解いてください。

履修上の注意 /Remarks

商業簿記の基礎を理解しておいてください。
電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論 I

ACC212M

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

製品やサービスの価格決定の基礎ともなる原価の計算方法および流れについて学習します。原価計算論Iでは、顧客からの注文に応じて一品一様で製造される製品の原価計算（個別原価計算）について学習します。

【到達目標】

《知識》

原価計算に関する基礎的な知識を身につけている。

《技能》

原価計算に必要な情報を収集し、分析するスキルを身につけている。

《思考・判断・表現力》

原価計算について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋賢 . 2015 . 『テキスト原価会計』中央経済社 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【授業の概要】

1. ガイダンス（原価計算の学び方）
2. 原価および原価計算の基礎知識①：原価計算の目的
3. 原価および原価計算の基礎知識②：原価とは何か
4. 原価および原価計算の基礎知識③：原価計算の種類
5. 原価の費目別計算①：材料費
6. 原価の費目別計算②：労務費
7. 原価の費目別計算③：経費
8. 前半のまとめ
9. 製造間接費の計算①：製造間接費の性質
10. 製造間接費の計算②：原価差異分析
11. 単純個別原価計算①：単純個別原価計算の原理
12. 単純個別原価計算②：仕損と作業屑
13. 部門別個別原価計算①：原価の部門別計算
14. 部門別個別原価計算②：部門別個別原価計算
15. 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（60%）、小テスト（40%）にて評価します。

原価計算論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

電卓を使用しますので持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計、原価、原価計算

原価計算論II 【昼】

担当者名 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を維持する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論II

ACC213M

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

製品やサービスの価格決定の基礎ともなる原価の計算方法および流れについて学習します。
原価計算論IIでは、同じ規格で大量に製造される製品の原価計算（総合原価計算）について学習します。

【到達目標】

《知識》

原価計算に関する専門的な知識を身につけている。

《技能》

原価計算に必要な情報を収集し、分析するスキルを身につけている。

《思考・判断・表現力》

原価計算について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋賢 . 2015 . 『テキスト原価会計』中央経済社 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【授業の概要】

1. ガイダンス（原価計算の学び方）
2. 単純総合原価計算①：総合原価計算の原理
3. 単純個別原価計算②：モノの流れの仮定と製品原価の計算
4. 減損費と仕損費の処理①：減損・仕損とは何か
5. 減損費と仕損費の処理②：非度外視法・度外視法
6. 工程別総合原価計算
7. 組別総合原価計算
8. 前半のまとめ
9. 等級別総合原価計算
10. 連産品の原価計算
11. 標準原価計算①：標準原価計算の意義
12. 標準原価計算②：原価差異の原因別分析
13. 直接原価計算①：直接原価計算とは何か
14. 直接原価計算②：直接原価計算とCVP分析
15. 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（60%）、小テスト（40%）にて評価します。

原価計算論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

電卓を使用しますので持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計、原価、原価計算

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。

技能：会計学の基本的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2 回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3 回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4 回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5 回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6 回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7 回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8 回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9 回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10 回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11 回 中間のまとめ
- 12 回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か？ - 【コンテンツラーメン】
- 13 回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14 回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15 回 まとめ

財務会計論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、例年レポート等を含む) ... 20% 中間試験... 20% 期末レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する専門的な知識を見つけている。

技能：会計学の専門的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

財務会計論II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト(簿記2級程度の仕訳)や、財務会計論の入門書及び教科書(例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍)を読むことをすすめる。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 時勢に応じた経営学分野の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学特殊講義B

BUS391M

授業の概要 /Course Description

本講義は、消費者行動にかかわる人間特性について、知覚・認知心理学や社会心理学の見地から概観していきます。社会においてヒトがどのように世界を見聞きし、理解し、判断を行っているか、さらにはコミュニケーションがどのようになされるかを知ることは重要だと言えます。

<到達目標>

DP1（知識）：経営学の応用・周辺分野に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

DP3（思考・判断・表現力）：経営学の応用・周辺分野の諸問題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

DP5（自律的行動力）：経営学の応用・周辺分野に関する諸問題に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松井剛・西川英彦（編著）『1からの消費者行動』中央経済社 2016年 ¥2400

他にも、講義内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 消費者行動と経営学 1：ガイダンスと授業の概要説明，経営学と心理学との接点
- 2回 消費者行動に関わる人間の特性 1：感覚と知覚 1
- 3回 消費者行動に関わる人間の特性 2：感覚と知覚 2
- 4回 消費者行動に関わる人間の特性 3：多感覚統合
- 5回 消費者行動に関わる人間の特性 4：選択的注意
- 6回 消費者行動に関わる人間の特性 5：よさと感性
- 7回 消費者行動に関わる人間の特性 6：感情と情動
- 8回 消費者行動に関わる人間の特性 7：学習理論
- 9回 消費者行動に関わる人間の特性 8：強化スケジュール，動機づけ
- 10回 消費者行動に関わる人間の特性 9：記憶
- 11回 消費者行動に関わる人間の特性 10：対人認知，対人感情
- 12回 消費者行動に関わる人間の特性 11：コミュニケーション
- 13回 消費者行動に関わる人間の特性 12：説得と態度変容
- 14回 消費者行動に関わる人間の特性 13：確率判断，リスク認知，認知バイアス
- 15回 消費者行動と経営学 2：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内小テスト ... 40% 授業内レポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

授業中に模擬実験を行う場合もあります。

経営学特殊講義B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業の人的資源の活用や顧客とのコミュニケーション等を学んでいくにあたって、心理学の知識を得ることは有益となります。

キーワード /Keywords

経営学 知覚・認知心理学 社会心理学

法学総論 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それら貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

【知識】法学の初歩的な知識を身につけている

【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

法学総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる（べき）か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら？…【国家＝権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公／私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法／私法】、【実体法／手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか / 反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験…100%
- ・ 授業の進捗状況により、コメントカードの提出を求めることがあります。その場合、優れたコメントは成績評価に加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけでなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法（学）には、たいいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かな考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる（べき）秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10.人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようにになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。

授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第8版]』（有斐閣、2018年）

同 『個人情報保護法の逐条解説[第6版]』（有斐閣、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）

園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）

行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

情報公開・個人情報保護法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

情報公開とは何か

- 第1回 情報公開の意義
- 第2回 情報公開制度の憲法上の基礎
知る権利、国民主権、説明責任
- 第3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(1)
情報・行政文書の意義
- 第4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(2)
個人情報の不開示とプライバシー保護
- 第5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(3)
法人等情報及び意思形成過程情報の不開示
- 第6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(4)
事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示
- 第7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(5)
部分開示、応答拒否、裁量的開示
- 第8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(6)
開示手続、不服申立て、審査会による審査等
- 第9回 個人情報保護の意義
個人情報保護とは何か
- 第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎
個人の尊厳とプライバシー
- 第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(1)
個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
- 第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(2)
個人情報の収集、管理、利用
- 第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(3)
開示請求、非開示情報、訂正等請求
- 第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(4)
不服申立て、審査会による審査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、労働組合と使用者の関係を規律する法分野である集团的労働関係法を中心的に学びます。

本講義の目的は、集团的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。

（到達目標）

【知識】 労使関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 労使関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 労使関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）3,300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

第1回 インTRODクシヨN

第2回 労働基本権の保障

第3回 労働組合法上の主体

第4回 労働組合の組織と運営

第5回 団体交渉

第6回 労働協約①【労働協約の成立、労働協約と労働契約】

第7回 労働協約②【労働協約の更新と終了】

第8回 組合活動

第9回 争議行為①【争議行為の意義、正当性】

第10回 争議行為②【争議行為と賃金、正当性のない争議行為の責任、ロックアウト、争議行為と第三者】

第11回 不当労働行為①【不当労働行為制度の意義・目的、不利益取扱い】

第12回 不当労働行為②【正当な理由のない団交拒否、支配介入、複数組合並存下の問題】

第13回 不当労働行為③【救済】

第14回 紛争解決制度

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・・100%

労使関係法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「8.働きがいも経済成長も」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、個々の労働者と使用者の関係を規律する法分野である個別的労働関係法を中心に学びます。

本講義の目的は、個別的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。講義では、労働契約の成立、展開、終了という労働契約の展開過程に沿って重要論点を検討します。

（到達目標）

【知識】雇用関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】雇用関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】雇用関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）3,300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

- 第1回 イントロダクション（労働法の役割）
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の成立
- 第4回 労働契約上の権利・義務
- 第5回 就業規則と労働契約
- 第6回 賃金
- 第7回 労働時間、休憩・休日と年次有給休暇
- 第8回 人事異動・配転・出向
- 第9回 労働契約の変更
- 第10回 休業・退職
- 第11回 安全衛生と労災補償
- 第12回 懲戒
- 第13回 労働契約の終了（解雇、退職とその他の法律関係）
- 第14回 雇用平等、労働者の自由と人権
- 第15回 非典型雇用（パート有期労働、派遣労働）

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・・100%

雇用関係法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

「社会法総論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

(到達目標)

【知識】 社会サービス法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 社会サービス法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会サービス法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。レジュメは、Moodleで事前配布する。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じて講義中に適宜指示する。

社会サービス法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インTRODクシヨン～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保険の保険関係（保険者・被保険者）
- 第3回 保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医
- 第4回 保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題
- 第5回 医療保険の保険給付
- 第6回 医療保険の財政
- 第7回 高齢者の医療保障
- 第8回 医療供給体制に関する法制
- 第9回 社会福祉の法体系とその展開
- 第10回 社会福祉の給付方式
- 第11回 サービス利用の法律関係
- 第12回 福祉サービスの提供体制
- 第13回 権利擁護システム
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （事前学習） 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
- （事後学習） 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより理解しやすくなる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1（貧困をなくそう）、3（すべての人に健康と福祉を）、10（人や国の不平等をなくそう）及び16（平和と公平をすべての人に）の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 鬼塚 知 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

いわゆる環境法の考え方を学び、法解釈における思考力を鍛えることを目標とする。
受講生の数をふまえ、いわゆるソクラテスメソッドも採用しながら、知識の定着・応用を図っていく。

【到達目標】

- （知識）環境法に関する知識を体系的に身につけている。
- （技能）環境に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- （思考・判断・表現力）環境法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

各回にて講師作成のレジユメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講師が必要に応じ、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 環境法とは その1
- 第3回 環境法とは その2
- 第4回 環境法とは その3
- 第5回 環境基本法
- 第6回 循環基本法・環境影響評価法
- 第7回 水質汚濁防止法
- 第8回 大気汚染防止法
- 第9回 土壌汚染対策法
- 第10回 廃棄物処理法 その1
- 第11回 廃棄物処理法 その2
- 第12回 容器包装リサイクル法
- 第13回 自然公園法
- 第14回 地球温暖化対策法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み姿勢 30 %
定期試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特になし。
ただ、事前学習よりも、事後学習（復習）をすることを推奨する。

環境法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

行政法・民法等と密接に関係する分野であり、これらの知識をある程度保有していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行政法・民法等の理解を深めたいと考えている受講生にも役立つ授業にしたいと考えている。

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 /Instructor 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対する措置の内容を学びます。まず、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不公正な取引方法」などについて、具体的事例に接しながら理解してもらいます。

(到達目標)

【知識】独占禁止法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】独占禁止に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】独占禁止法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

この講義で扱う独占禁止法は2019年に大きく改正されていますが、それを反映した適当な教科書が、このシラバス入力段階ではありません。したがって、ここで教科書の指定はできない状況です。改正法が反映されていないため、購入の必要はありませんが、教科書に準ずる参考書として、土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』（有斐閣、2019年）があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税

泉水文雄『経済法入門』（有斐閣、2018年）3700円＋税

岸井大太郎ほか『経済法（第9版）』（有斐閣、2020年）2700円＋税

独占禁止法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不公正な取引方法」の禁止（1） 取引拒絶行為の規制
- 11 「不公正な取引方法」の禁止（2） 不当廉売行為の規制
- 12 「不公正な取引方法」の禁止（3） 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不公正な取引方法」の禁止（4） 拘束条件付取引の規制
- 14 「不公正な取引方法」の禁止（5） 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

集中講義形式で行われる授業のため、授業への出席が成績評価の大前提となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

民法総則【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW180M

授業の概要 /Course Description

民法は、日常生活の法といわれることがあります。つまり、日常生活に関わる法律であると。もっとも、日常生活と一口に言っても、そこでは様々なことが行われています。ですから、民法は、具体的にどの部分に関わるのかが疑問に感じられるでしょう。この点について、民法は①家族関係、②財産、③契約に関係するとされています。なんだか漠然とした答えですが、民法は広く日常生活に関係しているというイメージを持って頂ければそれで十分です。

このように広い対象を規律する法律が民法ですから、その条文の数はかなり多く(1050条!)、それゆえに5つの大きなまとまり(「編」という)に分けられています。その第一編が「総則」であり、「総則」には、続く第二編「物権」と第三編「債権」とに共通するルールが定められています。この「総則」(1条~169条)がこの講義で扱う範囲となります。

この講義では、民法典の全体像をしっかりと把握した上で、民法総則が扱っているルールを正確に理解し、基本的な法解釈ができるようになることを目的とします。願わくは、解釈の面白さに目覚めて欲しいと思います。

(到達目標)

【知識】民法学の民法総則に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の民法総則に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現】民法学の民法総則に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

佐久間毅ほか『民法I総則(第2版補訂版)』(有斐閣リーガルクエスト、2020年)2600円+税
適宜レジュメも配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年)3100円+税
- 潮見佳男=道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)2200円+税
- 大村敦志=道垣内弘人編『解説民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山野目章夫『民法概論1民法総則』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山本敬三『民法講義I総則(第3版)』(有斐閣、2011年)4500円+税

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス、民法の意義
- 第2回民法の基本原則、民法総則とは
- 第3回人①（権利能力、意思能力）
- 第4回人②（行為能力、未成年者）
- 第5回人③（成年後見制度、任意後見）
- 第6回人④（住所、不在者、失踪宣告）
- 第7回法人①（法人総論）
- 第8回法人②（法人の対外関係、権利能力なき社団）
- 第9回物
- 第10回法律行為①（定義、意義）
- 第11回法律行為②（成立、解釈）
- 第12回法律行為③（法律行為の有効性判断）
- 第13回意思表示①（意思表示の構造、心裡留保）
- 第14回意思表示②（通謀虚偽表示）
- 第15回意思表示③（錯誤）
- 第16回意思表示④（詐欺・強迫による意思表示、消費者契約法）
- 第17回代理①（代理総論、成立要件）
- 第18回代理②（無権代理）
- 第19回代理③（無権代理人の責任、無権代理と相続）
- 第20回代理④（代理権授与表示による表見代理）
- 第21回代理⑤（権限外行為の表見代理）
- 第22回代理⑥（代理権消滅後の表見代理）
- 第23回無効・取消し
- 第24回条件・期限、期間
- 第25回時効①（時効総論、正当化根拠）
- 第26回時効②（取得時効）
- 第27回時効③（消滅時効）
- 第28回時効④（時効の完成猶予・更新）
- 第29回時効⑤（時効の援用、時効利益の放棄）
- 第30回民法改正について（債権法改正、成人年齢下げ）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
事後には、論点を中心に、とりわけ、判例の理論構成に注意して講義ノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

講義には、六法と教科書を毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上で述べたように、総則には、物権編と債権編に共通するルールが定められていることから抽象度が高いため、初学者には難しく感じられるかもしれません。具体例を多く取り上げるなどの工夫をして講義を進めますので、辛抱強くコツコツと学習に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法総則、権利の主体、法律行為、意思表示、代理、時効

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても適宜、取り上げていきます。

本講義では、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日的な法律問題や課題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることを目指します。

(到達目標)

- ・ 企業法に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の関心・理解度等により、進度・順番が変わりうることをご了解願います。

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 商人・商行為とは何か
- 第3回 商法の特徴(1)【營利主義】
- 第4回 商法の特徴(2)【外観主義】
- 第5回 商法の特徴(3)【公示主義】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

企業活動と法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）15%、復習（事後学習課題）25%、および学期末レポート課題60%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。

①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。

予習、復習を前提とした講義を展開します。

指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。

詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

1、本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

2、Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

- 【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている
 - 【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
 - 【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
- となります。

具体的には、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

第2回 条約の締結

第3回 条約への留保

第4回 条約の国内的効力と国内適用

第5回 ケーススタディ

第II部「特別法と一般法」

第6回 条約と第三国

第7回 慣習国際法の成立

第8回 慣習国際法の法典化

第9回 条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」

第10回 国際責任の成立

第11回 国際責任の追及と解除

第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止

第13回 自衛権

第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と国家承認

第3回 政府承認

第4回 国家の基本的権利

第5回 国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」

第10回 陸と国際法：領土取得の権原

第11回 陸と国際法：領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習(事前学習)課題、復習(事後学習)課題、学期末試験で評価します。

予習(事前学習)課題...16.5% 復習(事後学習)課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】 【SDGs_Goal16】

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

（到達目標）

【知識】社会保障制度を総合的に理解している。

【技能】社会保障制度を利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会保障制度について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。Moodleなどでの配信はおこないません。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

福祉国家論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「福祉国家とは」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「自由と平等の規範」 自由主義、社会主義
- 第3回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第4回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第5回「年金保険」 財政悪化
- 第6回「年金保険」 空洞化（無年金・低年金）
- 第7回「年金保険」 世代間格差
- 第8回「年金保険」 世代内格差
- 第9回「年金保険」 改革の論点
- 第10回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第11回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第12回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第13回「生活保護」 原理・原則
- 第14回「生活保護」 扶助の種類
- 第15回「生活保護」 健康で文化的な最低限度の生活

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点ははありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート試験に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を、他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。

本講義は、都市の経済的問題を軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見ていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

(到達目標)

【知識】

都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】

都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
 - 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
 - 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか? - 都市の発展
6. 都市空間の形成 - 都市システム
7. 都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10. 地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末試験50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末試験を受験しない者は、いずれも単位認定の対象外です。
(※新型コロナの状況により期末レポートに切り替える場合がありますが(配点50%は同じ)、その場合は事前にアナウンスします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
- 8回 自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
- 9回 自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
- 10回 地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
- 11回 地方分権改革②【地方議会と首長】
- 12回 市町村合併①【平成の大合併】
- 13回 市町村合併②【合併の効果】
- 14回 現代の地方自治の動き①【地方分権一括法の動向】
- 15回 現代の地方自治の動き②【地方創生など】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方自治論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどうのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

(到達目標)

【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。

【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

公共政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチヨークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 ヤングケアラーの問題
- 15回 まとめ～シルバー・デモクラシーと若者政策～

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政治過程論 【昼】

担当者名 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う、といったように政治が機能する過程を理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身につけ、民主政治における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

(到達目標)

【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会

谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程
【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに墮してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身に付けていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程 入力過程と出力過程

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④家族構成の変容（単身世帯の急増）、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

（到達目標）

【知識】地方自治体の公共政策に関する、基礎的な知識を身につけている。

【技能】地方自治体の公共政策について、必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】地方自治体の諸問題について総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?-』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

自治体政策研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か？
- 10回 北九州市の局地的高齢化
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 ふるさと納税
- 14回 小さな自治体は消滅するのか？-島根県海士町から考える-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。

受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさを守ろう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民(買い物弱者)、超高齢社会の担い手

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたうえで、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えることとまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けることを目指していきます。

(到達目標)

【知識】政治制度についての基礎的な知識を身につけている。

【技能】各国の政治制度の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】制度設計の観点から社会的諸問題を論理的に検討し、その解決策について自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

レイプハルト, アーレント (粕谷裕子、菊池啓一訳) 2014. 『民主主義対民主主義 (原著第2版)』勁草書房

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝 (2011) 『政治学 (補訂版)』有斐閣

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【公共財】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度①：トップリーダーに何ができるか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】【ダウズモデル】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 執政制度②：執政制度のヴァリエーション
【議院内閣制の多様性】【大統領制の多様性】【半大統領制の多様性】
- 第8回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第9回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第10回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第11回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第12回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第13回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第14回 政治学方法論：数理分析を中心に
【数理分析】【ゲーム理論】【ナッシュ均衡】【公共財ゲーム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
(オンラインの場合 期末レポート：100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に参加(オンラインの場合は講義動画の視聴を)してください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・教科書は専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して講義(オンラインの場合講義動画)ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。復習時に、教科書の内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・教科書の該当部分、スライド内で引用した文献の出典は教員のホームページにて示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は政治学の学習の入り口に位置づけられるものですが、その後に履修するであろう「発展的な」科目に比して平易というわけではありません。むしろ、政治の基本的な仕組み/ルールである「政治制度」という切り口から、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供する高度な内容であるといえます。大学での知的生活における早い段階で触れつつも、それを咀嚼・理解して自分のものとするために何度も戻ってくる、そういう価値のある内容を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

地方行政改革論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論

PA0310M

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政をめぐる、現代的な課題をテーマごとに学ぶ。地域活性化のために必要な行財政のあり方の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力：地方行政改革について、複眼的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

DP1 知識：地方行政の改革に関する専門的応用的な知識を体系的に身につけている。

DP2 技能：地方行政改革の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方財政の仕組み【収入源】
- 3回 地方財政の改革①【法定外税】
- 4回 地方財政の改革②【ふるさと納税】
- 5回 地方財政の改革③【住民参加型地方債】
- 6回 地方財政の改革④【原発】
- 7回 市民参加の改革①【自治基本条例】
- 8回 市民参加の改革②【町内会自治会の活性化】
- 9回 市民参加の改革③【地域自治組織】
- 10回 市民参加の改革④【パブリックコメントなど】
- 11回 地域の戦い①【定住人口対策】
- 12回 地域の戦い②【交流人口対策】
- 13回 地域の戦い③【災害対策】
- 14回 地域の戦い④【公務員のやる気】【PSM】
- 15回 地域の戦い⑤【公務員のやる気】【境界連結者としての公務員】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 冬休みの特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方行政改革論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います(もちろん、2年生でも受講は可能です)。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくり」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	途上国において何が政策課題を見極め、政策的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

新型コロナは世界中の人々を襲撃しました。誰も経験したことのない事態が起こっています。途上国でも感染者数や死者数も急増しています。2021年1月現在、国際間の人の流れは完全に抑えられました。その代わりに、IT技術のおかげで、遠隔装置を使い、人々はつながっています。今後も、めまぐるしく状況は変化するでしょう。新型コロナ禍がいつ収まるかはわかりませんが、今世紀は、開発途上国がその中心舞台に躍り出ること間違いなしでしょう。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、（新型コロナ禍の収束状況いかんですが）、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

{ 知識 } 途上国の政治経済の現状を理解している。

{ 技能 } 途上国の政治経済上の情報を入手し、分析できる。

{ 思考・判断・表現力 } 途上国の持続可能な開発に理解を示し、積極的に支援する。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、2013年、5400円

途上国開発論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、特に新型コロナ禍の状況を踏まえて【新型コロナ禍】	
第2回	開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで）	【持続可能な開発（SD）】
第3回	成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方	【貧困概念】【アマルティア・セン】
第4回	急速の経済発展～インドのIT産業を事例として	【IT産業】
第5回	人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策	【一人っ子政策】【少子化】
第6回	都市産業問題～インフォーマルセクターの存在	【インフォーマルセクター】
第7回	居住問題～スラム・スクオッタ居住区	【スクオッタ居住区】
第8回	資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方）	【資源分配】
第9回	環境問題～森林破壊、海洋汚染など	【森林破壊】
第10回	環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に	【廃棄物管理問題】
第11回	保健・医療問題～感染症、下痢を中心に	【感染症】
第12回	途上国での農漁村での農業・漁業の在り方	【農業・漁業】
第13回	途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA	【ODA】
第14回	台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より	【NGO】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20%	小課題の提出 ... 30%	試験もしくはレポート ... 50%
-----------------------	----------------	--------------------

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴しててください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りがないようにしてください。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。時には、お金を貯めて、世界に飛び立とう。自らの世界観の狭さやちっぽけさに気付こう。今は、新型コロナ禍が収束するまでの準備期間と考え、準備に励もう。（担当教員もそのような準備をしています）

キーワード /Keywords

新型コロナ禍、開発途上国（インド・バングラデシュなど）、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

都市政策論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題、都市政策の手法等を概観した後、地域産業政策、地域コミュニティ政策、安全安心まちづくり、空き家対策、環境政策、文化観光政策などの様々な政策分野の状況と政策展開の実際を学んでいく。都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史的変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。また、脅威となっている大規模地震災害や新型コロナウイルスに対する政策についても言及する予定である。

(到達目標)

【知識】

都市政策に関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市政策に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市政策の現状を説明し、都市政策課題の解決に向けた学際的なアプローチを探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

・特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
- 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・講義の中で適宜紹介します。

都市政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法 (1) - 政策の構造化
5. 都市政策と政策手法 (2) - 政策手法とプロセス
6. 地域産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. インバウンドと観光まちづくり
13. 都市文化政策と文化創造
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

※新型コロナウイルスの状況が落ち着けば、「政策展開の実際」ということでゲスト講師を招聘することも考えています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末試験50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。
(※新型コロナの状況により期末レポートに切り替える場合がありますが (配点50%は同じ)、その場合は事前にアナウンスします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。後期科目である都市マネジメント論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、人間と環境・自然との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、コロナ感染症と気候変動、国家間移動、放射能の大気汚染について理解し原因を分析する。
- ④ 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ⑤ 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ⑥ SDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策と生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ⑦ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

（到達目標）

- 【知識】 環境問題に関する理解を深め、その対策に必要な専門的な知識を修得している。
- 【技能】 環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身につけている。
- 【思考・判断】 環境問題における多様な観点や利害関係を理解し、問題解決力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業や本の紹介など (自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2 回 公害、環境 (問題) とその構造 (被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造 (環境、社会構造と制度、技術、自然 = 資源、人口)
- 3 回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴 1 (日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4 回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5 回 環境権、環境政策の特徴 2 (日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6 回 環境政策の手段 (間の比較分析) 1: 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7 回 環境政策の手段 (間の比較分析) 2: 有料化、road pricing等
- 8 回 ポスター発表会
- 9 回 自治体の環境政策 (環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10 回 廃棄物はどこにいくのか (アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11 回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12 回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13 回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14 回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15 回 まとめ (試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意欲にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない (原発なくても) と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策 (政策手段)、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力。

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	● 東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交

ARE216M

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

（到達目標）

【知識】 東南アジアの政治と外交に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】 東南アジアの政治と外交の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEANパワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN-新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1)ASEANの拡大と経済協力の進展
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2)経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 アジア太平洋協力の核としてのASEAN
- 13回 ASEAN憲章とASEAN共同体
- 14回 政治的な変化と内政不干渉の再検討
- 15回 まとめ

東南アジアの政治と外交 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。

自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (40%) Presentation and Participation (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力			
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion:

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments: 40%; Debate preparation and debate performance: 60%

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 倫理に関する情報を収集・分析することができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

(到達目標)

【知識】 倫理学について基礎的知識を修得する。

【技能】 倫理に関する情報を収集・分析することができる。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【美しき国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想 【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想 【旅とコギト】
- 第9回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第8回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【承認とコルボラツィオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想 【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む) 40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

倫理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修者が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

・ 本授業の到達目標

- 「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストの指定はありません。教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

歴史と政治【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

ことばの科学 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読

事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロッキ、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいの？

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- （ オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。 ）
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【夜】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 | 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 | 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて, 授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ, 「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば, 随時, 質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナーシップ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			環境問題概論
			ENV100F

授業の概要 /Course Description

【少人数による対話型（教員と受講生の双方向）の授業】

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後にレポート試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

現代社会と文化【夜】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
 - 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
 - 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局
 - 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
 - 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- ※そのほか必要に応じて講義中に指示する

現代社会と文化【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明
- 第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
- 第8回 多文化主義の可能性と限界
- 第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ
- 第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

- 第II部 文化の違いを超えて？
- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体近代化
- 第13回 医療の持つ権力と文化
- 第14回 癒しの多様性
- 第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回）60%、毎回の授業課題 40%
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変わります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 3回 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 4回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競争】
- 7回 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 多様性生物学と進化 (蓑島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 石の歌がきこえる (森) 【岩石】 【考古】 【文理融合】
- 10回 魚類分類学と多様性 (日比野) 【ホロタイプ】 【分類学の歴史】
- 11回 博物館見学 (日高)
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ (野井) 【地学と歴史のかかわり】
- 13回 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 14回 課題研究 (日高)
- 15回 まとめ (日高)

自然史へのいざない【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第7回～第9回は11月28日（日）博物館にて講義と見学の予定。
（博物館までの交通費は自己負担とする）
- ・ 上記以外は遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 第1回目Moodleで詳細について説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけではありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察するとは、行動だけでなく、質問にハイ・イイエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：40点
レポート：30点
期末試験：30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読んでください。
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。レポートを書くのは前期で1回限りです。所定の書式は最初の授業で紹介します。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます（事後学習）。
2. 次の時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%
期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

企業と社会【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
 - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
 - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
 - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
 - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
 - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
 - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
 - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
 - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
 - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
 - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
 - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

現代の国際情勢【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めどう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標) [自律的行動力] 自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりがえり

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウエイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（電子メール送受信・情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことを復習して、課題を締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフト Excel などのコンピュータ操作は、自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を発見するのに必要な統計的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学 I	ECN130M
-------	---------

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方(推定、検定)を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

到達目標

- 【知識】統計学に関する基礎的な知識を(体系的かつ総合的に)身につけている
- 【技能】統計解析を行うスキルを身につけている
- 【思考・判断】統計学の観点から論理的な分析を行い、具体的な分析手法を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論とガイダンス
- 2 一様乱数とヒストグラム(教科書第1章)
- 3 点推定と区間推定(教科書第2章)
- 4 点推定と区間推定の意味(教科書第3章)
- 5 正規確率変数(教科書第4章)
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)の分布と標準化(教科書第5・6章)
- 7 割合pに関する仮説検定(本体)(教科書第9章)
- 8 正規確率変数の平均 μ と標準偏差 σ の推定(教科書第14・15章)
- 9 連続型確率変数の平均 μ の区間推定と検定(教科書第16・17章)
- 10 回帰分析1【導入、標本相関係数、標本共分散】(教科書第20章)
- 11 回帰分析2【最小二乗法】(教科書第21章)
- 12 回帰分析3【決定係数】(教科書第22章)
- 13 回帰分析4【 σ の推定、t変量】(教科書第23章)
- 14 回帰分析5【推定量の平均、t統計量の分布】(教科書第24章)
- 15 回帰分析6【 α 、 β に関する検定】(教科書第25章)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週予習ファイルを提出させ、これと、毎週行われるテストで100%評価する。

統計学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、excelを使って実際に演習をしておくこと。
事後学習：Pythonプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はPythonをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布、回帰分析

統計学II【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を解決するために必要な統計的手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力		
※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
		統計学II	ECN230M

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一部を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

(到達目標)

【知識】計量経済学的分析に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】計量経済学的分析に必要な検討することができる。

【思考・判断・表現力】計量経済学的分析について、論理的に思考し解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記は一例です。受講者数および受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

1回 講義概要

2回 実証経済分析の目的、背景、手法、結論

3回 因果関係で考える

4回 回帰式の作られかた

5回 実証したい仮説を、実証できる仮説に翻訳する

6回 統計学を応用した因果関係のチェック

7回 実証経済分析の結果を役立てる

8回 回帰分析のまとめ

9回 演習：分析の背景を読み解く

10回 演習：分析の結果を読み解く

11回 データを集める

12回 データの特徴を把握する 1：移動平均

13回 データの特徴を把握する 2：分布

14回 演習：分布の視覚化

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

統計学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】 クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。
- 【事後】 宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学 I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

ミクロ経済学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II

ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学(旧カリ科目)」の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【割引現在価値計算】【債券】【リスクと流動性】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】【楽観的期待】【投機的取引】
- 7回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(6) 【バブルと資源配分】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 10回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 11回 ケインズの不況理論(1) 【GDPギャップ】【ベビーシッター組合の寓話】【45度線分析】
- 12回 ケインズの不況理論(2) 【均衡の安定性】【比較静学】
- 13回 ケインズの不況理論(3) 【貯蓄のパラドックス】【乗数効果】
- 14回 ケインズの不況理論(4) 【財政の3機能】【財政政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題: 25%, 期末試験: 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

マクロ経済学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学Ⅱ【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学Ⅱ

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Ⅰに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル(=45度線モデルやIS-LMモデル)を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、長期の経済成長モデルについて説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【経済循環図】【45度線モデル】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 7回 中央銀行と金融政策(1) 【中央銀行の目的と機能】【公開市場操作】【ハイパワードマネー】
- 8回 中央銀行と金融政策(2) 【貨幣乗数】【アベノミクス】
- 9回 仮想通貨について 【貨幣の条件】【仮想通貨と地域通貨】【ネットワークの外部性】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政・金融政策】【クライディングアウト】
- 12回 経済成長理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長理論(2) 【新古典派成長理論】【収束】
- 14回 経済成長理論(3) 【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題: 25%, 期末試験: 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

マクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学の入門的知識を身につけている。

【技能】ミクロ経済分析に必要な概念を活用できる。

【思考・判断・表現力】基礎的な資源配分の問題を考察することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

経済学入門 A 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレ（デフレ）といった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、より専門的なマクロ経済学Ⅱの講義内容を理解するための基礎的素養の習得を目的とする。

（到達目標）

【知識】マクロ経済学の入門的知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な概念を活用できる。

【思考】日本経済の問題点を考察することができる。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション（マクロ経済学とは何か？・講義の進め方についての説明）
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【三面等価の原則】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【名目と実質】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【景気】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【1人当たりGDP】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【所得税・消費税・法人税について】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗と政府の役割】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【日本の財政の問題】
- 14回 第8章 海外に目を向けてみよう【為替レート】【裁定取引】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全10回の授業内容確認テスト（20%）+全3回の課題（30%）+期末試験もしくは期末課題（50%）

経済学入門B 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。
授業課題に取り組みましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内の課題に取り組むにあたって、スマートフォンあるいは携帯用パソコンが必要ですので持参しましょう。
授業時間内の課題に取り組むにあたって、電卓の持参を推奨します。
毎回、Moodleコースを閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学

情報科学入門 【夜】

担当者名 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要な初歩的の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身につけることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

- 【知識】他の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身につける。
- 【技能】基本的なフローチャートの作成方法やプログラミングについての技能を身につける。
- 【思考・判断・表現力】フローチャートやプログラミングの知識を活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身に付ける。

教科書 /Textbooks

毎回資料（ファイル）を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行機著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス 【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)
- ・ 遠隔授業の場合、PCが必要となりますので準備をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フローチャート、プログラミング、Python

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説します。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義します。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問であります。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してください。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにあります。

教科書 /Textbooks

岡部勝成編著『入門簿記のエッセンス』（中央経済社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に沿って、予復修を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

欠席すると分からなくなりますので出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

指定テキストと電卓を持参してください。

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【金融とは】
- 2回 金融市場の基礎知識【金融市場の機能】【直接金融と間接金融】
- 3回 金融機関の役割【資産変換】【信用創造】
- 4回 金融機関の分類と再編【金融持ち株会社】
- 5回 金融市場の基礎知識【相対型取引】【市場型取引】
- 6回 短期金融市場と長期金融市場【コール市場】【株式市場】
- 7回 金融市場の変化【日本版ビックバン】
- 8回 株式市場と社債市場の変化【PTS】【格付け会社】
- 9回 金融規制【戦後の金融規制】【護送船団方式】
- 10回 不良債権問題と銀行破綻【不良債権とは】【預金保険制度】
- 11回 ブルーデンス政策【事前規制】【事後規制】
- 12回 市場型間接金融【市場型間接金融とは】【アンバンドリング】
- 13回 投資信託【投資信託の仕組み】【投資信託のメリット】
- 14回 資産の流動化と証券化【証券化とは】【SPV】
- 15回 シンジケートローン【シンジケートローンの役割】【メリット・デメリット】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容確認課題... 50%、期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

レジユメをMOODLEから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

前半は、「金融論（金融論I）」で学習した基礎をより詳細に学習する。後半では、経済理論を応用した理論分析を行う。また、研究者による研究内容を紹介しながら、銀行行動について学習する。講義の最後には、バブル経済とバブル崩壊後の日本経済とその時の金融政策について学習し、理論と現実の接点を学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融の仕組み①【資金余剰主体と資金不足主体】
- 3回 金融の仕組み②【金融仲介の役割】
- 4回 金融制度①【企業—銀行間取引】
- 5回 金融制度②【金融機関規制】
- 6回 金融市場①【日本の金融市場】
- 7回 金融市場②【個々の金融市場とマクロ的視点】
- 8回 金融機関の機能①【銀行の最適化行動】
- 9回 金融機関の機能②【信用割当て】
- 10回 金融機関の機能③【情報の非対称性】【逆選択とモラルハザード】
- 11回 金融機関の機能④【均衡信用割当の理論】
- 12回 金融政策①【金融政策の手段】
- 13回 金融政策②【2段階アプローチ】
- 14回 バブル期とバブル崩壊後の日本経済と金融政策①【バブル経済】【貸し渋りと貸し剥がし】
- 15回 バブル期とバブル崩壊後の日本経済と金融政策②【ゼロ金利政策】【量的緩和政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容確認課題... 50%、期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジユメを印刷し、目を通しておく。
講義後に復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論（金融論I）」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジユメをMOODLEから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

（到達目標）

【知識】

環境経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自律的行動力】

環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・藪田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンス】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。

経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。なお、各講義の最後に、練習問題を解答・提出し、次の回でその解説をして理解を深めることがある。

(到達目標)

【知識】 国際金融に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】 国際金融の諸問題を理解するために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 国際金融の諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
- 3回 国際収支表 【フロー統計】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
- 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
- 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
- 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
- 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
- 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
- 15回 まとめと総復習 【24時間ダイニング】

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。授業の後には、講義内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習、復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることがを目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

(到達目標)

【知識】国際金融に関する専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】国際金融の諸問題について、自分の見解を導き出すために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】国際金融の諸問題について、総合的かつ論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を適切な方法で発信することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
- 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
- 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
- 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
- 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
- 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
- 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
- 9回 国際的な金融危機の類型 【資本収支型の危機】
- 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
- 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
- 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
- 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
- 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
- 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。(予習、復習、それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学II、経済地理学特講や地域経済I・II、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習と課題
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習と課題
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1)【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2)【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

中国経済【夜】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済	ECN350M
------	---------

授業の概要 /Course Description

到達目標

- ①豊かな「知識」：中国経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
- ②次代を切り開く「思考・判断・表現力」：中国経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
- ③社会で生きる「自立的行動力」：中国経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

授業概要

テキスト内容に沿ってマクロ的視点とミクロ的視点に分けて解説を加えていく。まずマクロ的視点としてテキストに記述されているように①「近年注目を集めている中国のGDP統計の信頼性をめぐる議論を整理し、中国の経済統計を読み解く上で必要なリテラシーについて解説する」、②「グローバル経済と中国の国内経済との相互関係について、人民元の国際化の観点から解説する」、③「従来の高成長を支えてきた<投資依存経済>の性質の問題点とそこからの脱却に向けた新たな成長パターンへの転換の可能性について解説する」、④「中国経済の問題点として注目されている地域格差・所得格差の現状や地方政府の債務拡大問題」について解説を加えていく。次にミクロ的視点としてテキストに記述されているように①「近年学術界で注目を集めている農村の余剰労働力の枯渇、いわゆるルイスの転換点をめぐる論争を整理し、労働力不足が今後の中国経済に与える影響について解説する」、②「今後の中国経済に大きな影響を与える国有企業改革の行方、「ゾンビ企業」と呼ばれる生産性の低い国有企業が過剰な生産設備を抱え込み、成長の足かせになっていることなどについて解説する」、③「脆弱な財産権保護、貫徹しない法の支配、説明責任を持たない政府の経済への介入といった中国経済の<制度>的特徴を背景として、なぜイノベーションが生じるのか、そしてその持続可能性について解説する」、④「中国に進出した日本企業は以前よりビジネス慣行の違いなどから様々な問題に直面している」といった内容について理解を深めていける解説を加えていく。

併せて、新聞や経済雑誌のトピックスを取り上げ概説していく予定である。

* コロナ禍、新年度4月以降の授業実施に関してオンライン授業の場合、Teamsを使って授業を進めていく予定です。Wi-Fi環境を確認しておいてください。対面授業の場合、履修の皆さんにテキストの内容をまとめ、発表してもらい、理解を深めていきたいと思っております。

教科書 /Textbooks

梶谷懐『中国経済講義』（中公新書）、中央公論新社、2018年、880円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

中国経済【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの内容に沿って解説を加えていくと共に、中国経済の今をより理解していく手掛かりとして新聞や経済雑誌のトピックスに関しても概説を加えていく予定である。

第1回：オリエンテーション、中華人民共和国建国以降の経済発展過程を東アジア全体の中でのプレゼンスの変遷

第2・3回：序章中国の経済統計は信頼できるか、①GDP統計は擬装されているのか、②誤差が生まれた理由

第4・5回：第1章金融リスクを乗り越えられるか、①変調を招いたデット・デフレーション、

②人民元の国際化と「トリレンマ」、③トランプ・ショック

第6・7回：第2章不動産バブルを止められるのか、①資本過剰経済に陥った理由、②不動産市場のバブル体質

第8・9回：第3章経済格差のゆくえ、①個人間の所得格差の拡大、②地域間経済格差の変動と再分配政策、

③中国経済に立ちはだかる「ユーロ圏の罫」

第10・11回：第4章農民工はどこへ行くのか—知らざざる中国の労働問題、①中国の労働市場と農民工、

②ルイスの転換点と新型都市化政策、③「まだらな発展」が労働者にもたらすもの

第12・13回：第5章国有企業改革の行方—「ゾンビ企業」は淘汰されるのか、

①国有企業は特権を享受しているのか、②台頭する民間企業と国有企業の行方

第14・15回：第6章共産党体制での成長は持続可能か—制度とイノベーション

成績評価の方法 /Assessment Method

①期末定期試験（到達目標に掲げた項目に関して確認する試験内容）：50%

②学習レポート（課題取組の仕上がり内容<所定の授業外学習時間に取り組んだ内容であるかどうか評価基準とする>）：50%
を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回学習レポートを課す（12回程度実施予定）

学習レポートの内容は①授業準備としてテキストを読み、それに関する設問への解答、②新聞を毎日眺め、中国に関する記事のタイトルの列挙、③予備知識としての中国経済に関するキーワード調べなどを実施する予定である。

履修上の注意 /Remarks

学習レポートの実施内容については授業外学習時間を確保するための学習課題の分量を課します。そのため学習レポート取組に当たって、毎日コツコツと課題をこなす必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国経済の理解を深めていくには「いま」を知ることが必要です。新聞を毎日眺め、中国に関する記事を探してみましょう。あわせて、世界の経済動向や日本の経済動向についても興味関心を向けてみましょう。

キーワード /Keywords

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

金融市場は、事業や消費のために資金を必要とする資金不足主体が、余剰資金を有する主体から資金を調達する場であり、経済活動の活性化や貯蓄手段の提供など非常に重要な役割を果たしている。金融取引を行うためにさまざまな証券が発行され、投資家間で売買されるとともに、金融市場で価格が形成されている。本講義では、金融市場を理解するための基礎的な内容を解説する。講義の前半では、証券の種類や発行規模、証券の発行主体である企業の行動とその分析方法など、基礎知識の理解に重点を置く。後半では、株式価値計算やポートフォリオの効果など、金融市場のメカニズムを理解し、適切な貯蓄や企業経営を行うための基礎的な理論・計算を学習する。本講義は、2年次以降に配当される企業ファイナンスI・II、証券市場論、企業評価論I, IIの基礎となる。

【到達目標】

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

技能：ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

思考・判断・表現力：ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹『コーポレート・ファイナンス』創成社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス【講義の目的・概要、金融市場、成績評価方法】
2. 証券の基礎①【債券、株式、発行市場、流通市場、リスク、リターン】
3. 証券の基礎②【国債、イールドカーブ、社債、IPO、公募、私募、第三者割当、投資家】
4. 企業形態と株式会社【有限責任、無限責任、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
5. 企業金融と財務諸表①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、資金調達、投資、配当】
6. 企業金融と財務諸表②【自己資本比率、ROA、ROE、PBR、PER、配当性向、配当利回り】
7. リスク・リターンの基礎【期待収益率、標準偏差、レバレッジ効果】
8. 中間試験
9. 現在価値計算【現在価値、複利、利子率、割引率、リスクプレミアム】
10. 債券価値の評価【債券価格、利付債、割引債】
11. 株式価値の評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
12. ポートフォリオ理論①【共分散、相関係数、リスク資産、リスク分散、有効フロンティア】
13. ポートフォリオ理論②【安全資産、CML、シャープレシオ】
14. CAPM【リスク・リターン、ベータ、システムティック・リスク、SML】
15. 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

企業論基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料を読んでおくこと。講義終了後、必ず復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 岸野 早希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

皆さんは大学を卒業後、多くの時間を企業組織において過ごすことになります。その企業組織内では日々の人々の相互作用のなかで多くの現象が起こっています。その現象を捉えるとともに、それぞれの現象に対してどのような管理がなされているのかということを中心に学んでいきます。

(到達目標)

【知識】 経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】 経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ
上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明『経験から学ぶ経営学入門：第2版』有斐閣
開本浩矢(編)『入門組織行動論:第2版』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 企業で働くこととは
3. 組織への適応
4. 組織文化
5. モチベーションと規則の関係①
6. モチベーションと規則の関係②
7. キャリア開発
8. リーダーシップ
9. 集団のダイナミズム
10. コンフリクト・マネジメント
11. 組織デザイン
12. 環境のマネジメント
13. 組織変革
14. 経営理念
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前配布のレジュメに目を通すこと。

マネジメント論基礎【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義のレジユメはWeb上でダウンロードして持参してください(初回の講義で案内します)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【夜】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き生きと働けるようにするという事を人事管理制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書：奥林康司・上林憲雄・平野光俊（2010）編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社。
その他適宜配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献：平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア。

人的資源管理論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
- 第2回 経営学の中での人的資源管理論（1）
人的資源管理論とはどういう分野なのか，隣接研究分野との関係等から学びます。
- 第3回 経営学の中での人的資源管理論（2）
人的資源管理論の主役はあくまでも人事管理というシステムです。この考え方について学びます。
- 第4回 人事等級制度
人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
- 第5回 人事考課制度と賃金制度（1）
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
- 第6回 人事考課制度と賃金制度（2）
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，賃金制度について考課制度と関連付けながら学びます。
- 第7回 能力開発
企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
- 第8回 雇用管理
日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
- 第9回 労働時間（1）
ここまで学んだ日本企業における人事管理の特徴から，労働者の働き方にどのような特徴が出てくるのか，労働時間に着目しながら考えていきます。
- 第10回 労働時間（2）
日本労働者の労働時間について，今どのような問題が出てきているのか，それはどのような文脈からなのか，これらについて考えていきます。
- 第11回 労使関係と福利厚生制度
日本的労使関係の特徴および，日本企業における福利厚生の特徴とその変化について学びます。
- 第12回 非正規労働者
近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に非正規労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。
- 第13回 女性労働者
近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に女性労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。
- 第14回 高齢労働者
近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に高齢労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。
- 第15回 まとめ
全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論【夜】

担当者名 /Instructor 森 祐司 / Yuji Mori / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	証券市場の仕組の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

証券市場論では、証券市場で取引される金融資産・金融商品の特徴のほか、企業の資金調達や投資活動などの基礎理論を学び、企業や家計の証券市場での資産選択、証券価格の理論などを習得できるように、具体的事例を交えながら解説をしていく。また近年における証券市場に関連するトピックを取り上げて解説を行う

到達目標

- 【知識】証券市場に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】証券取引に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】証券市場に関する諸問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に発信することができる。

教科書 /Textbooks

堀江康熙・有岡律子・森祐司『テキスト金融論（第2版）』新生社、2021

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 釜江廣志(編)(2015)『入門証券市場論(第3版補訂)』有斐閣.
- 小林 孝雄・芹田敏夫(2009)『新・証券投資論Ⅰ—理論篇』日本経済新聞出版社.
- 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣(2009)『新・証券投資論Ⅱ—実務篇』日本経済新聞出版社.
- 手嶋宣久(2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社.
- 花枝英樹(2005)『企業財務入門』白桃書房.

証券市場論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容 (授業の進捗状況によって繰り越したり、スキップしたりする場合もあるので注意すること。)

- 1: 証券市場論の概要・金融取引と金融市場での価格決定
- 2: 債券(1)債券の種類、利回り
- 3: 債券(2)債券価格、金利の期間構造、債券投資のリスク
- 4: 株式会社、株式市場、株式の理論価格
- 5: 金融資産のリターンとリスク(1) 投資家の効用、ポートフォリオ理論
- 6: 金融資産のリターンとリスク(2) CAPM、分散投資と市場リスク
- 7: 金融市場の効率性金融市場と情報、バブル、アノマリーなど
- 8: 行動ファイナンス行動ファイナンスの概要の解説
- 9: 投資信託投資信託の基礎知識、投信と証券市場
- 10: 家計のファイナンス ライフプランニングと証券投資
- 11: デリバティブ金融派生商品の仕組み、デリバティブ市場
- 12: 企業金融の基礎 企業金融の基礎、企業評価
- 13: 企業の投資決定企業の投資決定方法：NPV法、IRR法とプロジェクト評価
- 14: 証券化金融商品とグローバル金融危機 米国の証券化商品とその市場、金融危機の解説
- 15: ESG金融と証券市場 ESG投資の発展、概略、現状と課題

授業形式：レジュメ（電子ファイル）の配布およびオンデマンド動画配信方式で行う。

・ 質問については適宜受け付ける。→質疑応答は、Eメールで行う。

授業進行：授業の進行はレジュメを中心に進めるが、教科書も合わせて説明する。

・ レポート、期末試験も教科書およびレジュメから出題される

成績評価の方法 /Assessment Method

※レポート： 中間にレポートの出題・回収を行う（後日告知）。

※期末試験： 範囲は講義で学習した領域。持ち込み不可。

※評価方法： レポート：30%・試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では毎回の授業の内容をレジュメ、教科書の該当章で確認し予習しておく。

事後学習では毎回、レジュメの最後に復習問題を付けておくので、各自復習問題を解いて復習をすること（レジュメを見れば、すべて回答可能なので、解説時間は設けない。ただし、計算問題のみ、解答例を付けておくので自分で確認すること）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券投資に関する理論や、証券投資に関する実際についても解説していきます。近年、注目を集めた証券市場に関するトピックも紹介する予定です。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、証券投資、債券、株式、投資信託、行動ファイナンス、証券化商品、ESG投資

中小企業論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税収など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9%

(注：経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自律的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中小企業とは
- 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
- 第4回 製造業②…現状と展望
- 第5回 非製造業(流通業、小売業、サービス業など)…現状と展望
- 第6回 外部講師による講和①
- 第7回 ベンチャー企業
- 第8回 新事業展開
- 第9回 人材の確保と育成
- 第10回 海外展開
- 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
- 第12回 外部講師による講和②
- 第13回 資金調達と金融機関の役割
- 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
- 第15回 まとめ

※授業計画・内容に変更があるときは、事前にお知らせします。

成績評価の方法 /Assessment Method

適宜、レポートを課します(50%)。期末試験は行いません。
授業の取り組み具合についても評価の対象とします(50%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府は何を講じようとしていますか。小規模事業者持続化補助金って何ですか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。中小企業は、身近な存在です。
- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
 - ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
 - ・ 自ら起業して経営する。
 - ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。

(到達目標)

【知識】コンピュータシステムに関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】コンピュータシステムの分析と設計に関する手法を身につけている。

【思考・判断・表現力】コンピュータシステムについて、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布し、学習・演習する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する

コンピュータシステム【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 データ集合を効率よくコンピュータ処理する際の形式化【データ構造】
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 情報と情報量、あいまいさ【エントロピー】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【電子自治体】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示され用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容欄に示すように授業内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等積極的に自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

システム分析 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

(到達目標)

【知識】 情報システム分析の理解に必要な専門知識を習得する。

【技能】 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。

【思考・判断・表現力】 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。

【関心・意欲・態度】 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートはMoodleに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○

大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○

平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
- 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
- 3回 システム分析とは
- 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
- 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
- 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
- 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
- 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
- 9回 回帰分析【回帰分析】
- 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
- 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
- 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
- 13回 グループ演習(データ処理)
- 14回 グループ演習(発表)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

システム分析 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに講義ノートをアップするので事前に目を通してください。
課題を出すので、課題に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計」とあわせて受講すれば理解が深まります。
Moodleを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義内容は予め学習支援ホルダーにアップしておくので、予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

財務会計論I【夜】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論 I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式と株主の権利
- 6回 株式会社の機関(1)【機関の概要】
- 7回 株式会社の機関(2)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(3)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(4)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(6)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると考えます。

会社法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

会社法II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
- 8回 自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
- 9回 自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
- 10回 地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
- 11回 地方分権改革②【地方議会と首長】
- 12回 市町村合併①【平成の大合併】
- 13回 市町村合併②【合併の効果】
- 14回 現代の地方自治の動き①【地方分権一括法の動向】
- 15回 現代の地方自治の動き②【地方創生など】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方自治論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化